

第 5 章

小・中学生の調査結果

第5章 小・中学生の調査結果

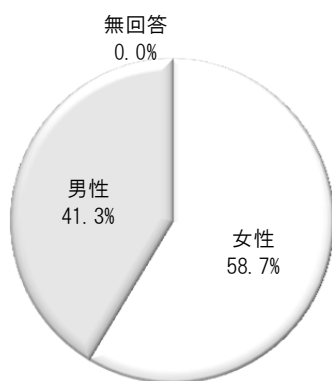
1 基本属性

(1) 小学5年生の属性

通っている小学校は、「国立市立の小学校」（88.9%）、中学校は「国立市立の中学校」（69.1%）、「私立の中学校」（22.3%）となっています。

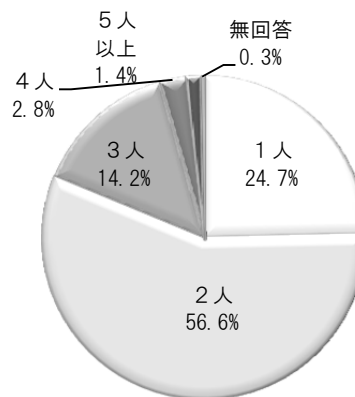
普段の睡眠時間は、小学生は「8時間くらい」（42.4%）、中学生は「7時間くらい」（39.2%）が最も多くなっています。

[問 27] 性別



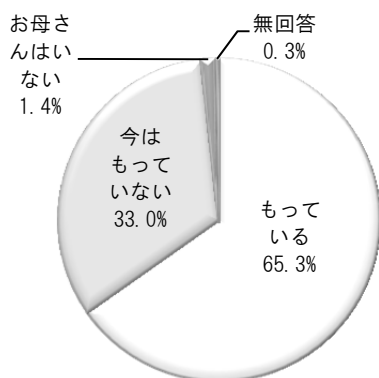
小学5年生
n=288人

[問 28] 兄弟姉妹の人数



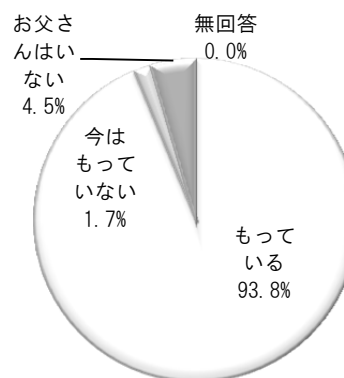
小学5年生
n=288人

[問 29.1] 母親の就労状況



小学5年生
n=288人

[問 29.2] 父親の就労状況



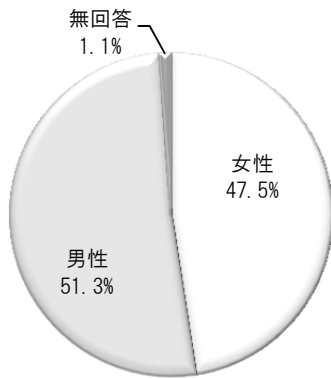
小学5年生
n=288人

(2) 中学2年生の属性

通っている小学校は、「国立市立の小学校」(88.9%)、中学校は「国立市立の中学校」(69.1%)、「私立の中学校」(22.3%)となっています。

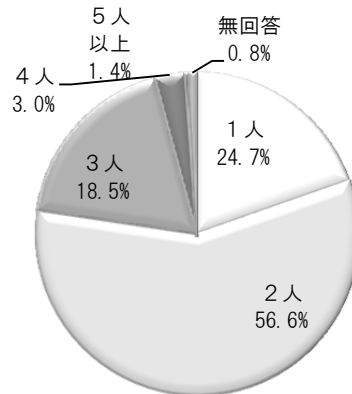
普段の睡眠時間は、小学生は「8時間くらい」(42.4%)、中学生は「7時間くらい」(39.2%)が最も多くなっています。

[問 28] 性別



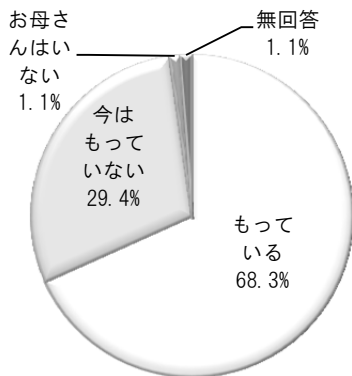
中学2年生
n=265人

[問 29] 兄弟姉妹の人数



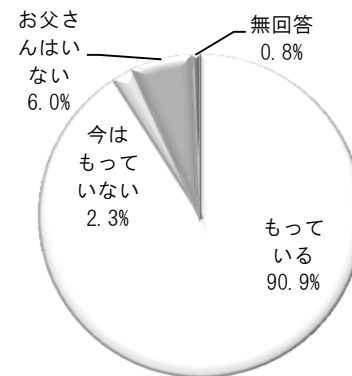
中学2年生
n=265人

[問 30.1] 母親の就労状況



中学2年生
n=265人

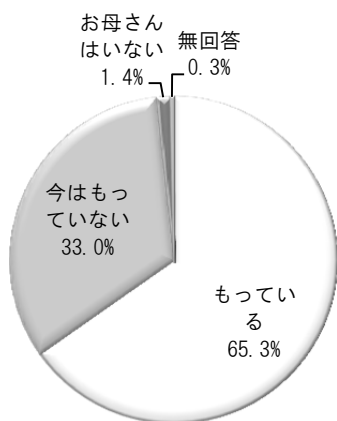
[問 30.2] 父親の就労状況



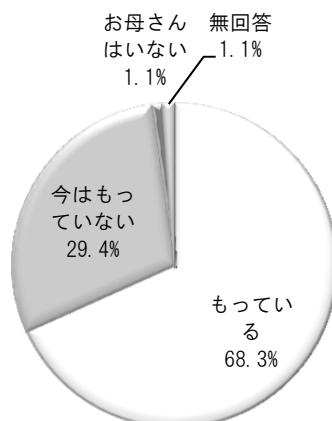
中学2年生
n=265人

母親の仕事の状況は、小学生、中学生「もっている」(65.3%) (68.3%)、父親は「もっている」(93.8%) (90.9%) となっています。
 一緒に住んでいるのは、小学生、中学生「母親」(98.3%) (96.2%)、「父親」(89.6%) (88.7%) となっています。

問 29. 1[問 30. 1] 親は現在仕事を持っているか (母親)

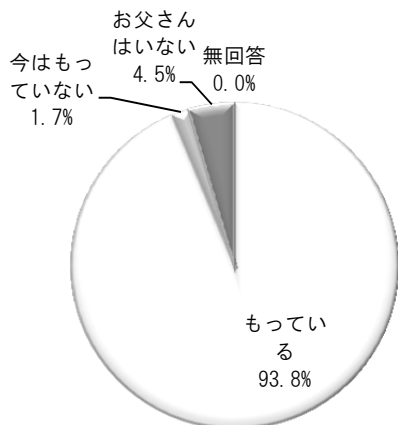


小学校5年生
n= 288人

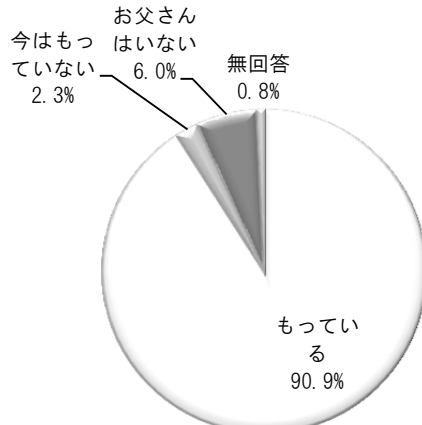


中学校2年生
n= 265人

問 29. 2[問 30. 2] 親は現在仕事を持っているか (父親)

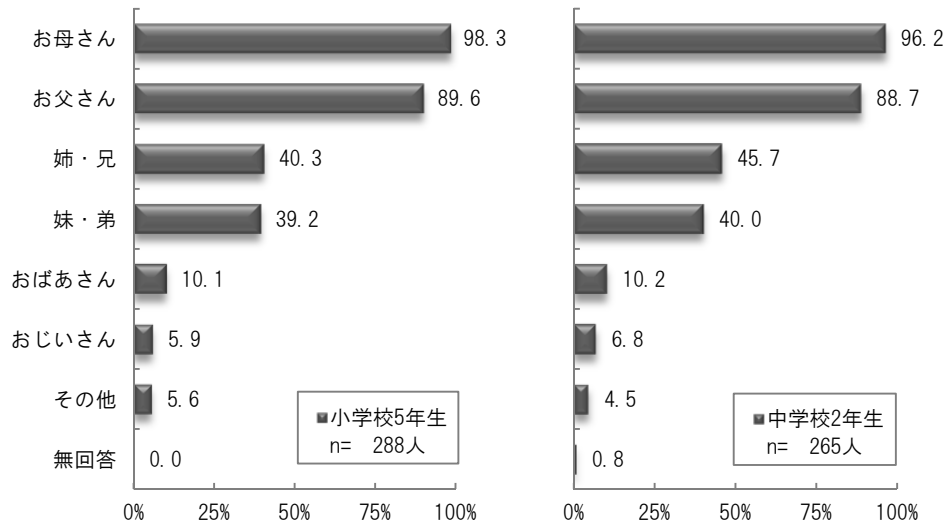


小学校5年生
n= 288人



中学校2年生
n= 265人

問 30[問 31] 誰と一緒に住んでいるか

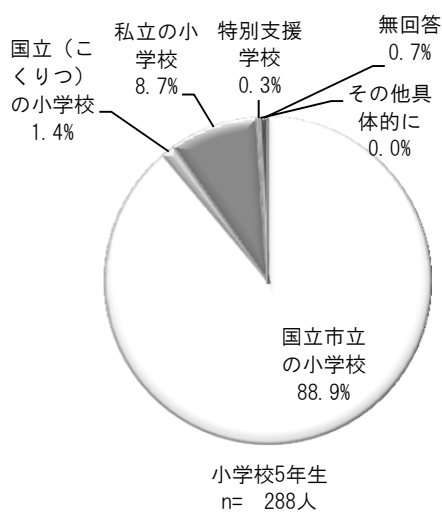


2 普段の生活について

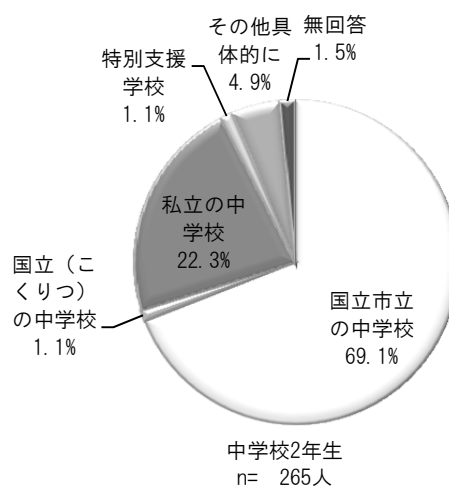
通っている小学校は、「国立市立の小学校」(88.9%)、中学校は「国立市立の中学校」(69.1%)、「私立の中学校」(22.3%)となっています。

普段の睡眠時間は、小学生は「8時間くらい」(42.4%)、中学生は「7時間くらい」(39.2%)が最も多くなっています。

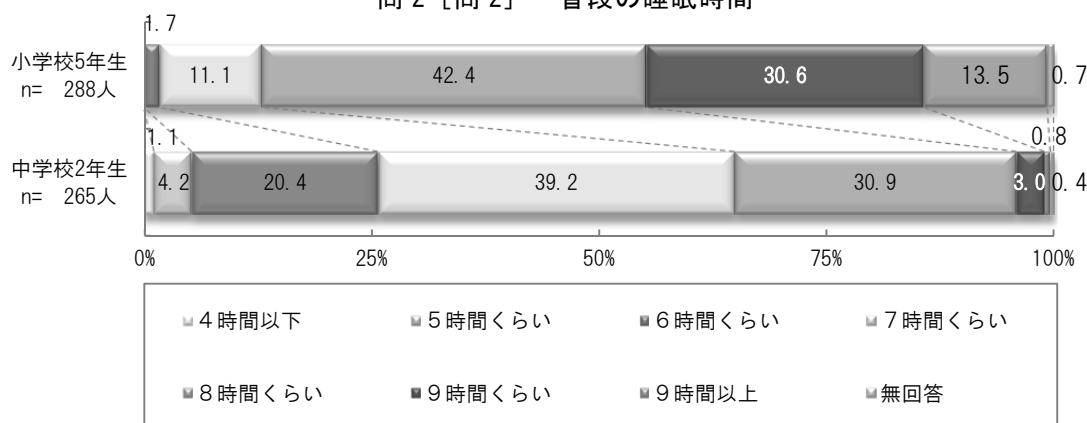
問1 通っている小学校



[問1] 通っている中学校

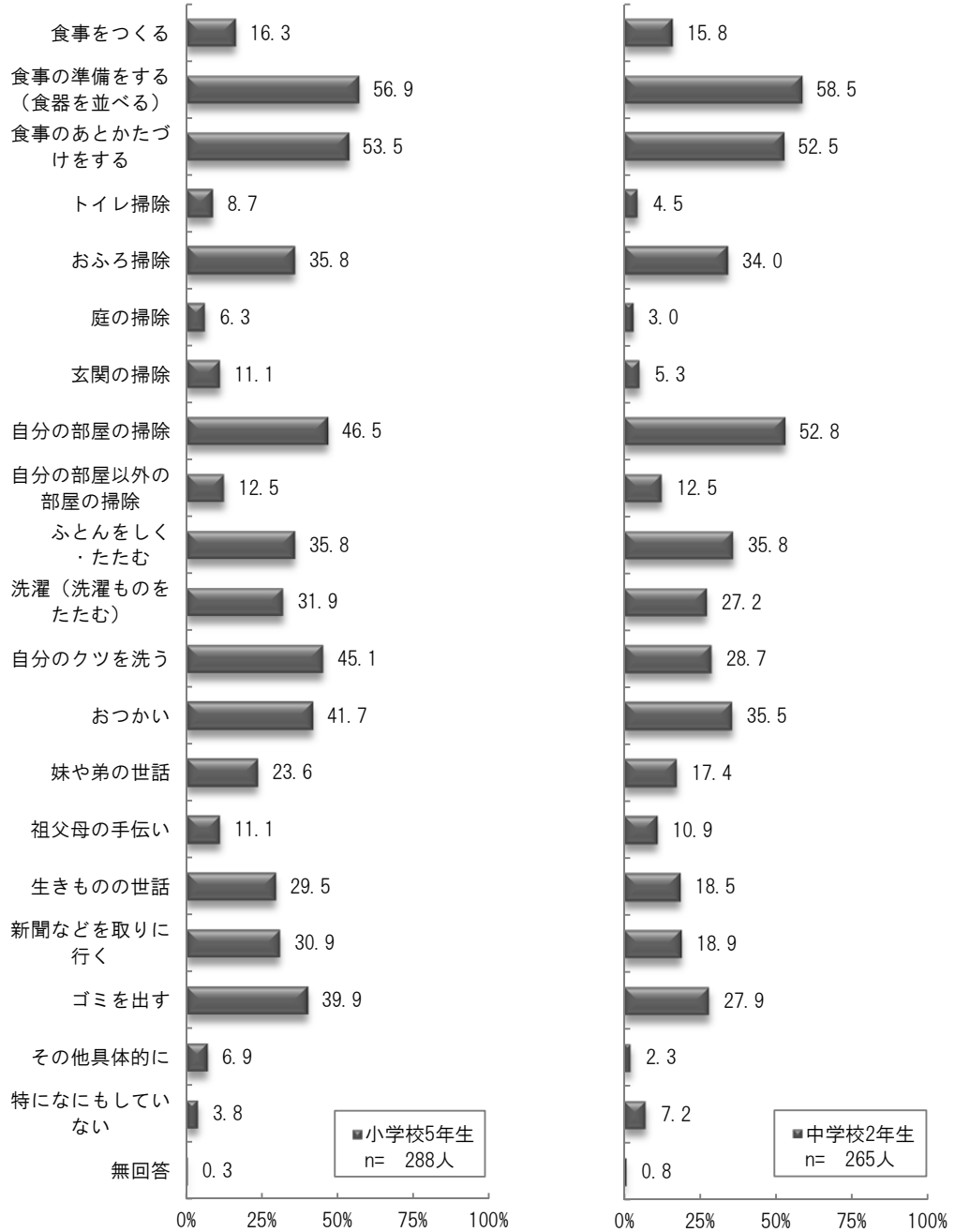


問2 [問2] 普段の睡眠時間



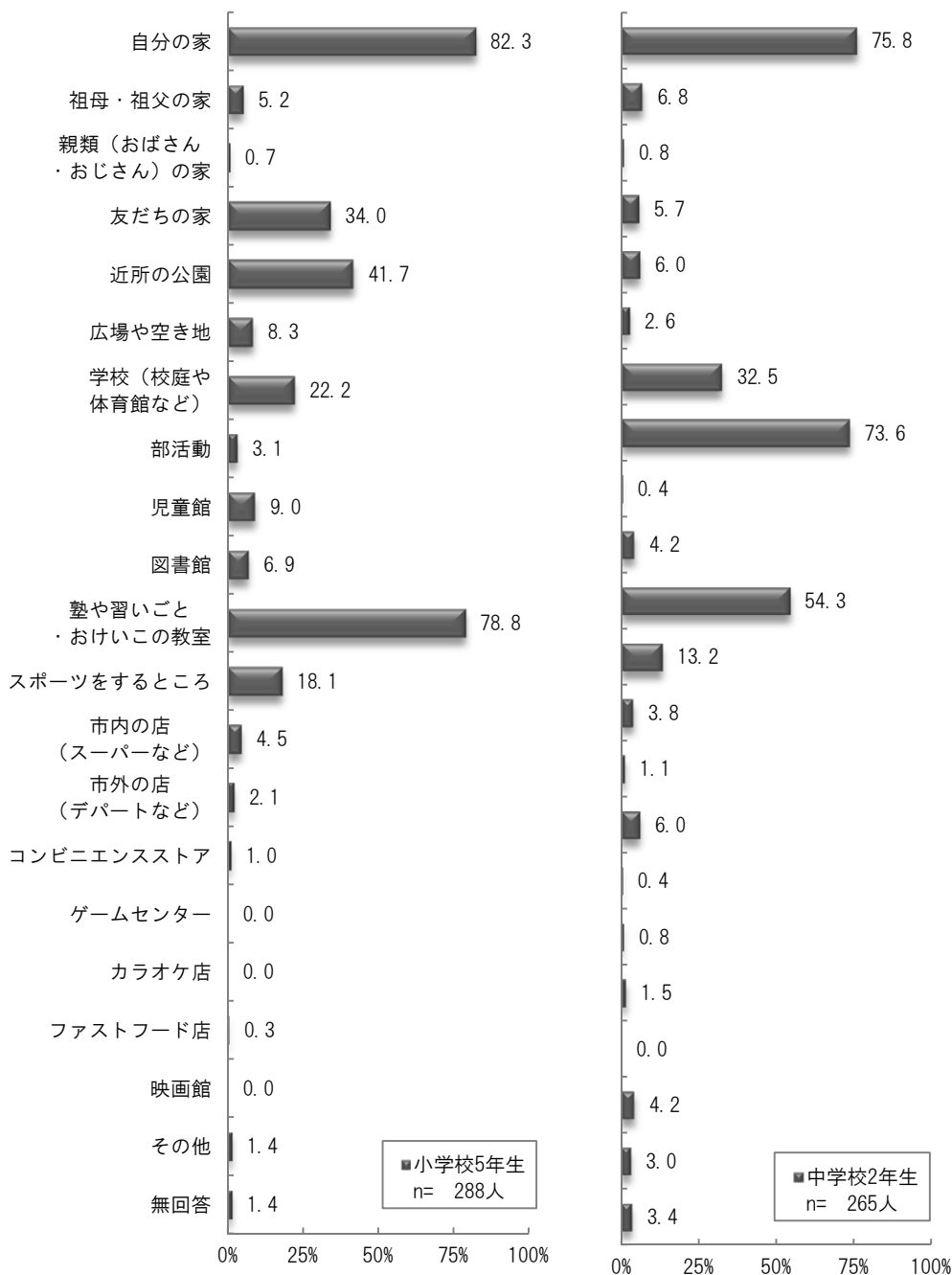
家の手伝いは、小学生、中学生とも「食事の準備をする」(56.9%) (58.5%)
 が最も多く、「食事のあとかたづけをする」(53.5%) (52.5%)、「自分の部屋の
 掃除」(46.5%) (52.8%) となっています。

問3[問3] 家の手伝い



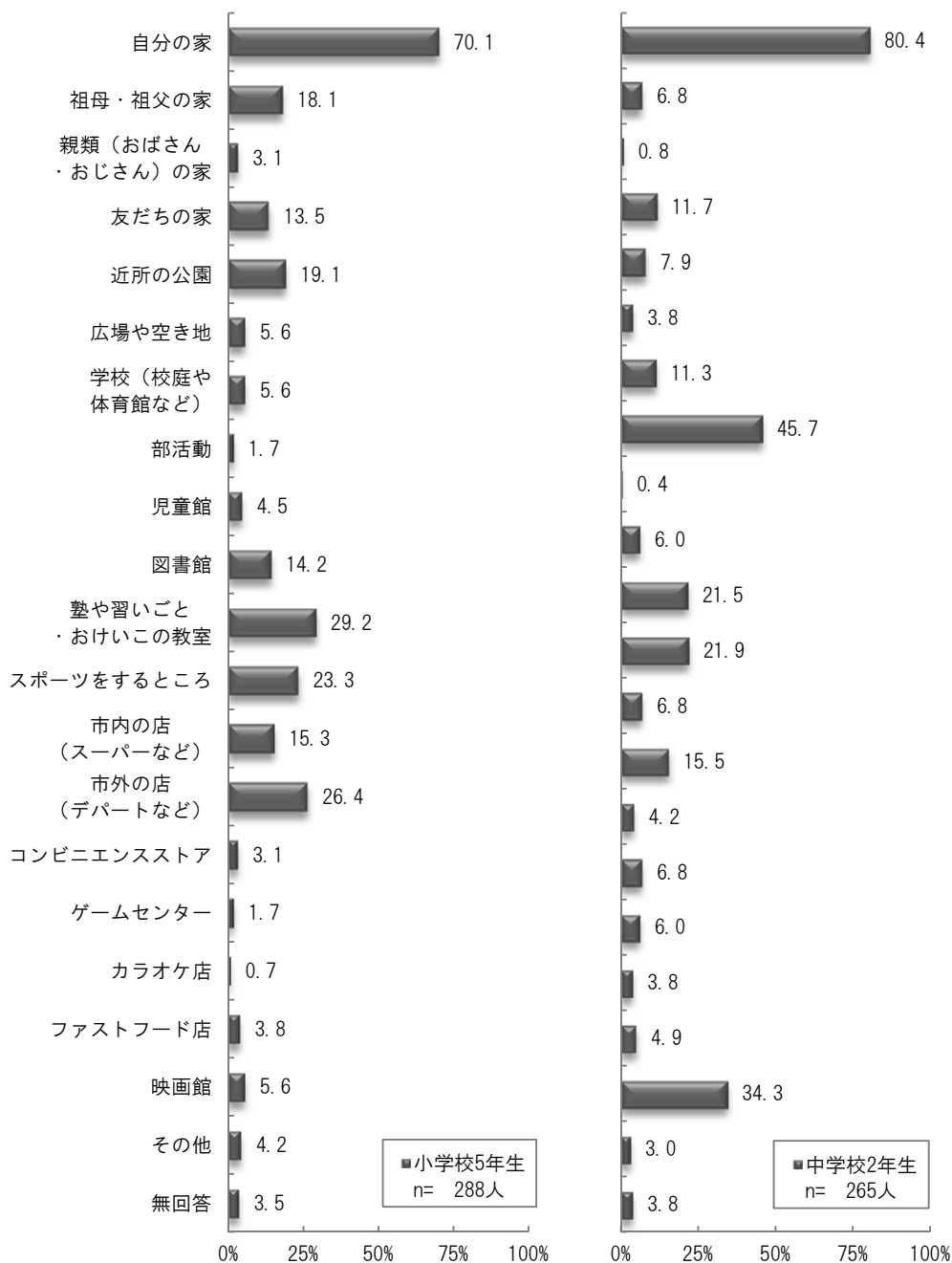
放課後の居場所は、小学生「自分の家」(82.3%)が最も多く、次いで「塾や習いごと、おけいこの教室」(78.8%)、「近所の公園」(41.7%)となっています。中学生「自分の家」(75.8%)で最も多く、次いで「部活動」(73.6%)、「塾や習いごと、おけいこの教室」(54.3%)となっています。

問 4-1.1[問 4-1.1] 放課後の居場所 (平日)



放課後の居場所（休日）は、小学生「自分の家」（70.0%）が最も多くなっています。中学生「自分の家」（80.4%）で最も多く、次いで「部活動」（45.7%）、
「映画館」（34.3%）となっています。

問 4-1.2[問 4-1.2] 放課後の居場所（休日）

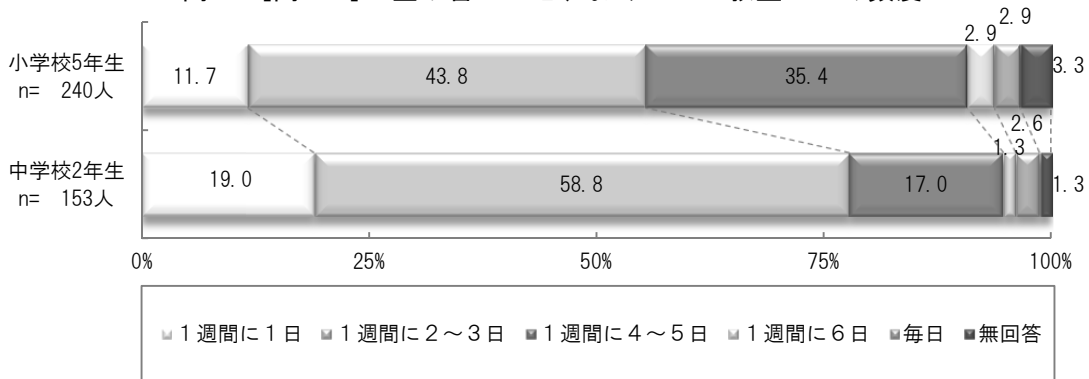


塾や習いごと、おけいこの教室に行く頻度は、小学生、中学生ともに「1週間に2～3日」(43.8%) (58.8%) が最も多くなっています。

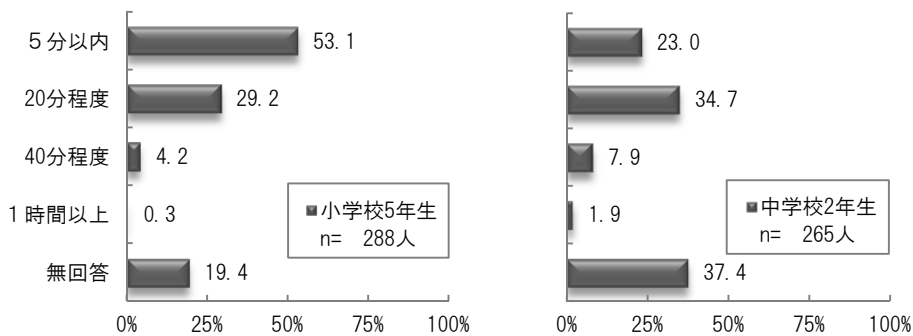
外で遊ぶときの場所(徒歩)から家までは、小学生「5分以内」(53.1%)、中学生「20分程度」(34.7%)が多くなっています。また、自転車でも同じ傾向となっています。バスは無回答が多くなっています。

現在力を入れていることは、小学生「趣味・習いごと」(59.4%)が最も多く、次いで「勉強」(51.4%)となっています。中学生「部活動」(70.6%)が最も多く、次いで「勉強」(57.4%)、「パソコン・インターネット」(35.1%)となっています。

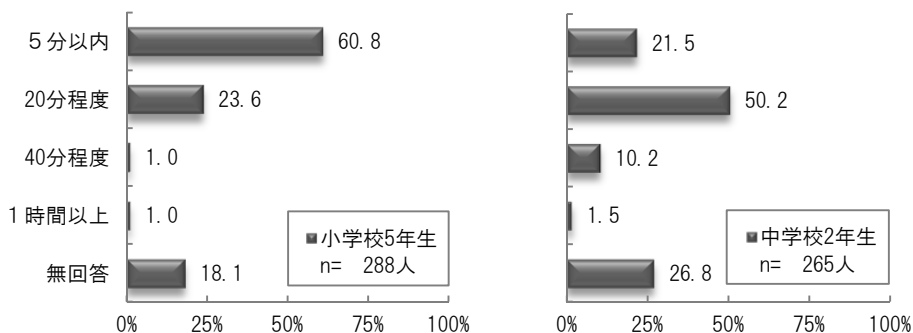
問 4-2 [問 4-2] 塾や習いごと、おけいこの教室に行く頻度



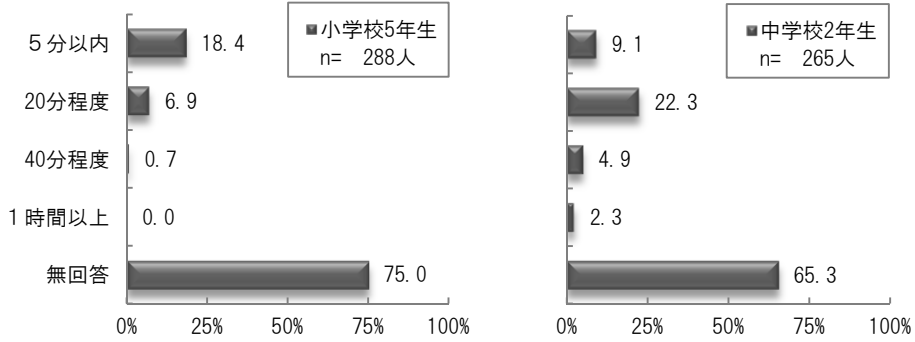
問 5.1 [問 5.1] 家からどのくらい離れた場所で遊ぶか (徒歩)



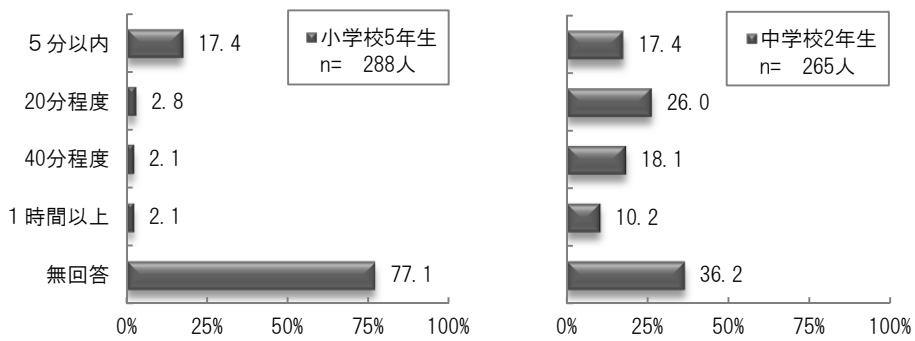
問 5.2 [問 5.2] 家からどのくらい離れた場所で遊ぶか (自転車)



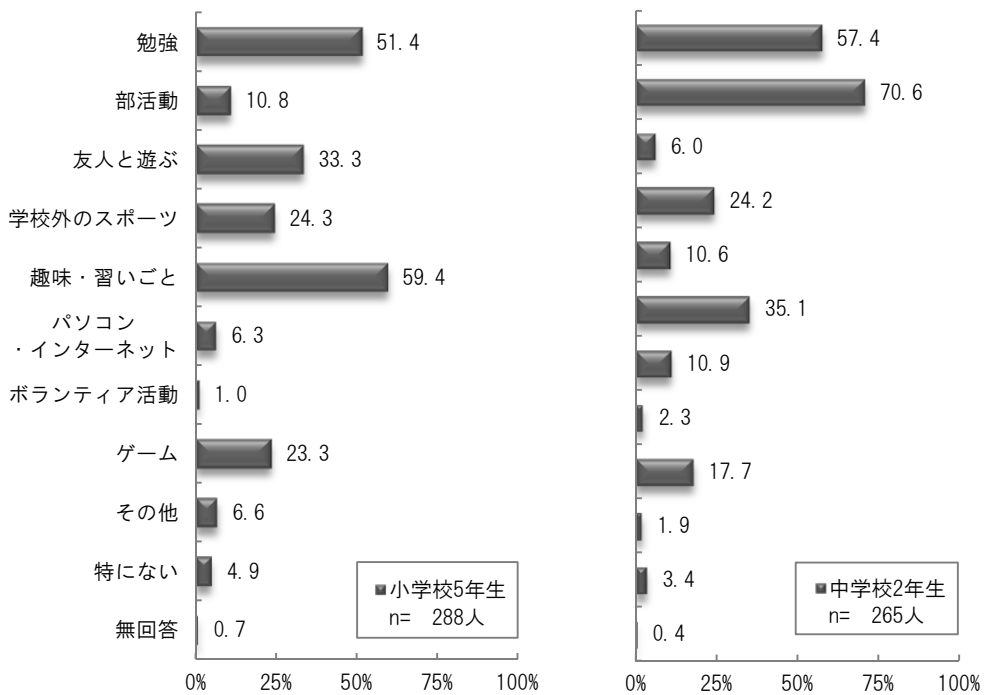
問 5.3[問 5.3] 家からどのくらい離れた場所で遊ぶか（バス）



問 5.4[問 5.4] 家からどのくらい離れた場所で遊ぶか（電車）

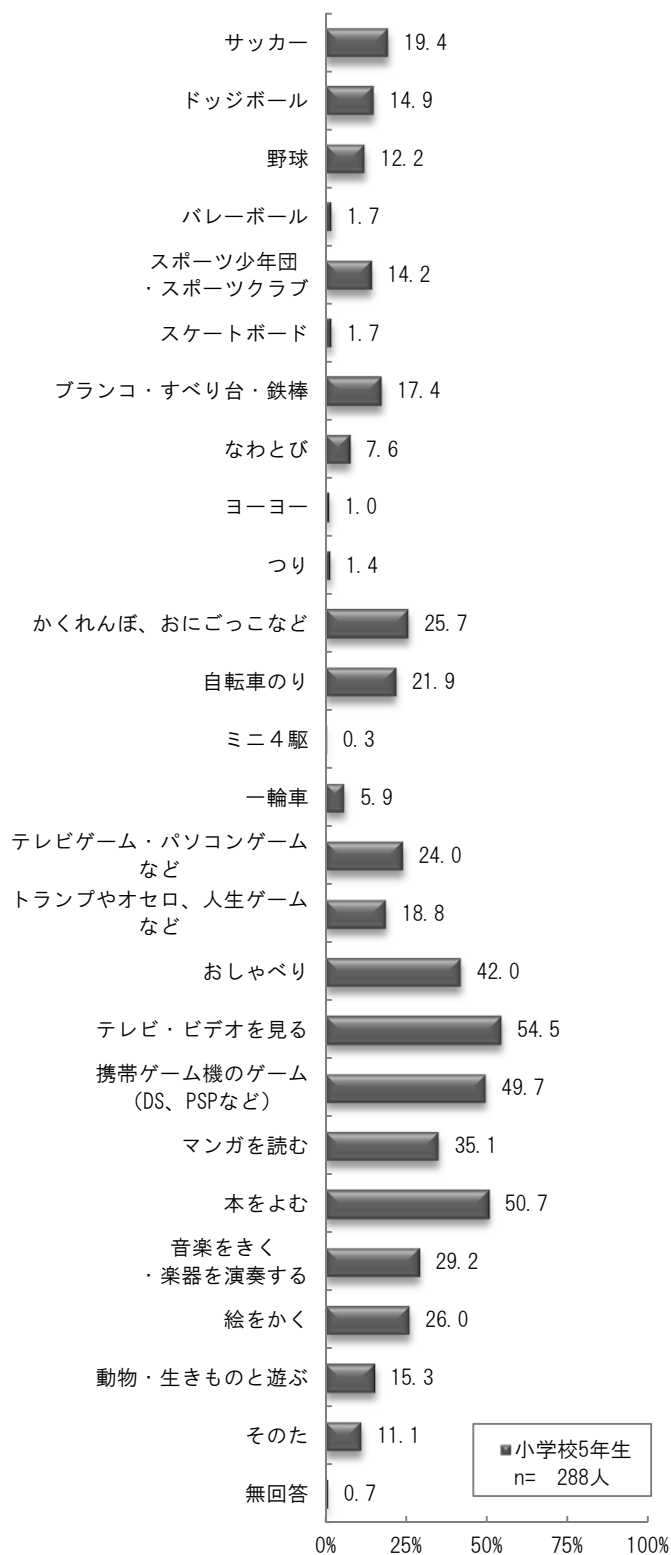


問 6[問 6] 現在力を入れている事柄



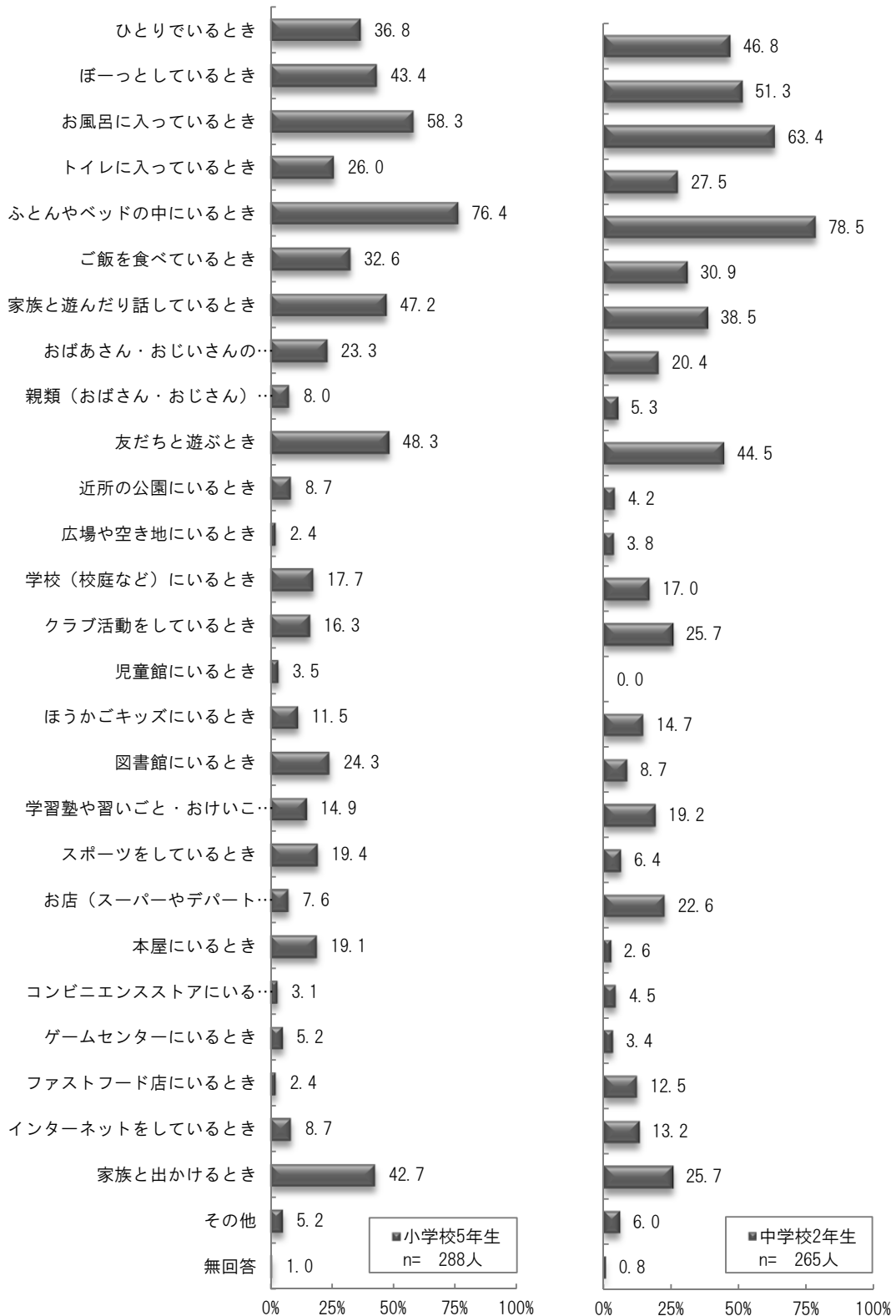
平日、休日に遊んでいることは、小学生「テレビ・ビデオを見る」(54.5%)が最も多く、次いで「本を読む」(50.7%)、「携帯ゲーム機のゲーム」(49.7%)となっています。

問7 平日・休日に何をして遊んでいるか



ほっとできるときは、小学生、中学生とも「ふとんやベッドの中にいるとき」(76.4%) (78.5%) が最も多く、次いで「お風呂に入っているとき」(58.3%) (63.4%) となっています。

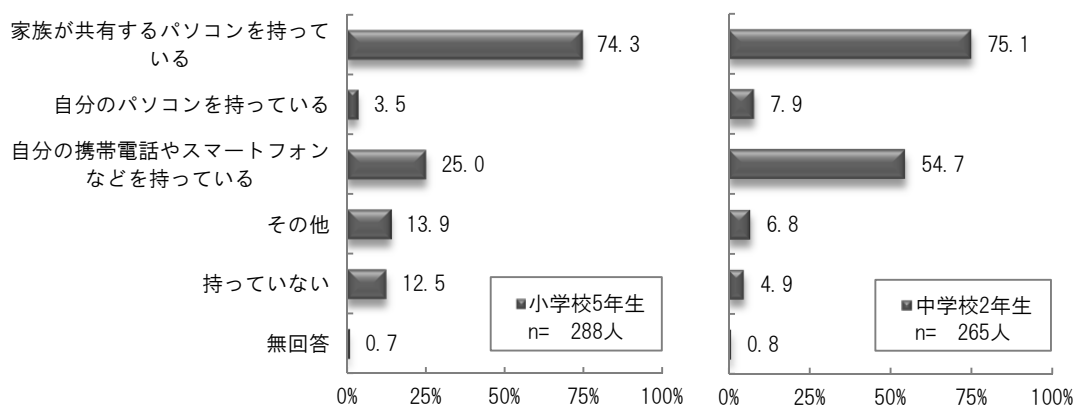
問 8[問 7] ほっとできるとき



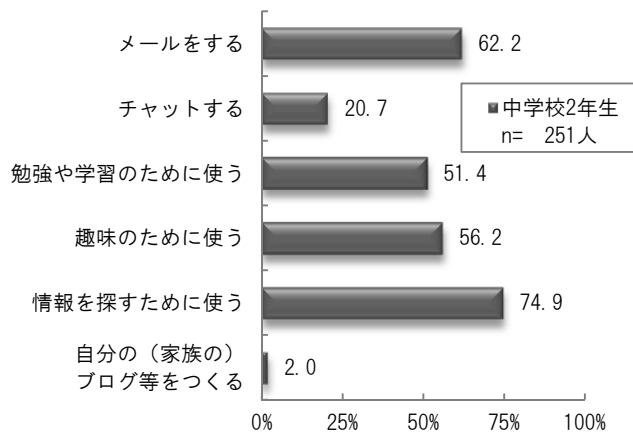
インターネットができるものの所持は、小学生、中学生とも「家族が共有するパソコンを持っている」(74.3%) (75.1%) が最も多く、次いで「自分の携帯電話やスマートフォンなどを持っている」(25.0%) (54.7%) となっています。

インターネットの使用用途は、中学生「情報を探すために使う」(74.9%) が最も多く、次いで「メールをする」(62.2%)、「趣味のために使う」(56.2%) となっています。

問 9[問 8-1] インターネットの所持状況



[問 8-2] インターネットの使用用途

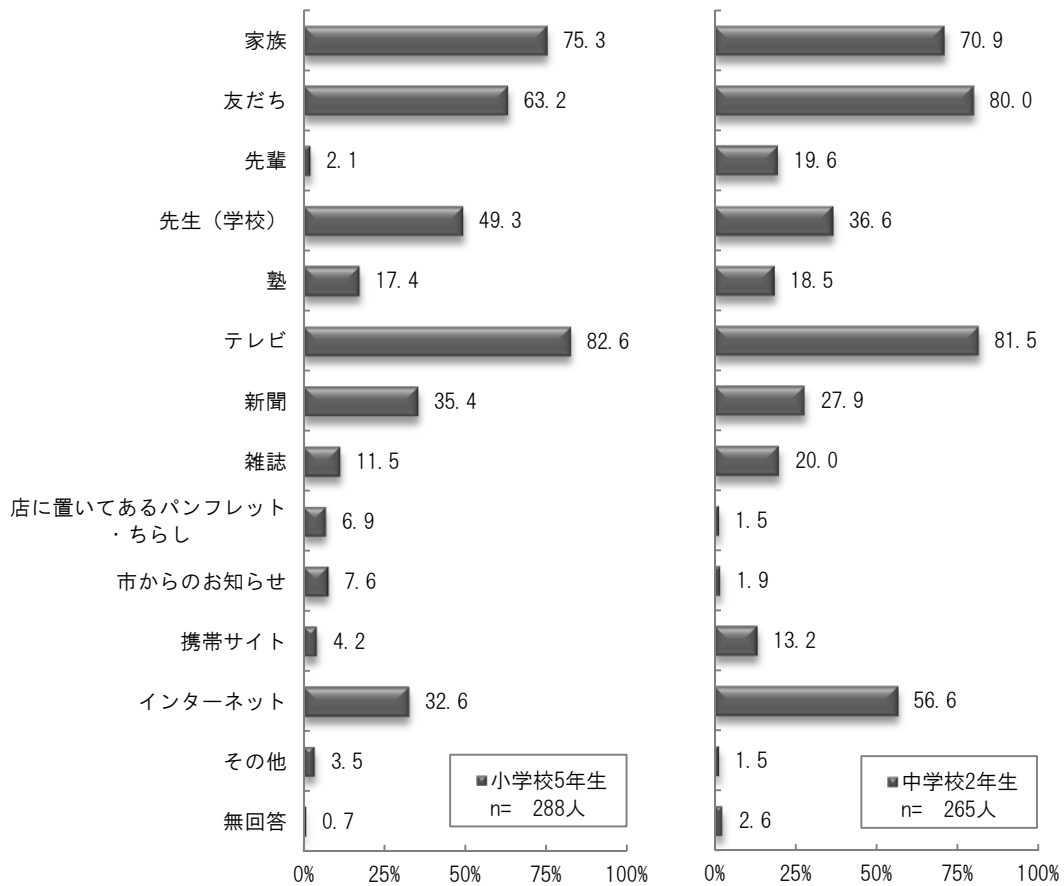


必要な情報の入手先は、小学生、中学生ともに「テレビ」(82.6%) (81.5%) が最も多く、「家族」(75.3%) (70.9%)、「友だち」(63.2%) (80.0%) が多くなっています。また中学生は「インターネット」(56.6%) で多くなっています。

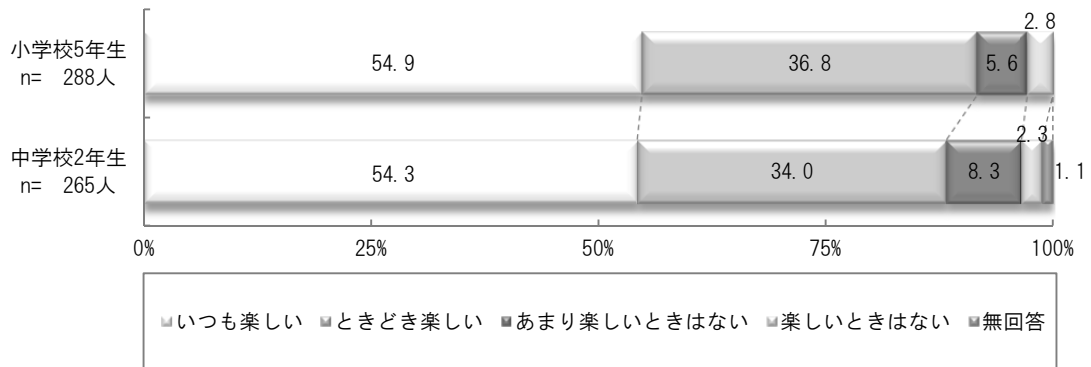
学校については、小学生、中学生ともに「いつも楽しい」「ときどき楽しい」をあわせると、約9割となっています。

楽しくない理由は、小学生「なんとなく」(54.2%)、「苦手な教科の授業があるので」(29.2%) となっています。中学生「なんとなく」(46.4%)、「友だちとうまくいかないの」(42.9%)、「テストがあるので」(35.7%) となっています。

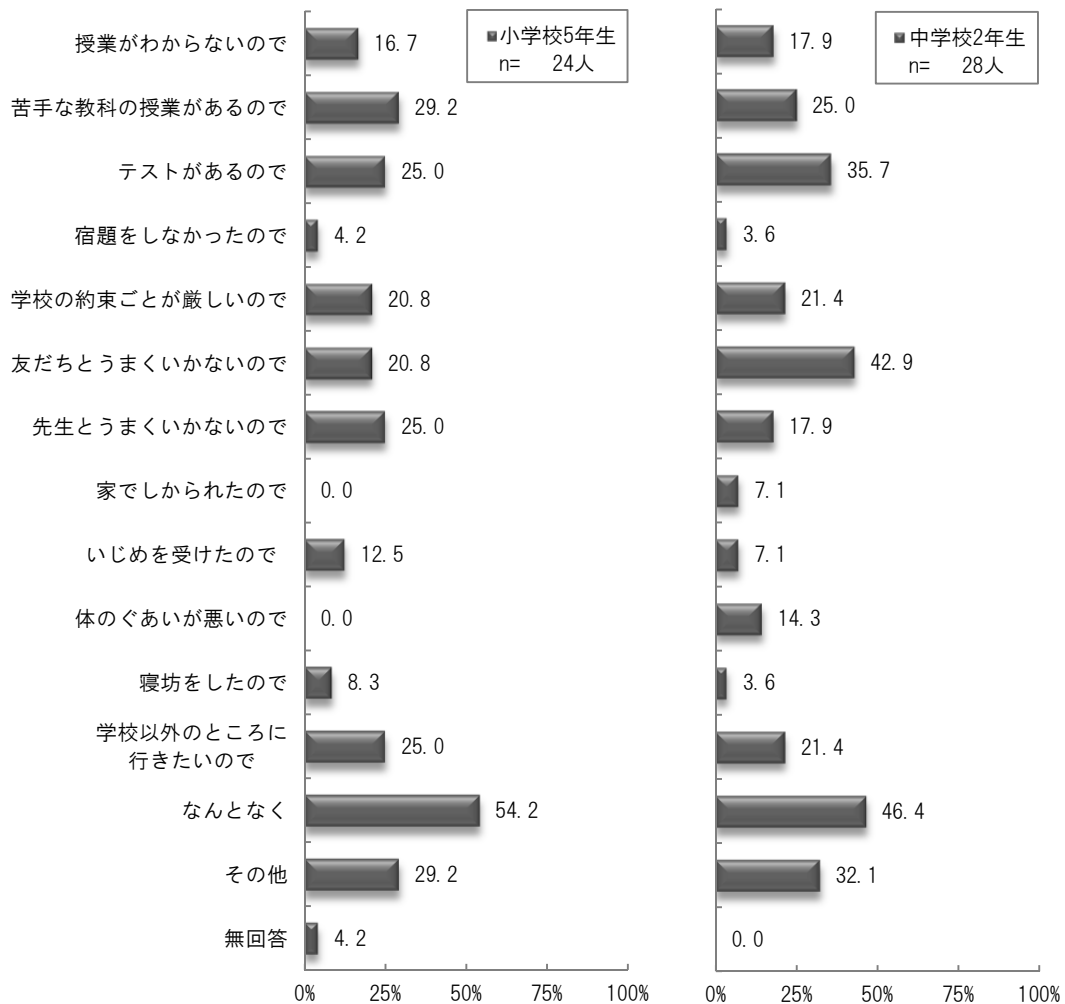
問 10[問 9] 必要な情報をどこから入手しているか



問 11-1[問 10-1] 学校に行くことは楽しいか



問 11-2[問 10-2] なぜ楽しくないのか

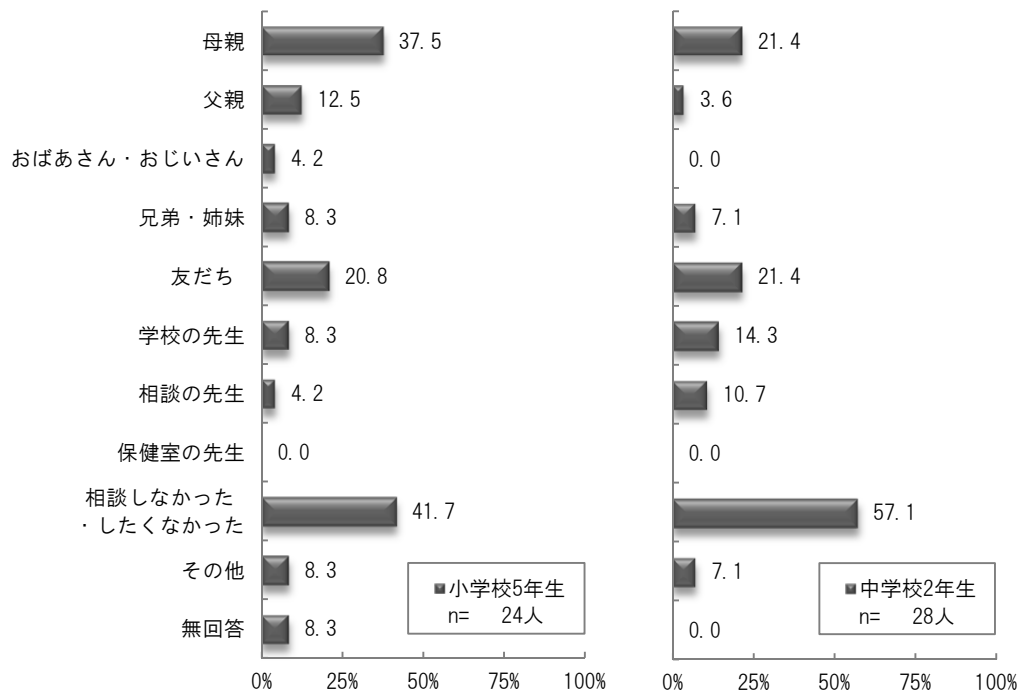


楽しくないことの相談の有無は、小学生、中学生ともに「相談しなかった／し
たくなかった」(41.7%) (57.1%) が多くなっています。

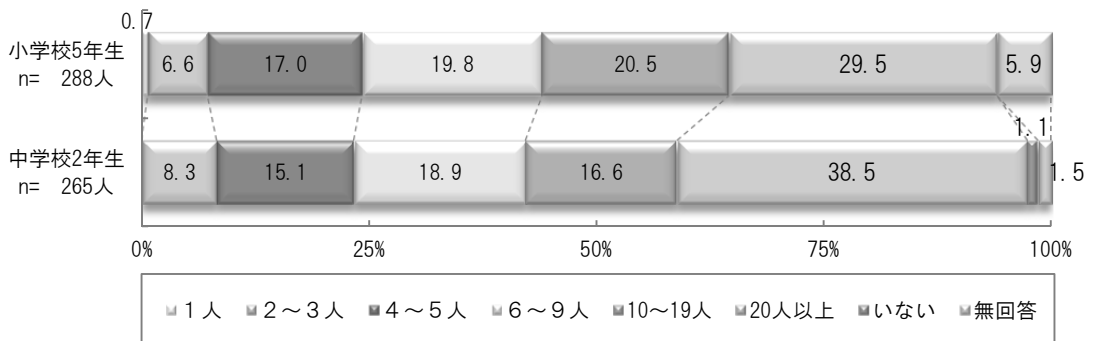
一緒に遊ぶ友だちの数は、小学生、中学生ともに「20 人以上」(29.5%)
(38.5%) が最も多くなっています。

いつも遊ぶのは、小学生「同じクラスの友だち」(90.3%)、「同じ学年でクラ
スがちがう友だち」(66.7%) となっています。

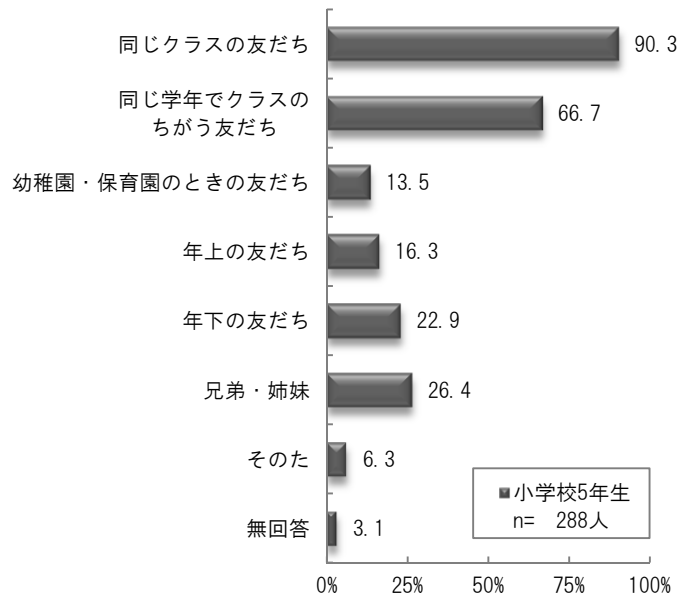
問 11-3[問 10-3] 学校が楽しくないことを誰に相談したか



問 12-1[問 11] 一緒に遊ぶ友だちは何人いるか

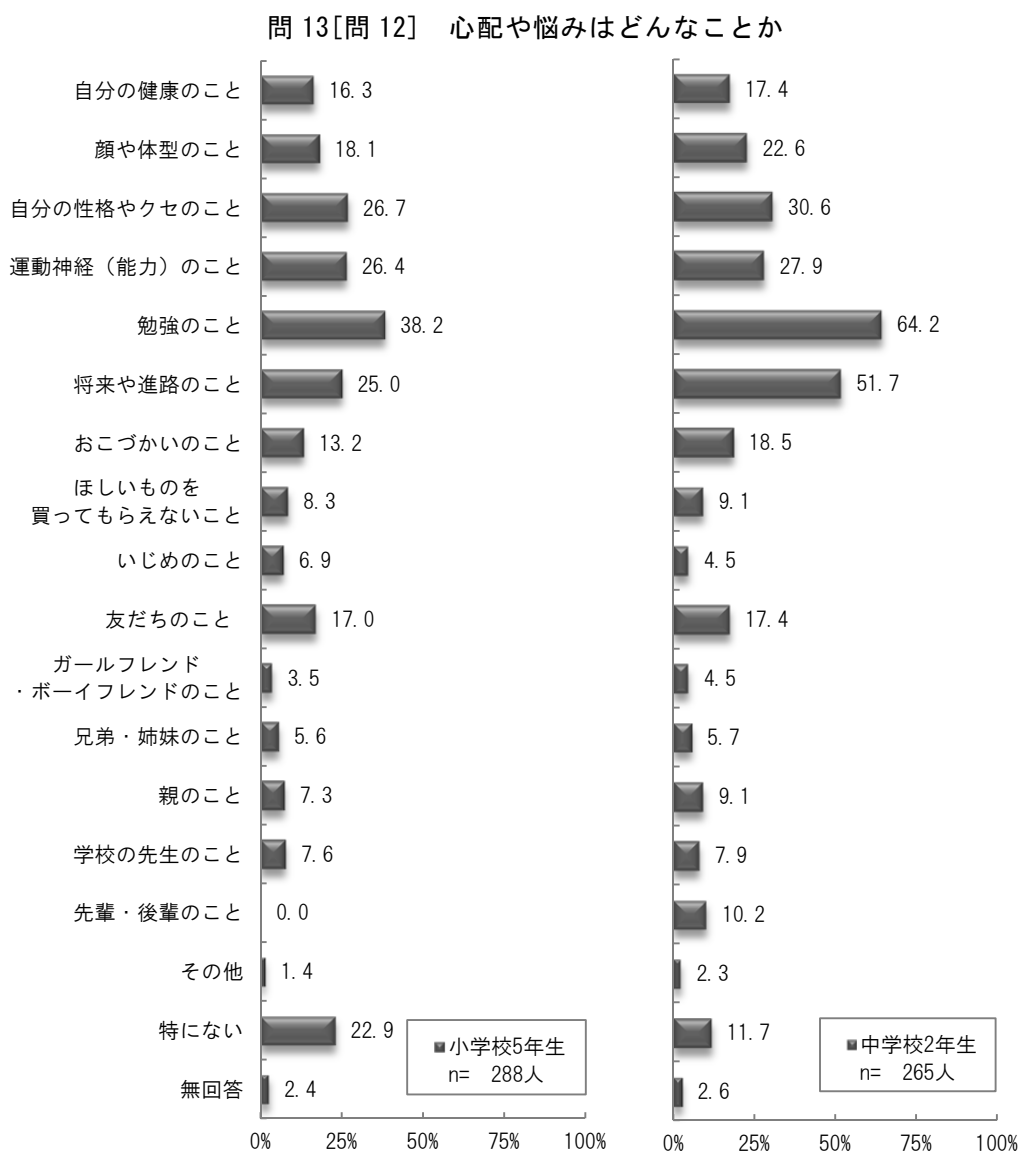


問 12-2 いつも遊ぶのはだれか



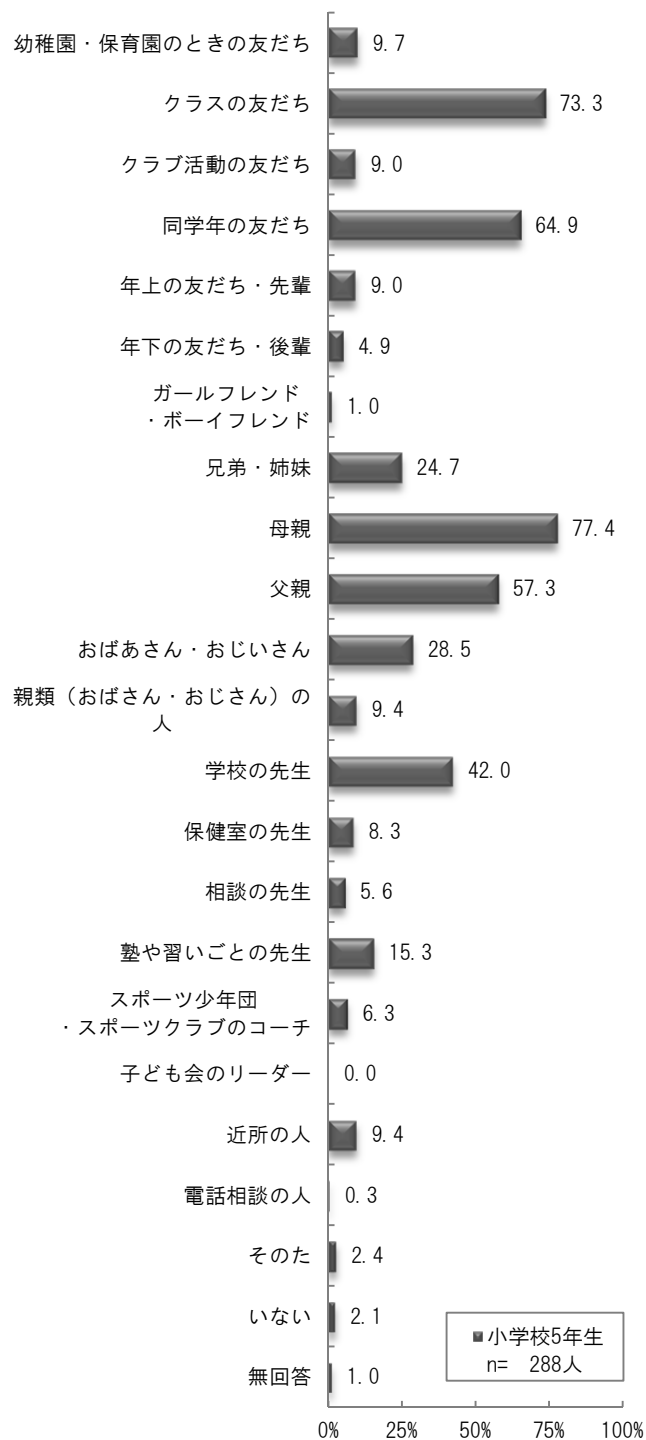
3 心配や悩みについて

心配や悩みごとは、小学生「勉強のこと」(38.2%)、「自分の性格やクセのこと」(26.7%)、「運動神経(能力)のこと」(26.4%)が多くなっています。中学生「勉強のこと」(64.2%)、「将来や進路のこと」(51.7%)が多くなっています。



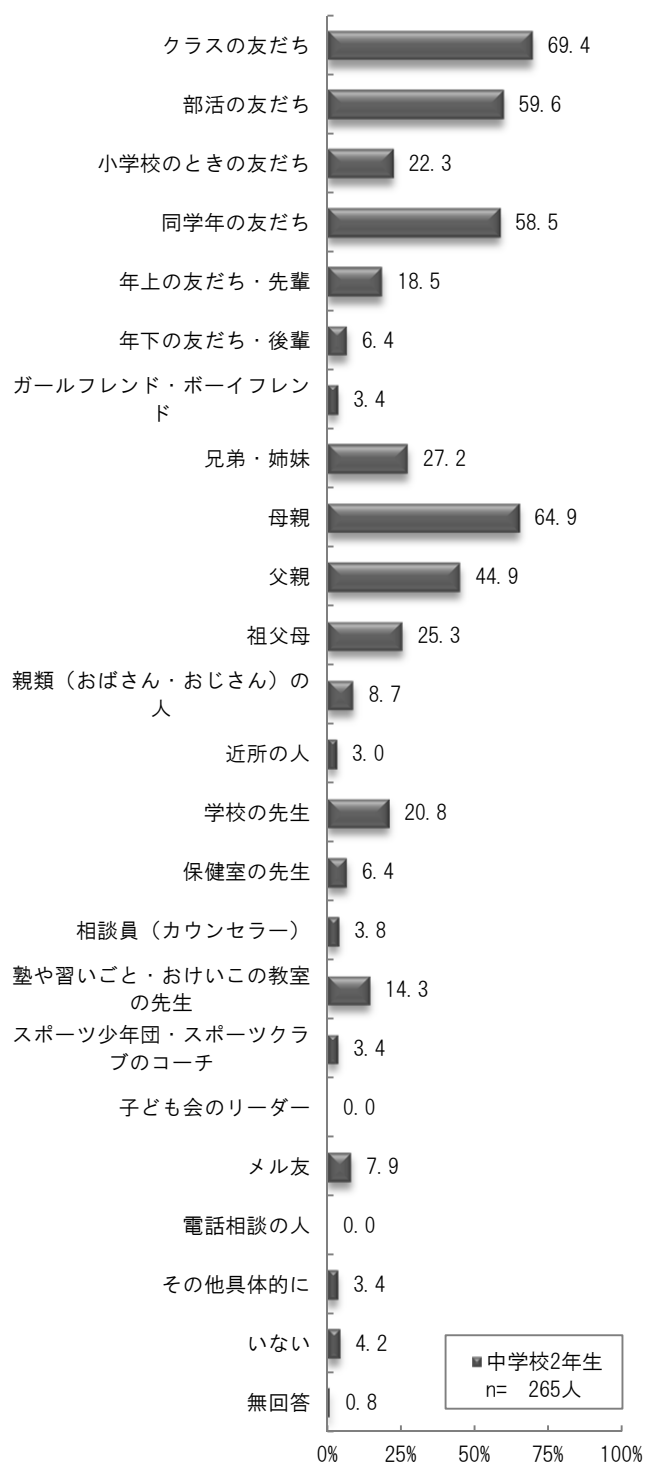
困った時に助けてくれる人は、小学生「母親」(77.4%)、「クラスの友だち」(73.3%)、「同学年の友だち」(64.9%)、「父親」(57.3%)が多くなっています。

問 14 困った時に助けてくれる人



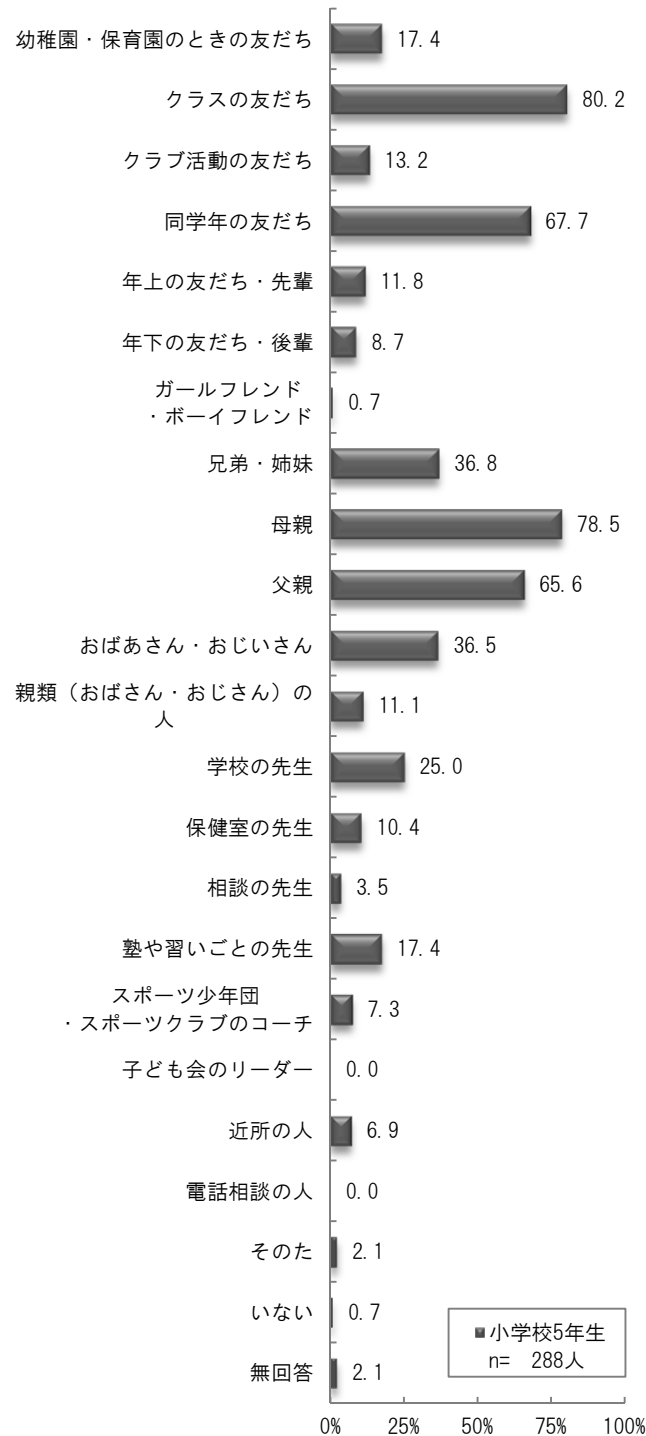
困った時に助けてくれる人は、中学生「クラスの友だち」(69.4%)、「母親」(64.9%)、「部活の友だち」(59.6%)、「同学年の友だち」(58.5%)が多くなっています。

[問 13] 困った時に助けてくれる人



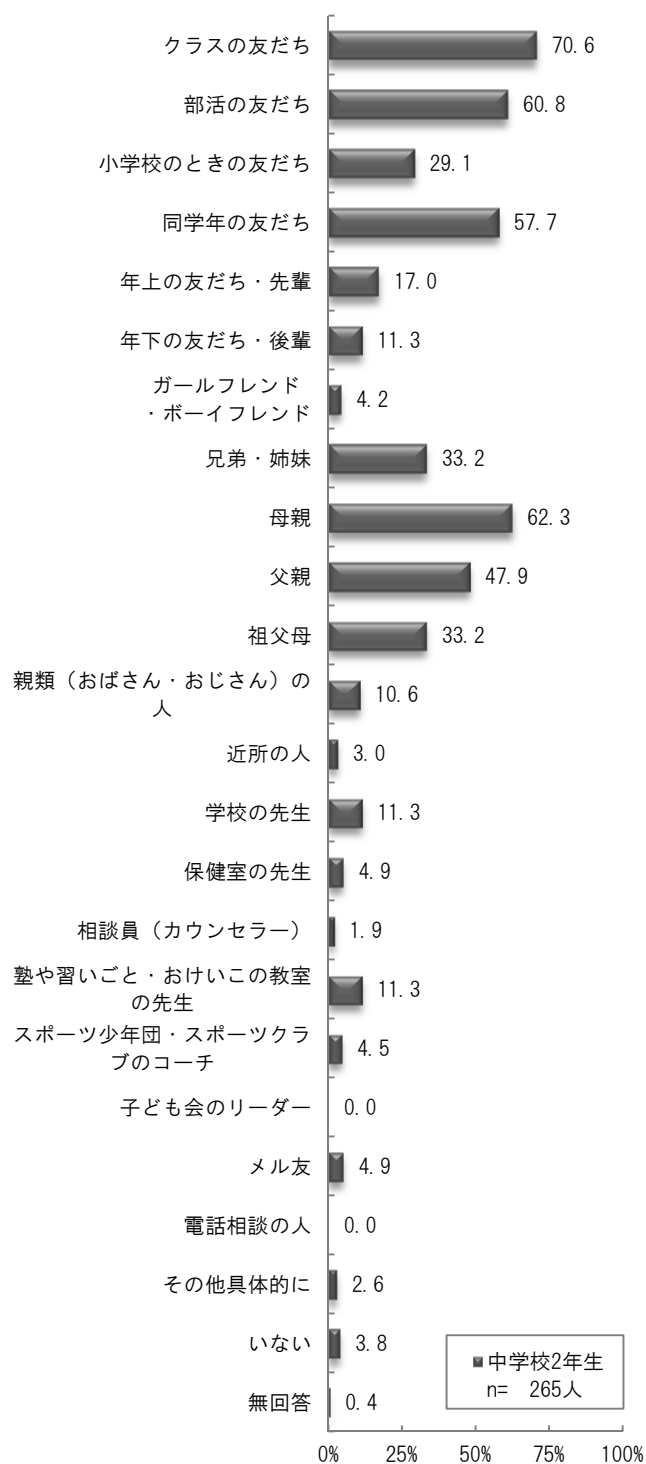
一緒にいて安心できる人は、小学生「クラスの友だち」(80.2%)、「母親」(78.5%)、「同学年の友だち」(67.7%)、「父親」(65.6%)が多くなっています。

問 15 一緒にいて安心できる人



一緒にいて安心できる人、中学生「クラスの友だち」(70.6%)、「母親」(62.3%)、「部活の友だち」(60.8%)、「同学年の友だち」(57.7%)が多くなっています。

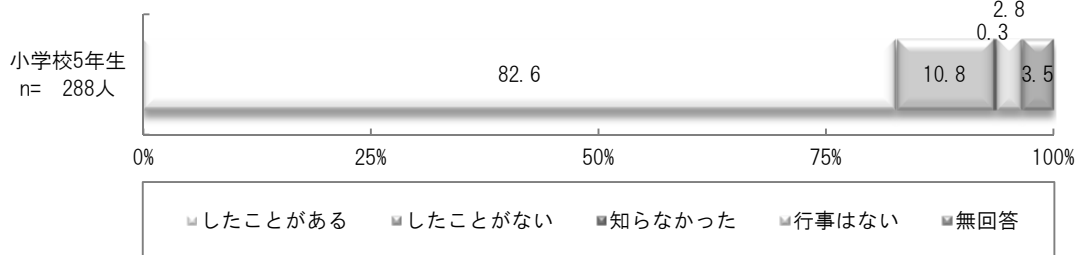
[問 14] 一緒にいて安心できる人



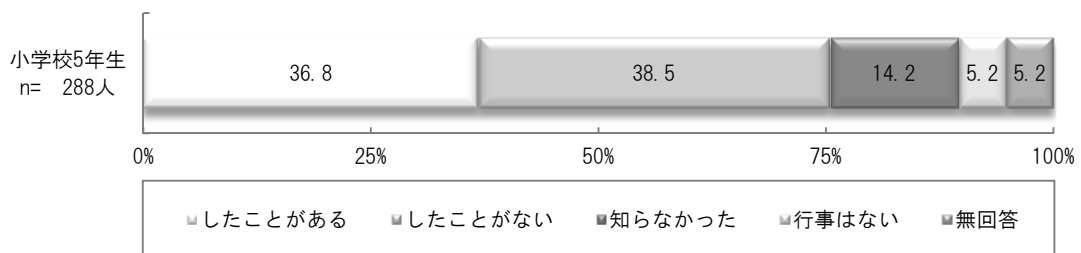
4 地域のことについて

地域の行事や活動への参加は、小学生『したことがある』では「お祭りや盆踊り」(82.6%)で最も多く、次いで「子ども会の行事」(39.2%)、「地域のスポーツ活動」(36.8%)となっています。

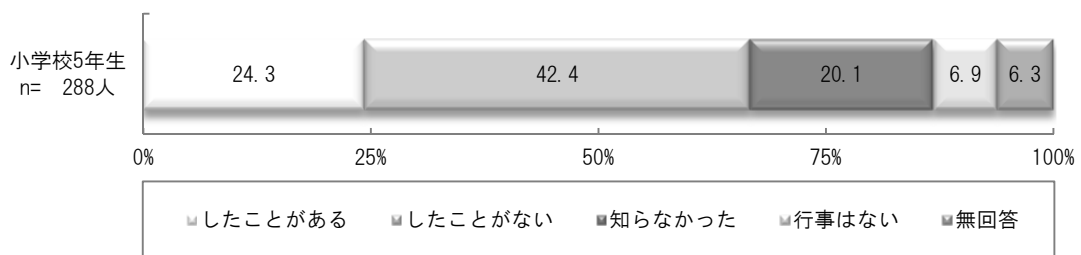
問 16(1).1 地域の行事や活動に参加したことがあるか（お祭りや盆踊り）



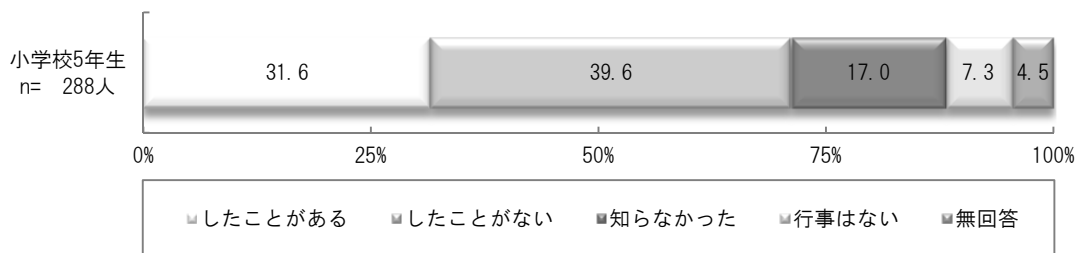
問 16(1).2 地域の行事や活動に参加したことがあるか（地域のスポーツ活動）



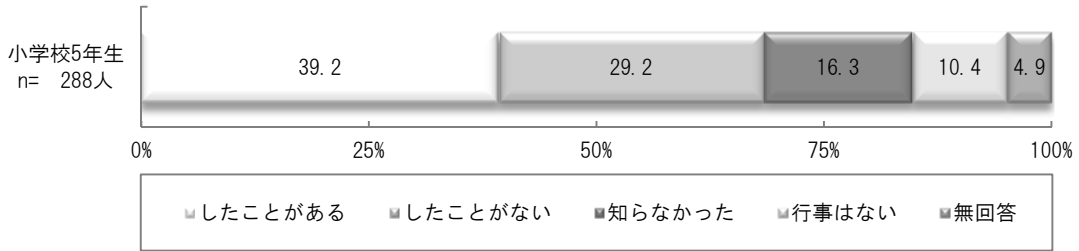
問 16(1).3 地域の行事や活動に参加したことがあるか（文化活動）



問 16(1).4 地域の行事や活動に参加したことがあるか（地域の清掃活動）

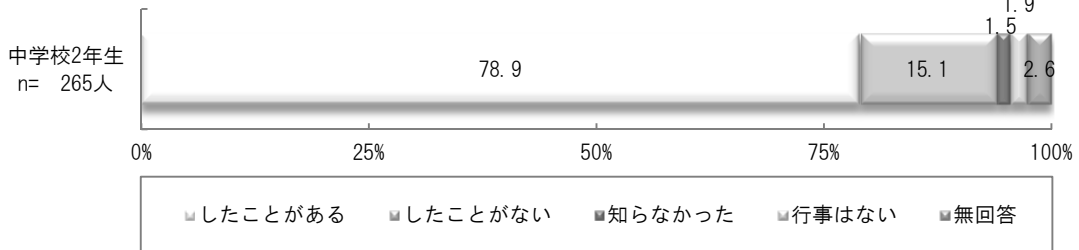


問 16(1).5 地域の行事や活動に参加したことがあるか（子供会の行事）

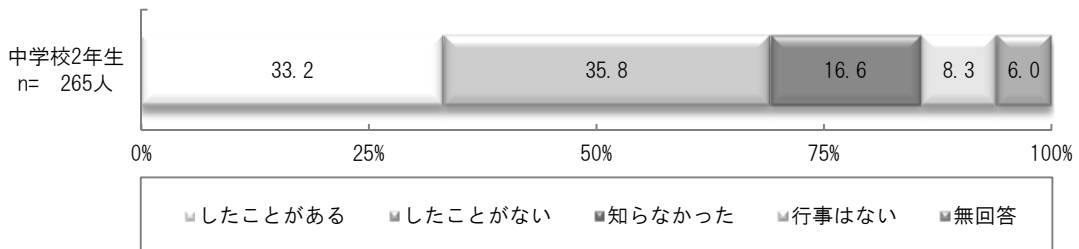


地域の行事や活動への参加は、中学生『したことがある』では「お祭りや盆踊り」（78.9%）で最も多く、次いで「地域の清掃活動」（35.5%）、「地域のスポーツ活動」（33.2%）となっています。

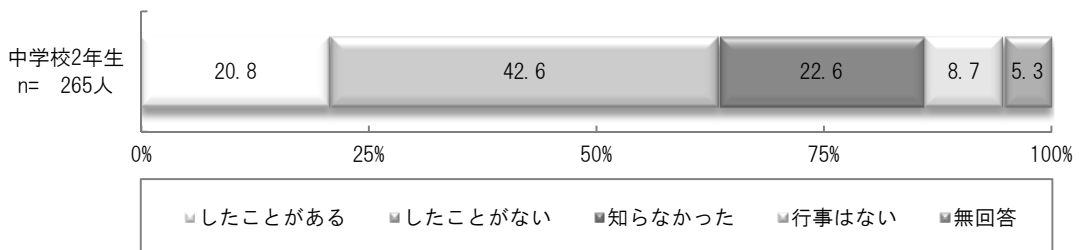
〔問 15(1).1〕 地域の行事や活動に参加したことがあるか（お祭りや盆踊り）



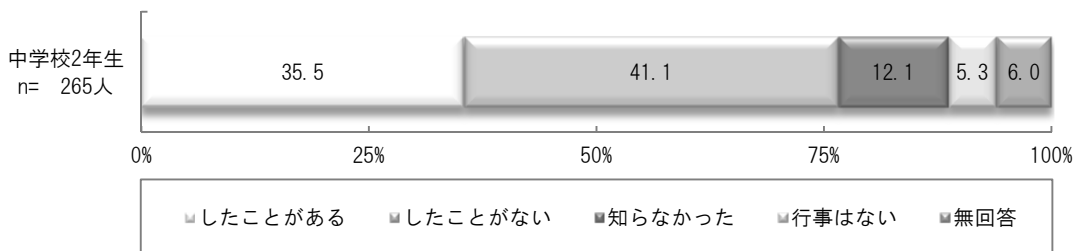
〔問 15(1).2〕 地域の行事や活動に参加したことがあるか（地域のスポーツ活動）



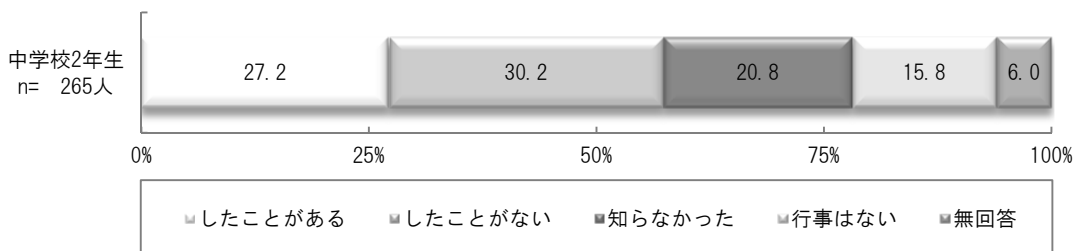
〔問 15(1).3〕 地域の行事や活動に参加したことがあるか（文化活動）



[問 15(1).4] 地域の行事や活動に参加したことがあるか（地域の清掃活動）

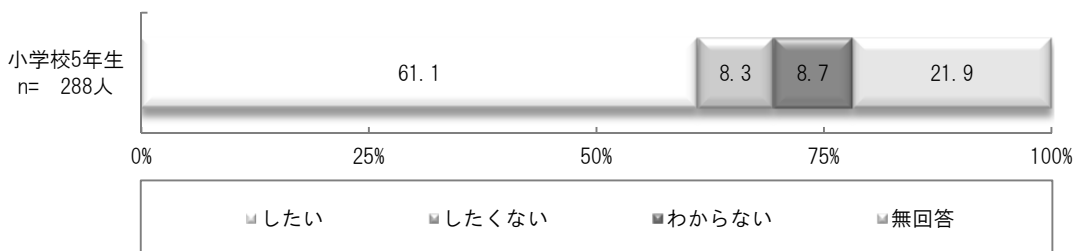


[問 15(1).5] 地域の行事や活動に参加したことがあるか（子供会の行事）

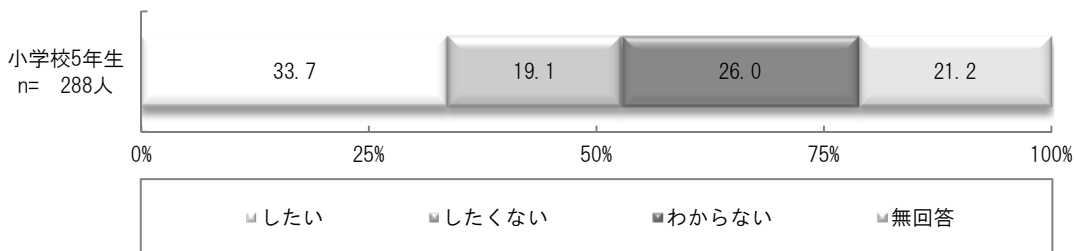


今後参加したい地域の行事や活動は、小学生『したい』では「お祭りや盆踊り」(61.1%)で最も多く、次いで「子ども会の行事」(35.1%)、「地域のスポーツ活動」(33.7%)となっています。

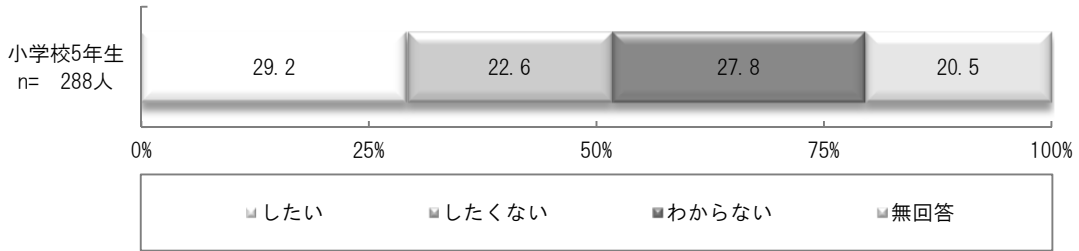
問 16(2).1 今後参加したい地域の行事や活動（お祭りや盆踊り）



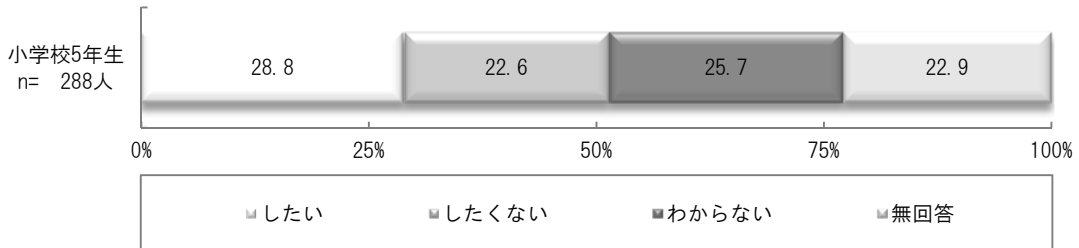
問 16(2).2 今後参加したい地域の行事や活動（地域のスポーツ活動）



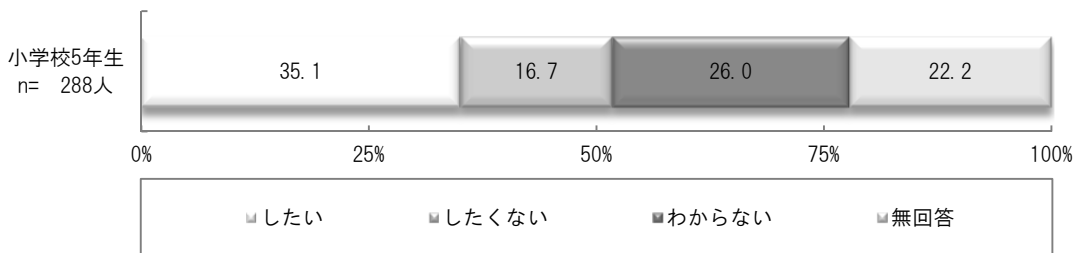
問 16(2).3 今後参加したい地域の行事や活動（文化活動）



問 16(2).4 今後参加したい地域の行事や活動（地域の清掃活動）

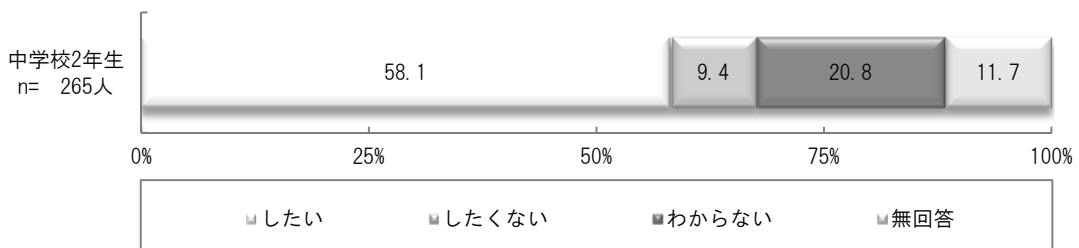


問 16(2).5 今後参加したい地域の行事や活動（子供会の行事）

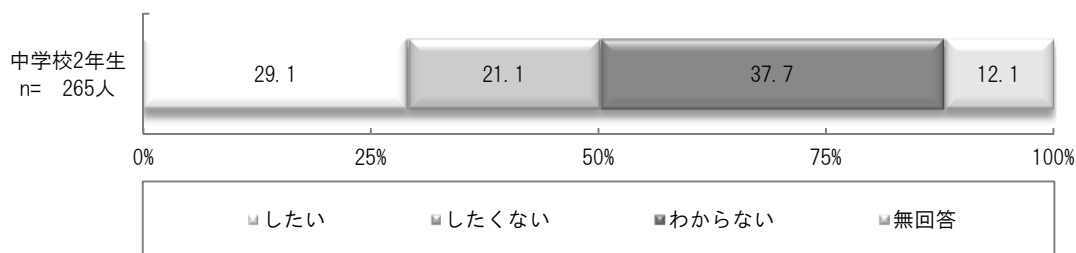


今後参加したい地域の行事や活動は、中学生『したい』では「お祭りや盆踊り」（58.1%）で最も多く、次いで「地域のスポーツ活動」（29.1%）、「地域の清掃活動」（27.5%）となっています。

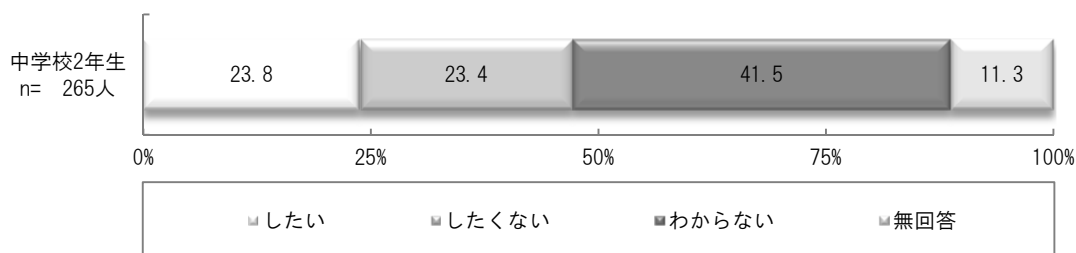
[問 15(2).1] 今後参加したい地域の行事や活動（お祭りや盆踊り）



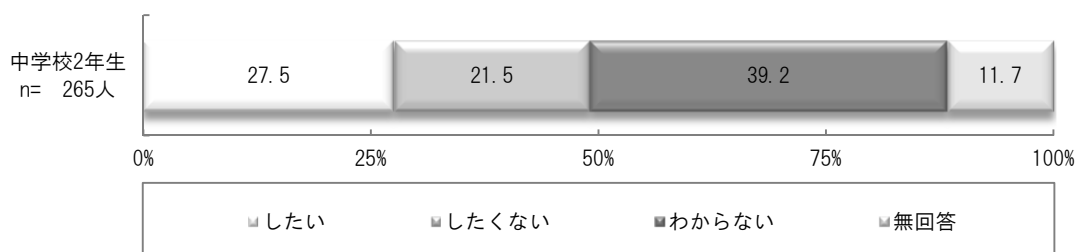
[問 15(2).2] 今後参加したい地域の行事や活動（地域のスポーツ活動）



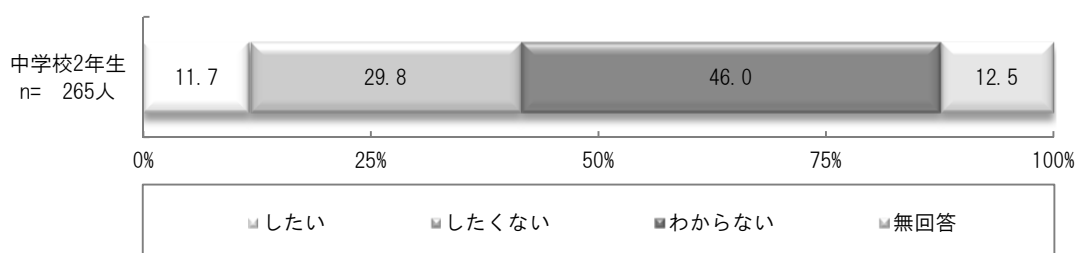
[問 15(2).3] 今後参加したい地域の行事や活動（文化活動）



[問 15(2).4] 今後参加したい地域の行事や活動（地域の清掃活動）



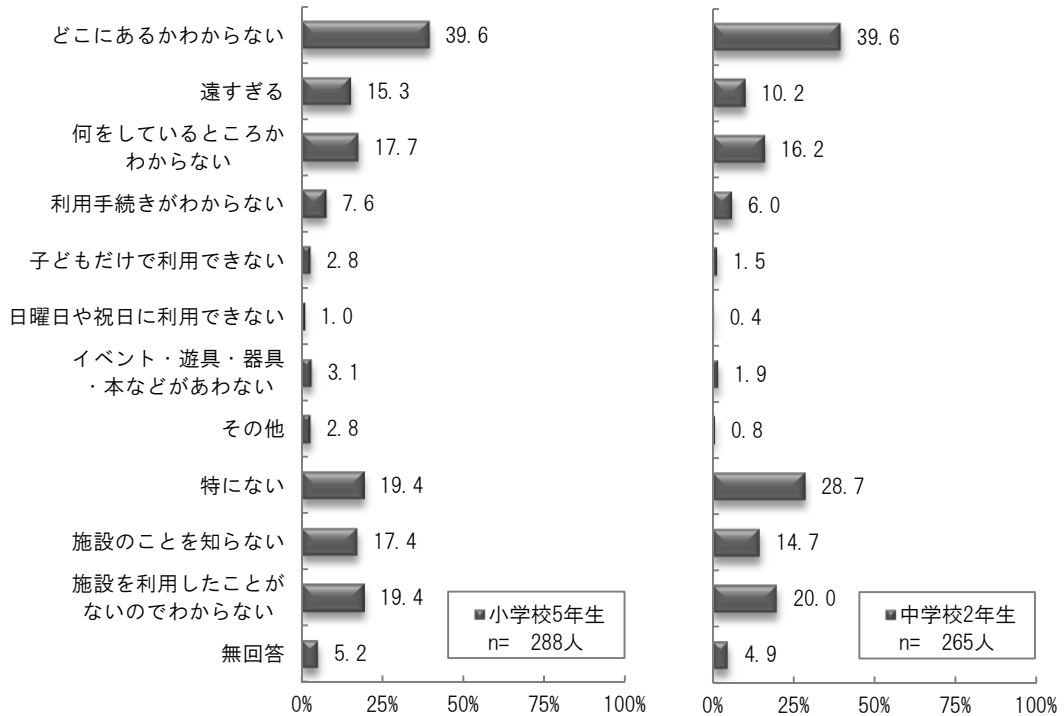
[問 15(2).5] 今後参加したい地域の行事や活動（子供会の行事）



■市の施設についての意見

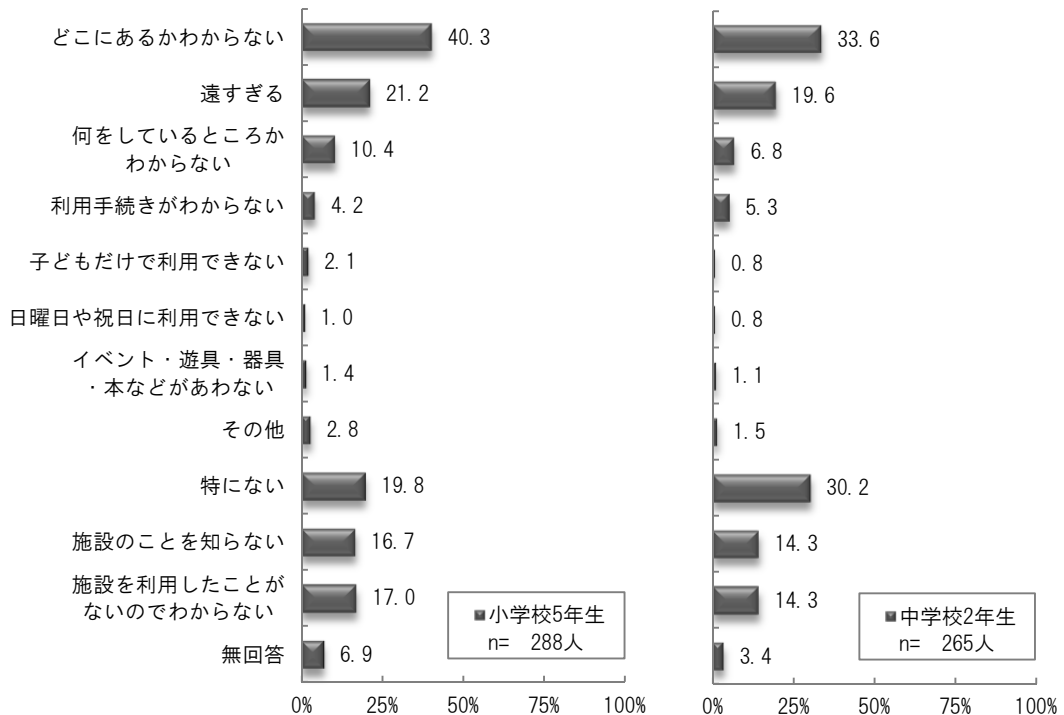
「どこにあるかわからない」小学生（39.6%）、中学生（39.6%）

問 17.1[問 16.1] 市の施設について（市民プラザ）



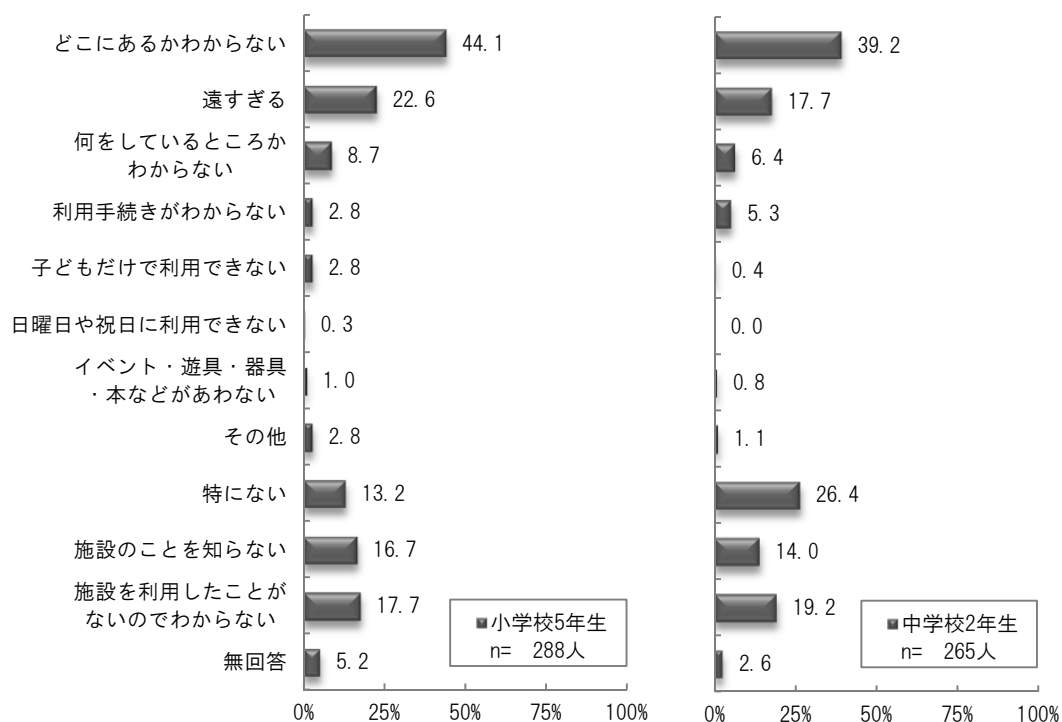
「どこにあるかわからない」小学生（40.3%）、中学生（33.6%）

問 17.2[問 16.2] 市の施設について（空中公園）



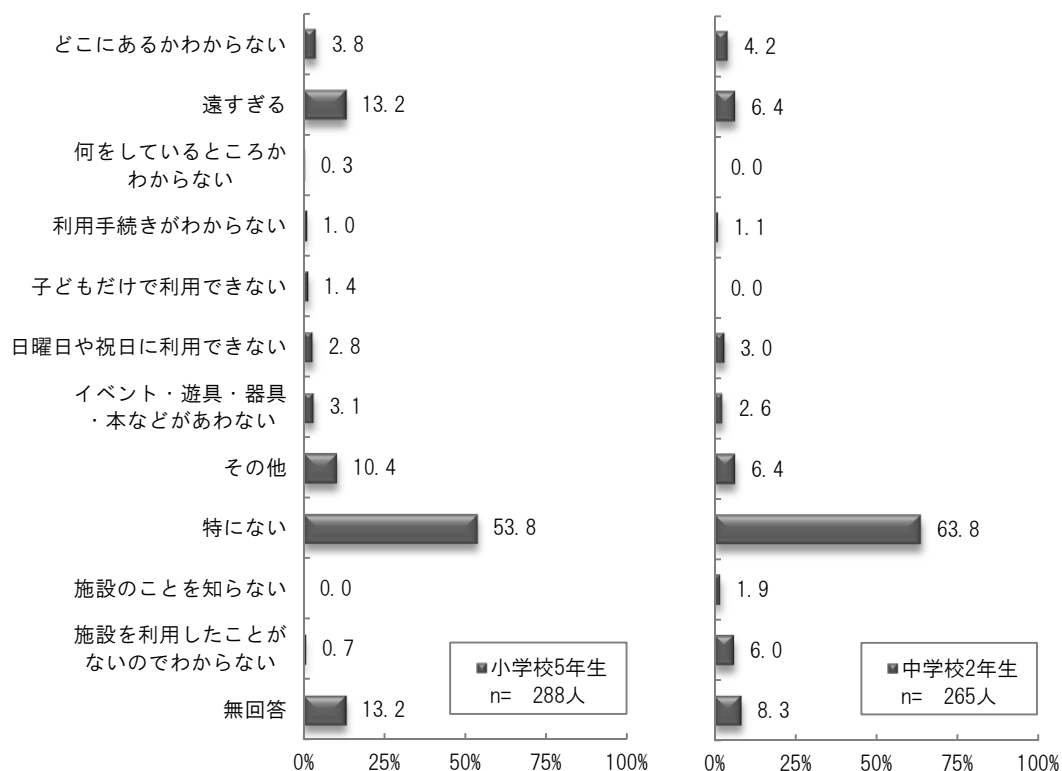
「どこにあるかわからない」小学生（44.1%）、中学生（39.2%）

問 17.3[問 16.3] 市の施設について（河川敷公園）



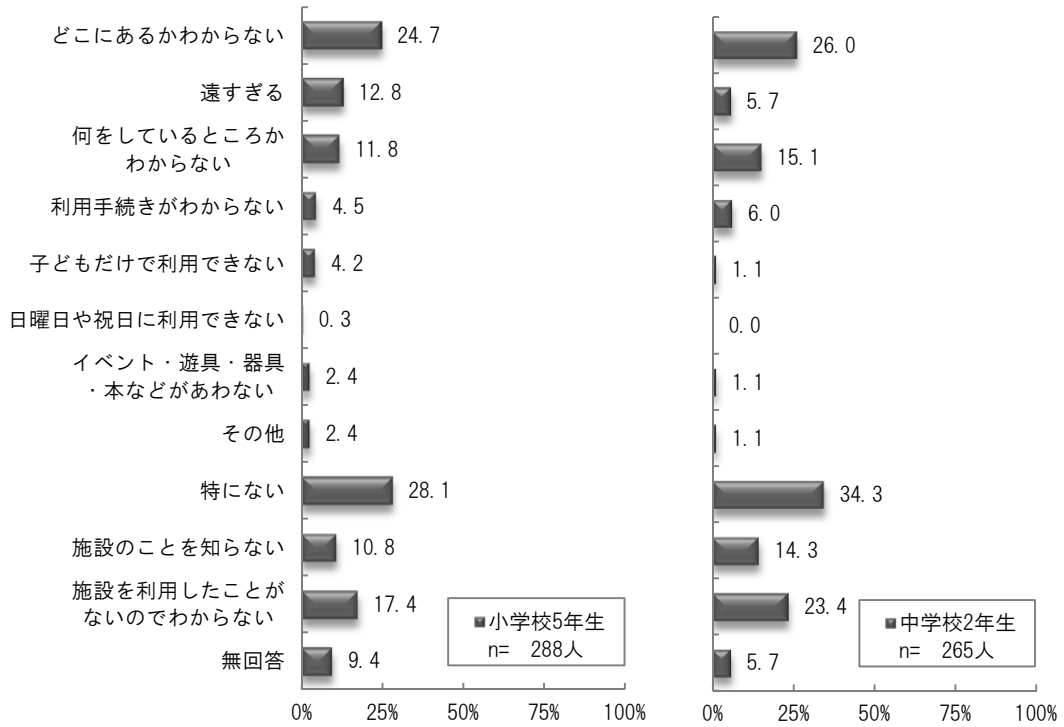
「特になし」小学生（53.8%）、中学生（63.8%）

問 17.4[問 16.4] 市の施設について（図書館）



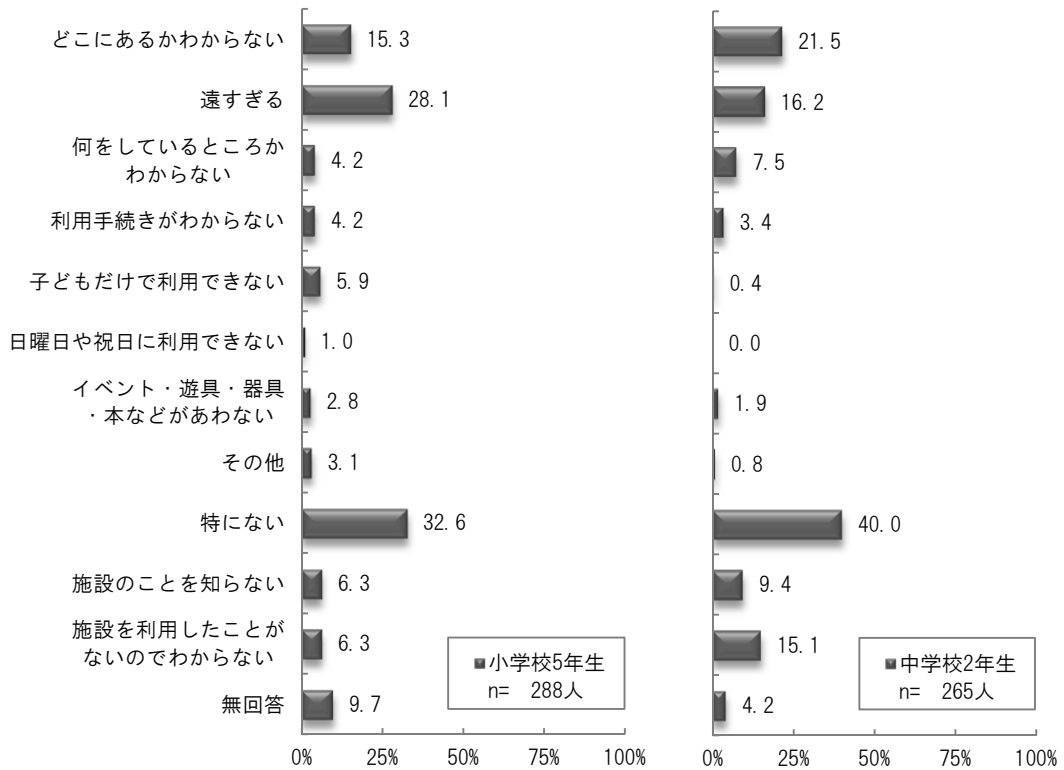
「特にない」小学生（28.1%）、中学生（34.3%）

問 17.5[問 16.5] 市の施設について（公民館）

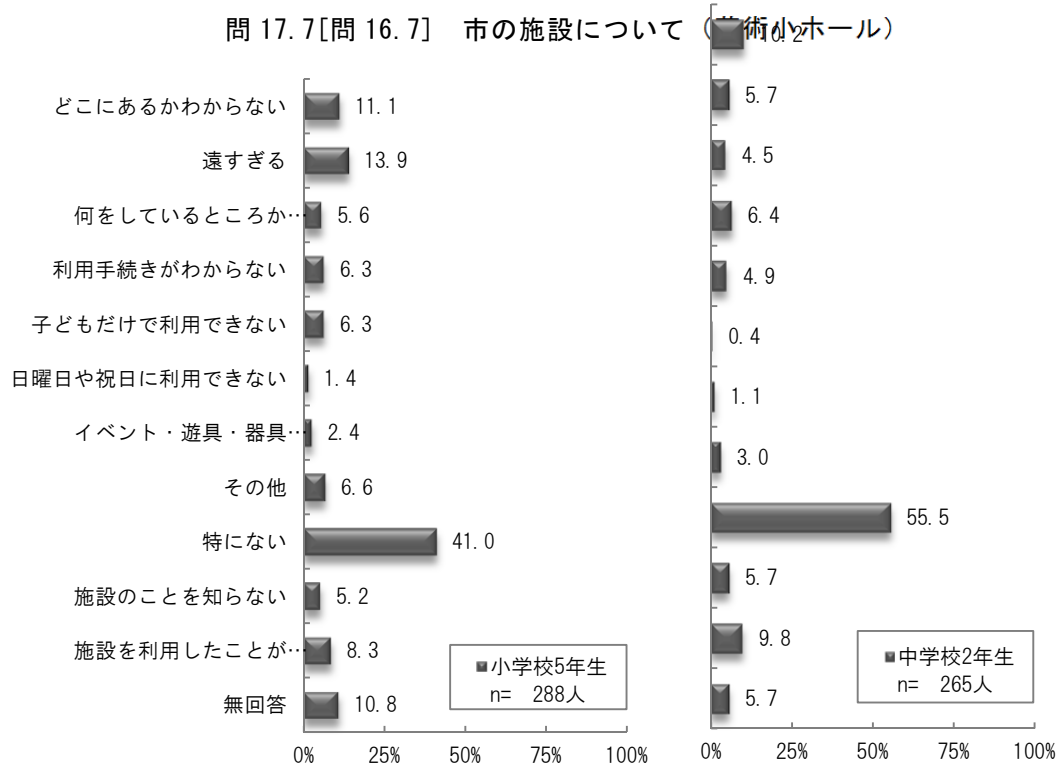


「特にない」小学生（32.6%）、中学生（40.0%）

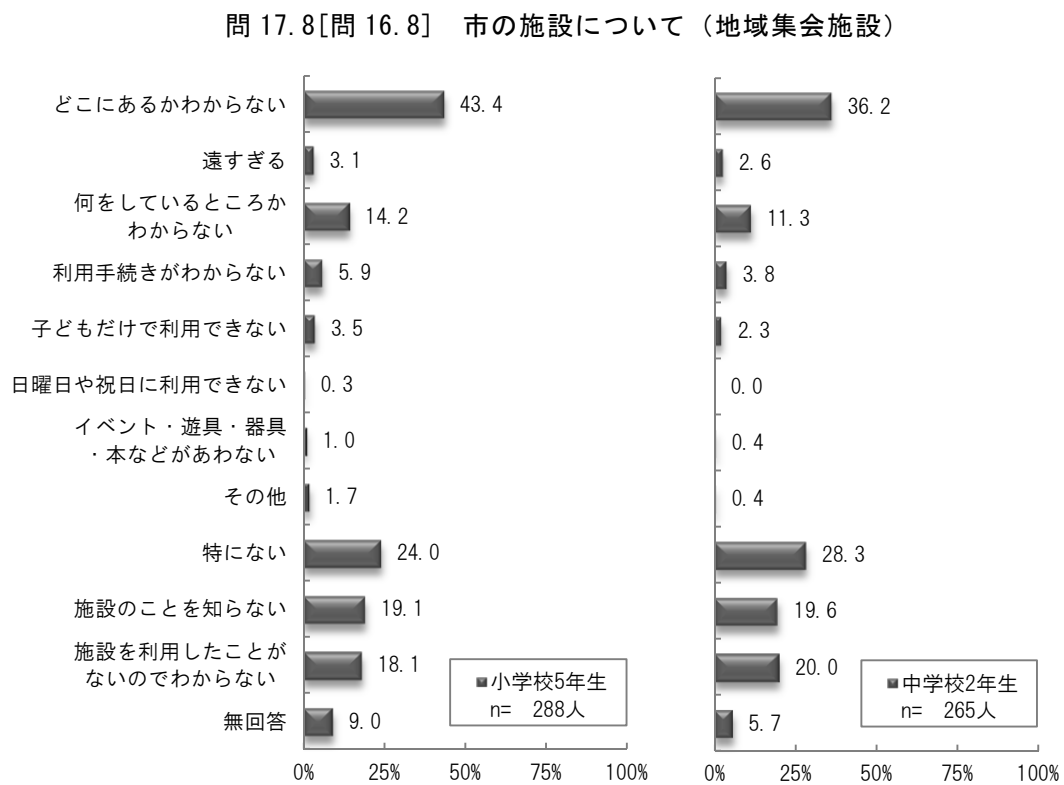
問 17.6[問 16.6] 市の施設について（郷土文化館）



「特にない」小学生（41.0%）、中学生（55.5%）

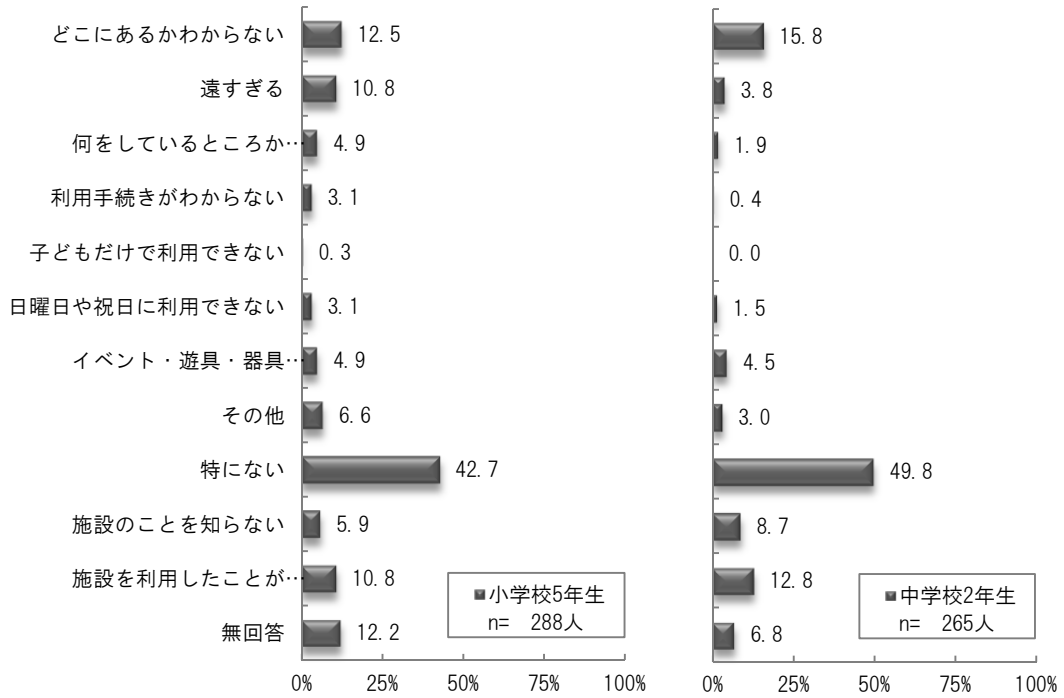


「どこにあるかわからない」小学生（43.4%）、中学生（36.2%）



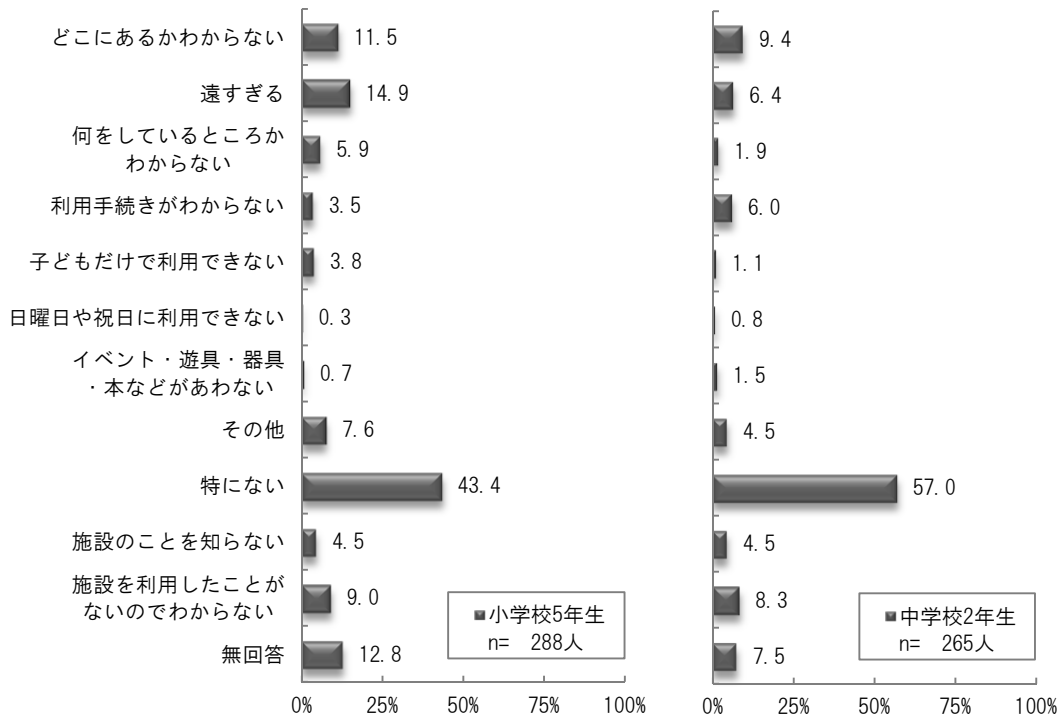
「特にない」小学生（42.7%）、中学生（49.8%）

問 17.9[問 16.9] 市の施設について（児童館）



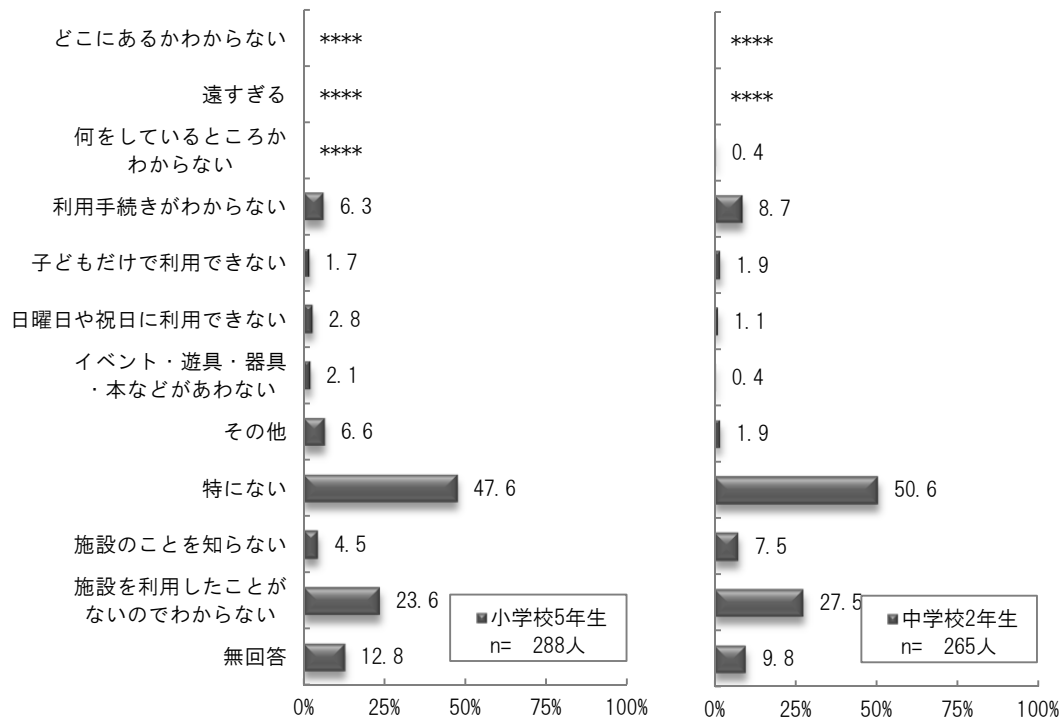
「特にない」小学生（43.4%）、中学生（57.0%）

問 17.10[問 16.10] 市の施設について（市民総合体育館）



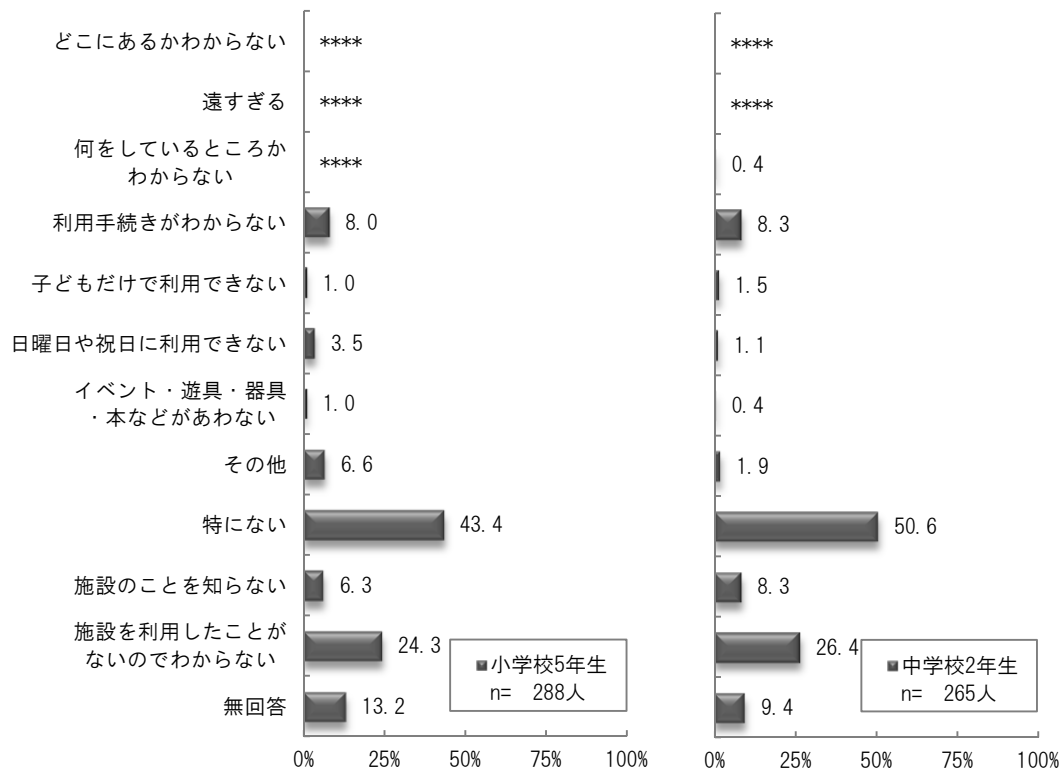
「特にない」小学生（47.6%）、中学生（50.6%）

問 17.11[問 16.11] 市の施設について（休日の学校の校庭開放）



「特にない」小学生（43.4%）、中学生（50.6%）

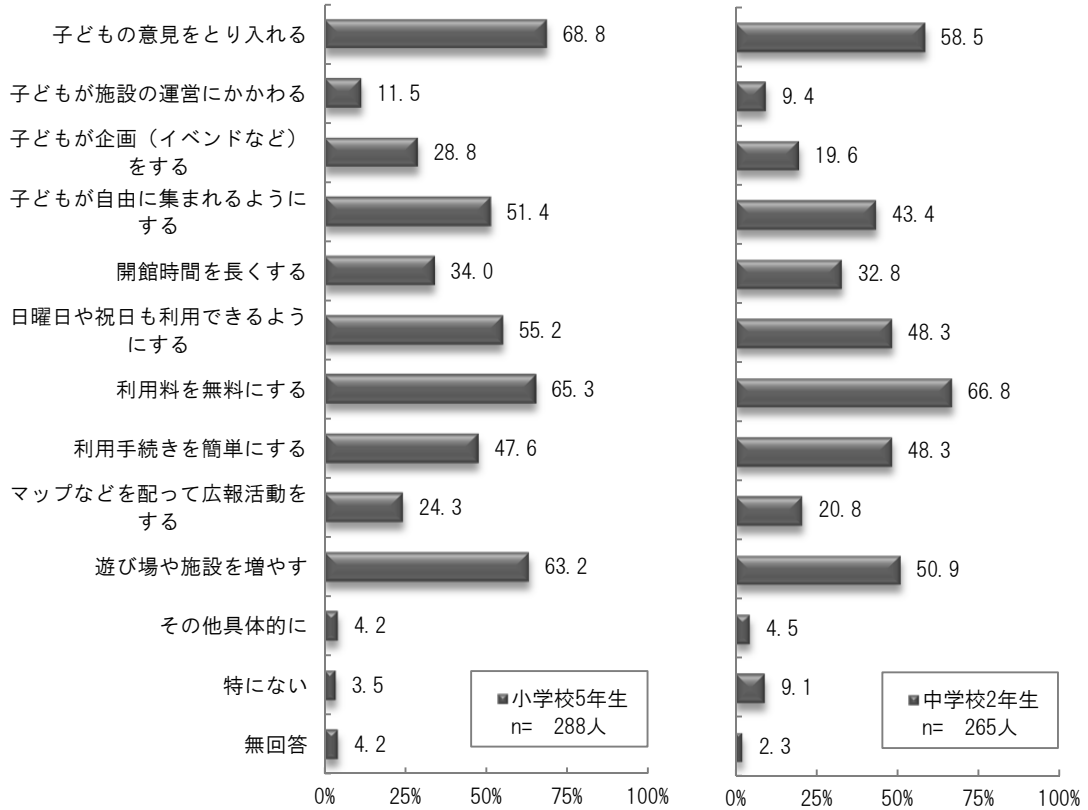
問 17.12[問 16.12] 市の施設について（休日の学校の体育館開放）



「子どもの意見をとり入れる」小学生（68.8%）、

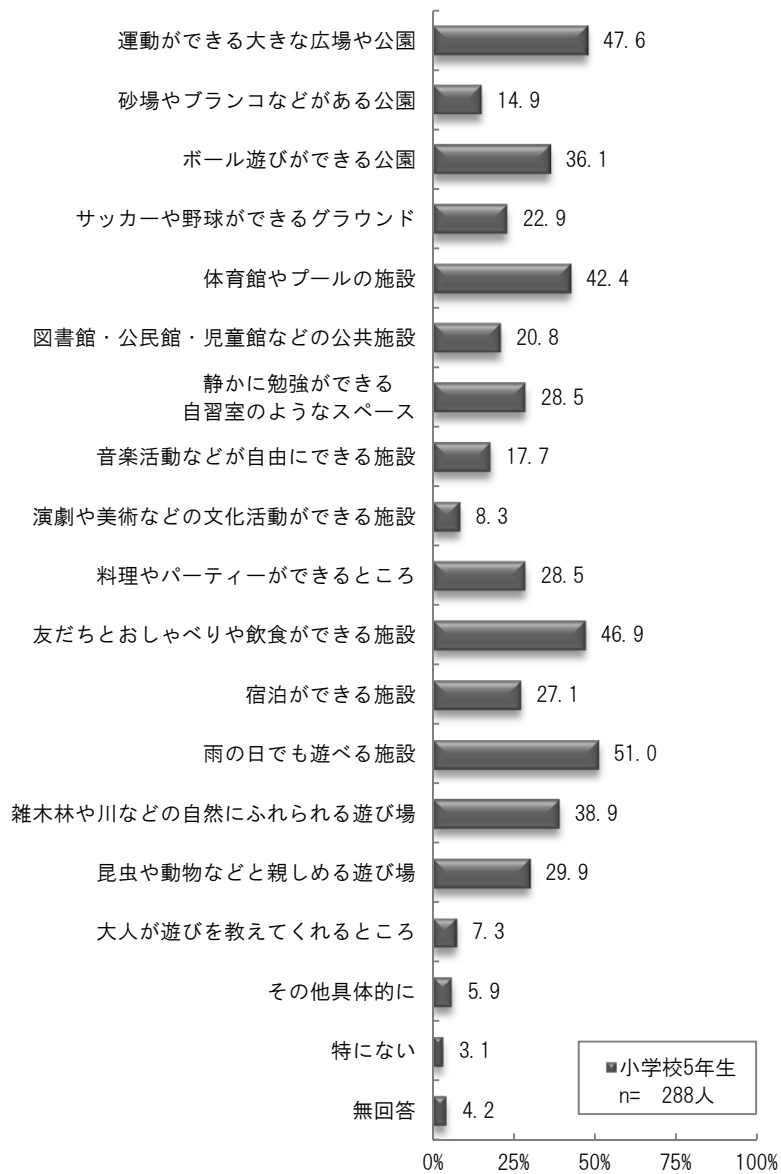
「利用料を無料にする」中学生（66.8%）

問 18 [問 17] 子どもが使いやすい遊び場や施設にするためには



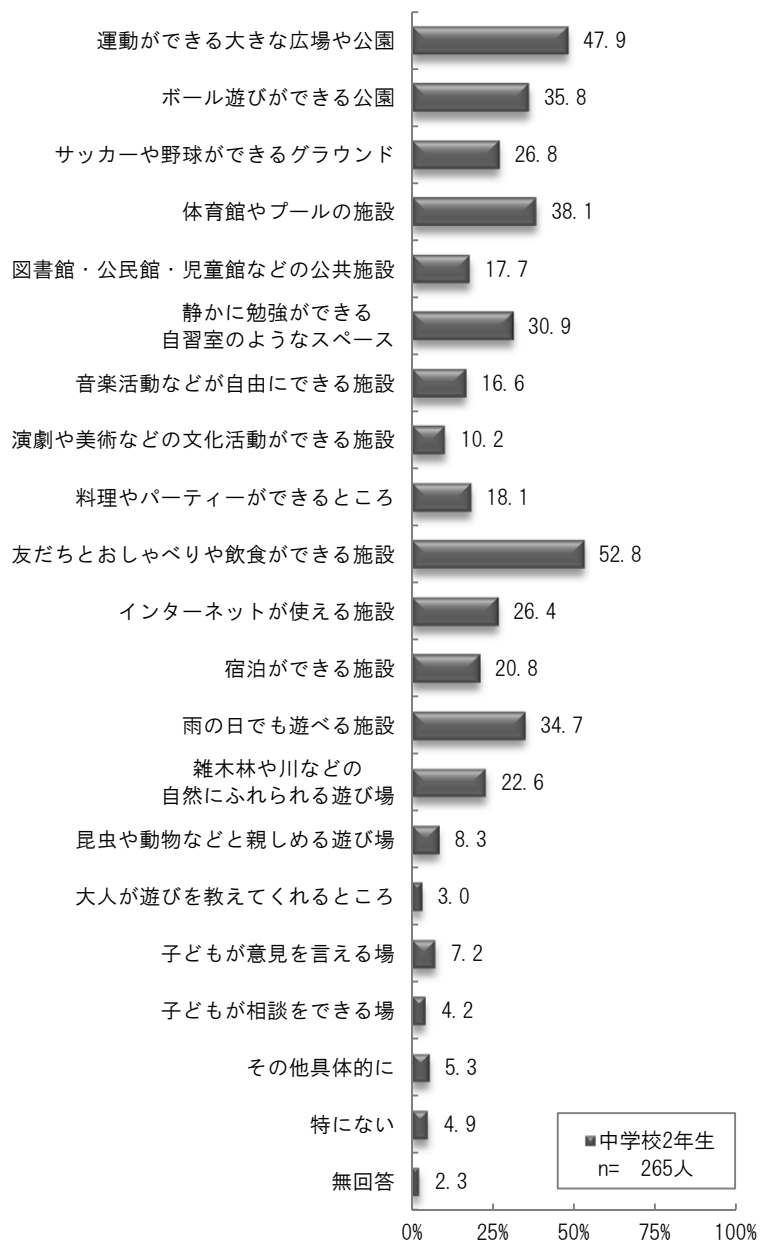
「雨の日でも遊べる施設」小学生（51.0%）、
「運動ができる大きな広場や公園」小学生（47.6%）

問 19 近くにあるほしい遊び場や施設



「友だちとおしゃべりや飲食ができる施設」中学生（52.8%）、
「運動ができる大きな広場や公園」中学生（47.9%）

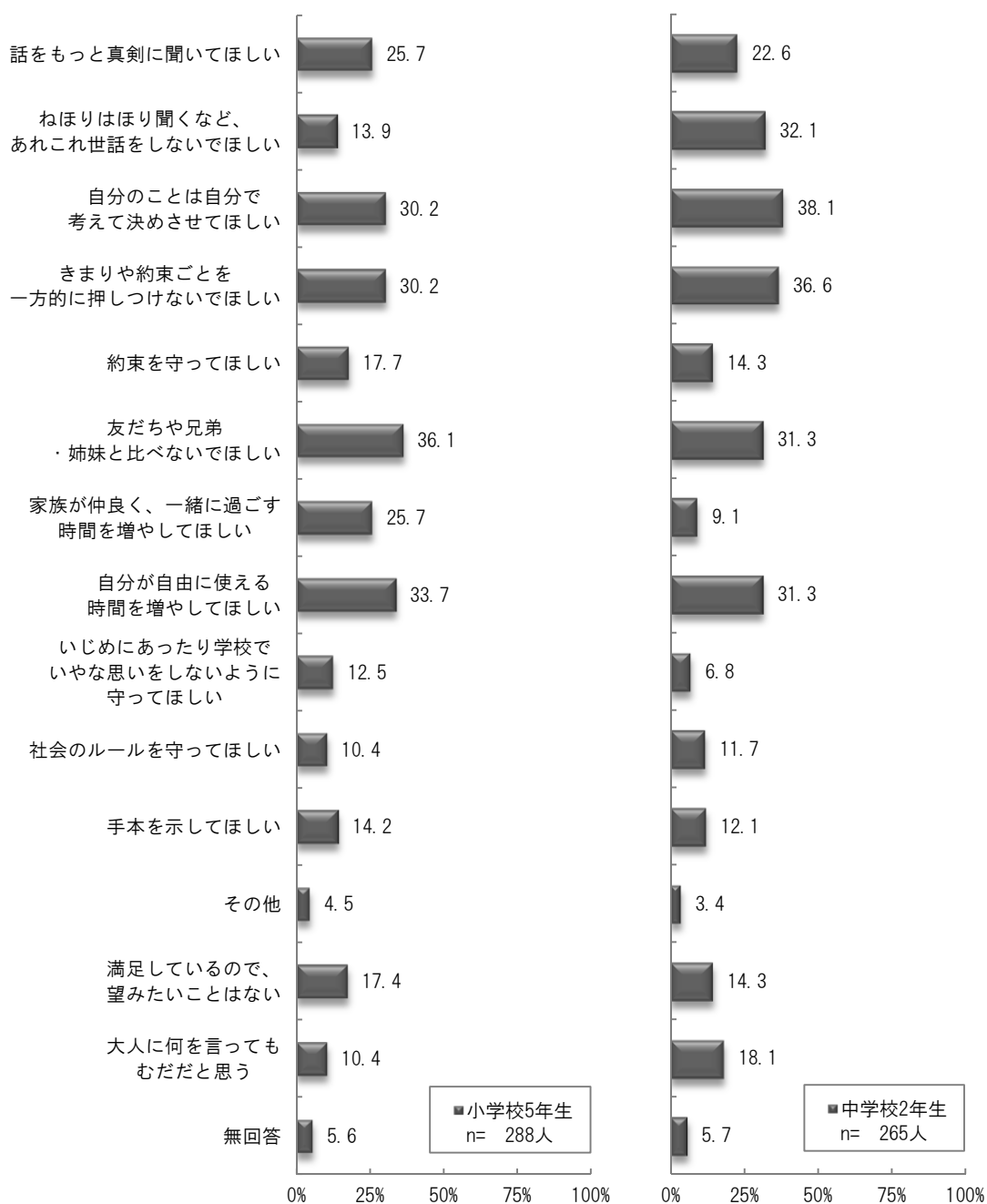
〔問 18〕 近くにあるほしい遊び場や施設



5 子どもの権利について

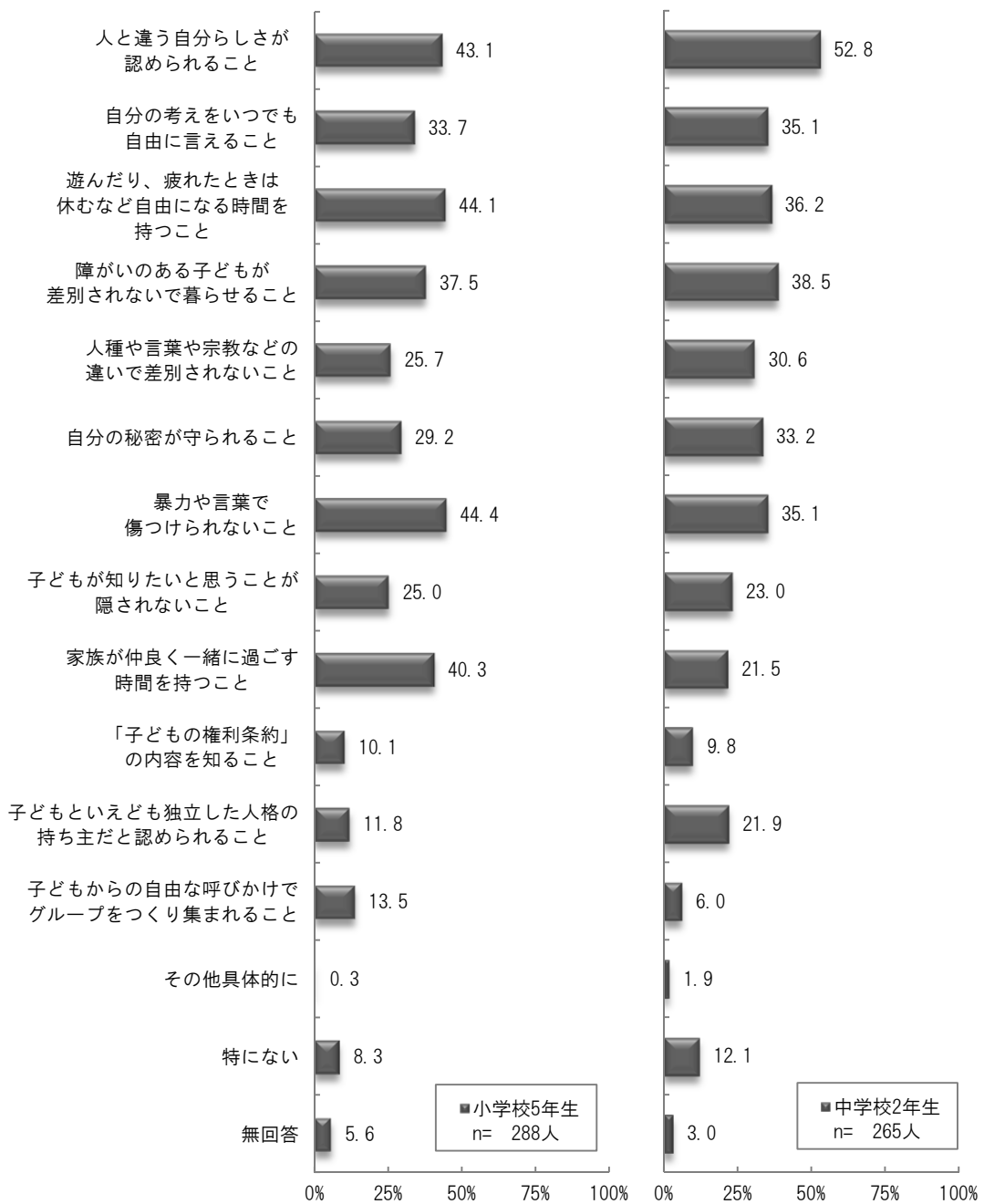
大人にこころがけてほしいことは、小学生「友だちや兄弟・姉妹と比べないでほしい」(36.1%)、「自分が自由に使える時間を増やしてほしい」(33.7%)が多くなっています。中学生「自分のことは自分で考えて決めさせてほしい」(38.1%)、「きまりや約束ごとを一方的に押しつけないでほしい」(36.6%)が多くなっています。

問 20[問 19] 大人にこころがけてほしいこと



子どもの権利について大切なことは、小学生「暴力や言葉で傷つけられないこと」(44.4%)、「遊んだり、疲れたときは休むなど自由になる時間を持つこと」(44.1%)、「人と違う自分らしさが認められること」(43.1%)が多くなっています。中学生「人と違う自分らしさが認められること」(52.8%)、「障がいのある子どもが差別されないで暮らせること」(38.5%)、「遊んだり、疲れたときは休むなど自由になる時間を持つこと」(36.2%)が多くなっています。

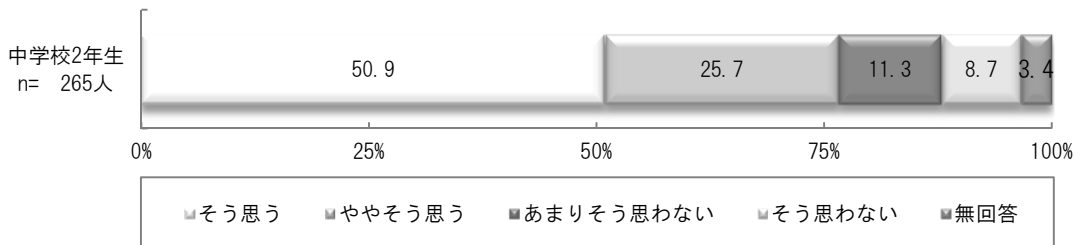
問 21[問 20] 子どもの権利について特に大切なこと



6 結婚・子育てのことについて

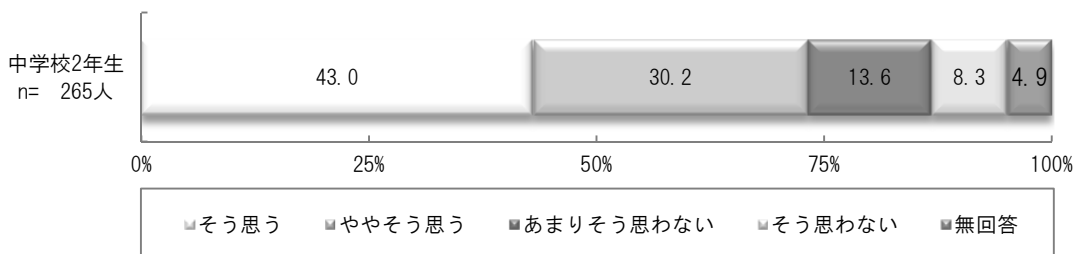
『将来結婚したい』：「そう思う」「ややそう思う」中学生（76.6%）

[問 21.1] 結婚・子育てについての考え（将来結婚したい）



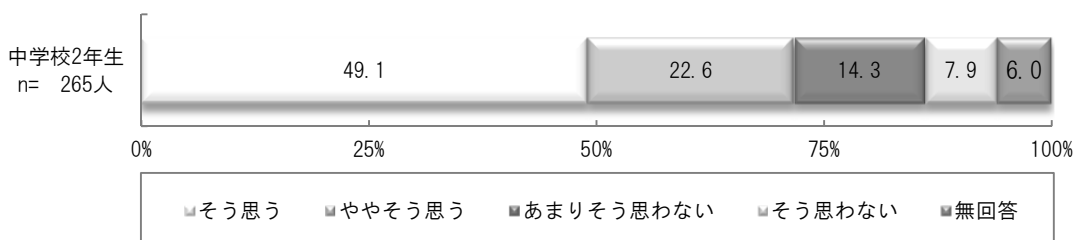
『将来子どもを育てたい』：「そう思う」「ややそう思う」中学生（73.2%）

[問 21.2] 結婚・子育てについての考え（将来子供を育てたい）



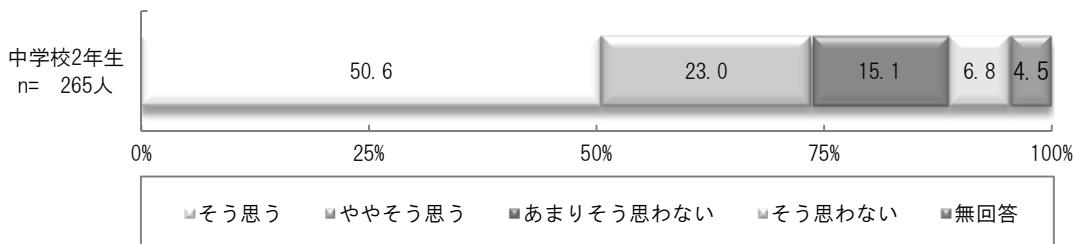
『結婚しなくてもよい』：「そう思う」「ややそう思う」中学生（71.7%）

[問 21.3] 結婚・子育てについての考え（結婚しなくてもよい）



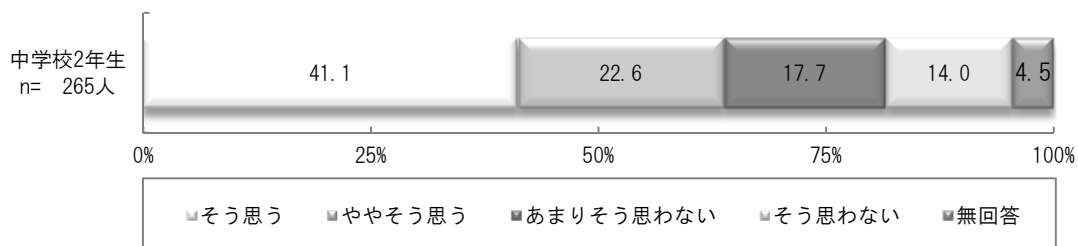
『子どもを産まなくてよい』：「そう思う」「ややそう思う」中学生（73.6%）

[問 21.4] 結婚・子育てについての考え（結婚しても子供を産まなくてよい）



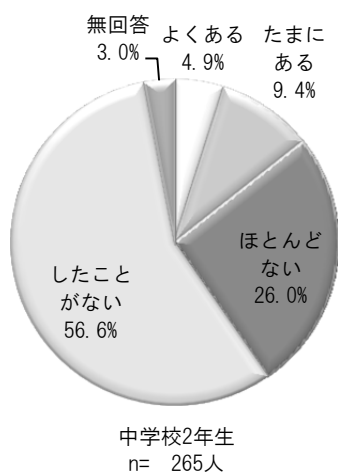
『3歳までは母親は家にいるべき』:「そう思う」「ややそう思う」中学生(63.7%)

[問 21.5] 結婚・子育てについての考え (3歳までは母親は家にいるべき)



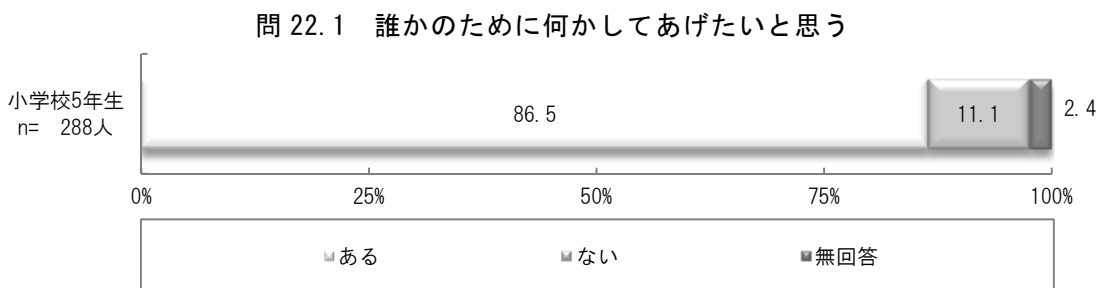
『赤ちゃんの世話』:「したことがない」「ほとんどない」中学生(82.6%)

問 22 赤ちゃんの世話をしたことがあるか

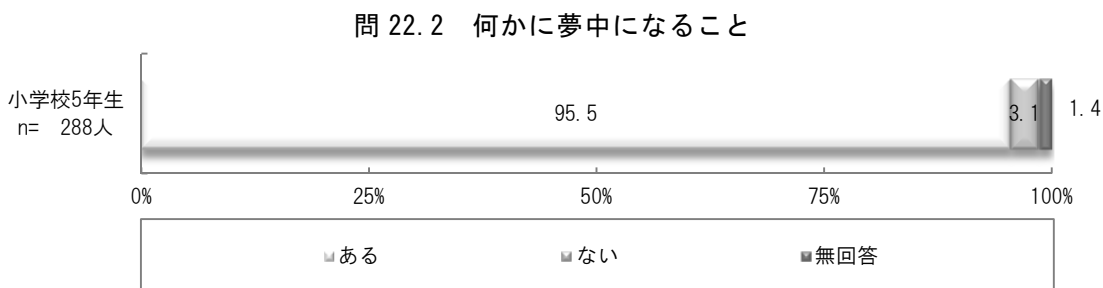


7 あなたの考えについて

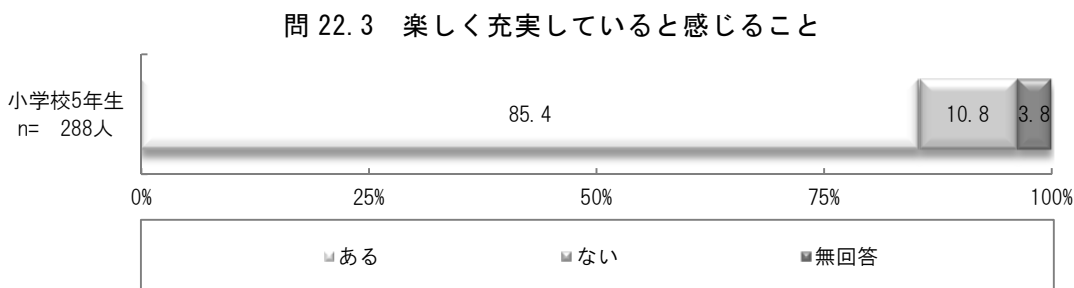
『誰かのために何かしてあげたいと思う』：「ある」小学生（86.5%）



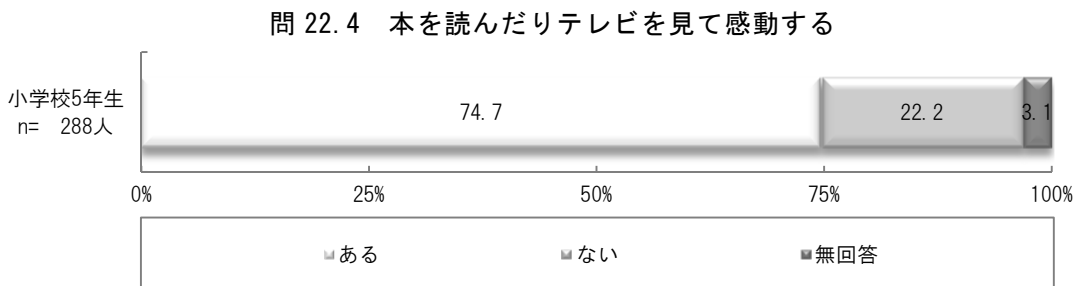
『何かに夢中になること』：「ある」小学生（95.5%）



『楽しく充実していると感じること』：「ある」小学生（85.4%）

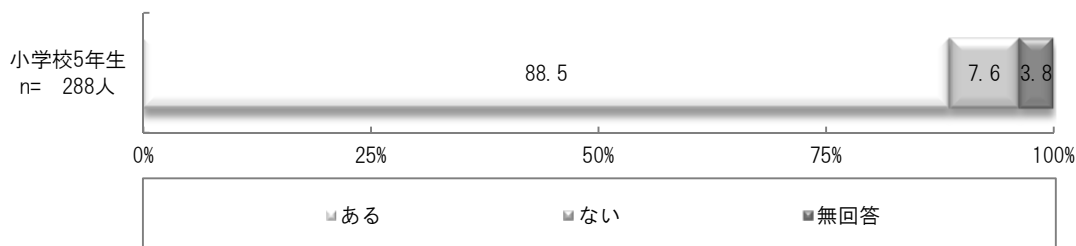


『本を読んだりテレビを見て感動する』：「ある」小学生（74.7%）



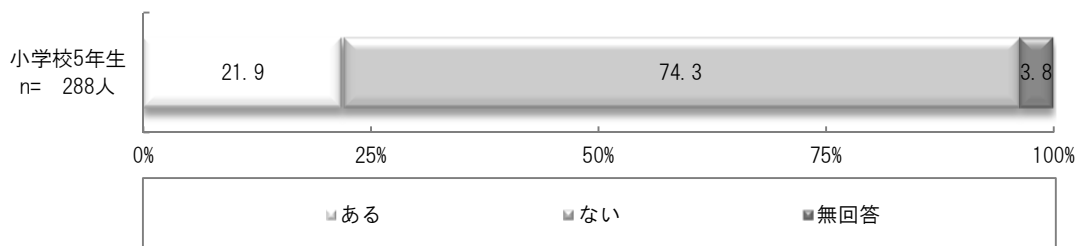
『疲れたと感じる』:「ある」小学生 (88.5%)

問 22.5 「疲れた」と感じる



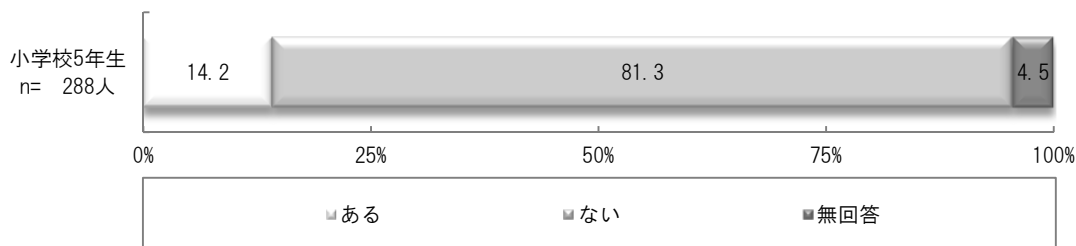
『何をやっても嫌になる』:「ある」小学生 (21.9%)

問 22.6 何をやっても嫌になる



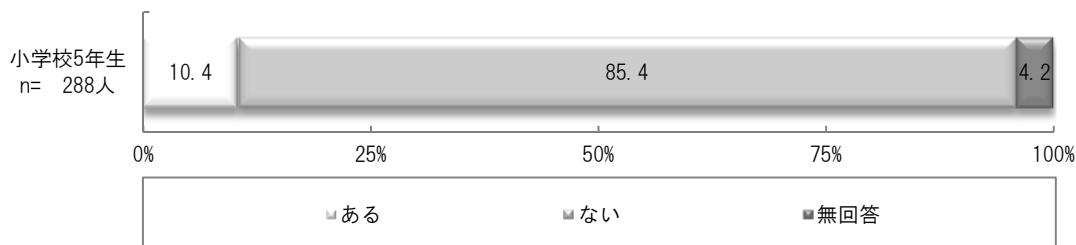
『お金さえあればよいと思う』:「ある」小学生 (14.2%)

問 22.7 お金さえあればよいと思う



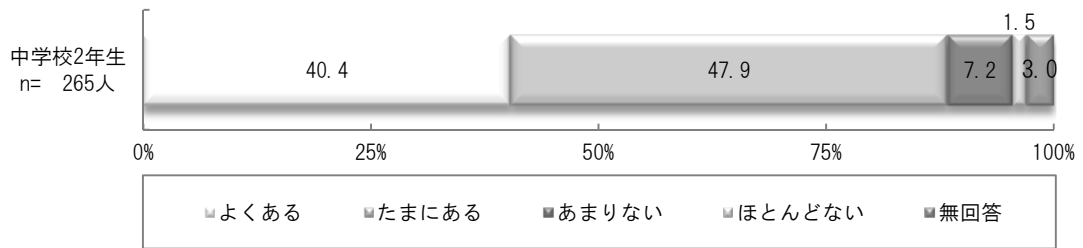
『何もかも壊してやろうと思う』:「ある」小学生 (10.4%)

問 22.8 何もかも壊してやろうと思う



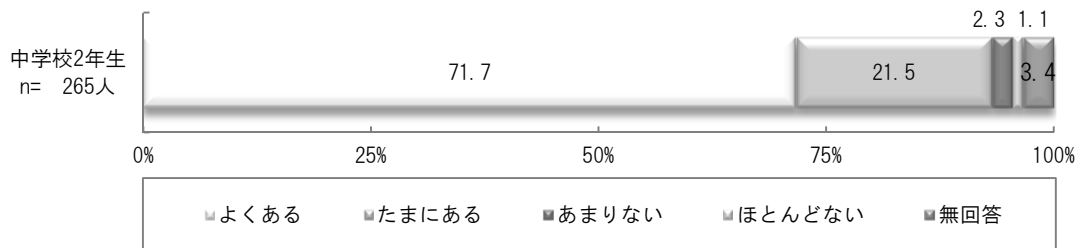
「よくある」「たまにある」中学生（88.3%）

[問 23.1] 誰かのために何かしてあげたいと思う



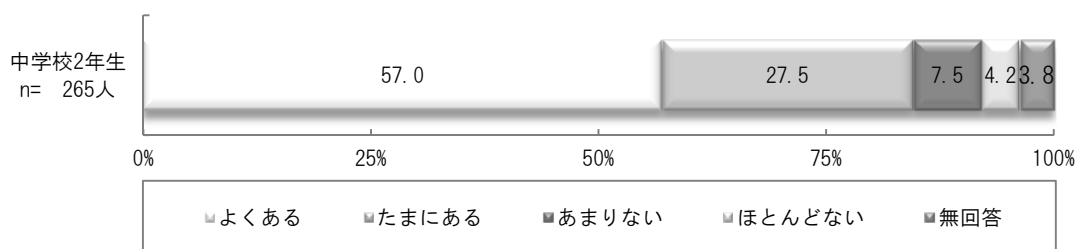
「よくある」「たまにある」中学生（93.2%）

[問 23.2] 何かに夢中になること



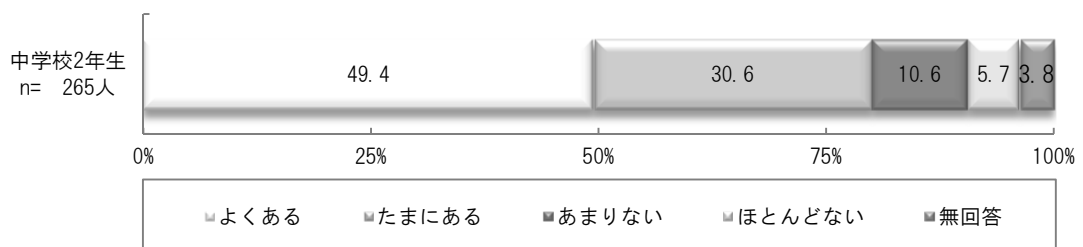
「よくある」「たまにある」中学生（84.5%）

[問 23.3] 楽しく充実していると感じること



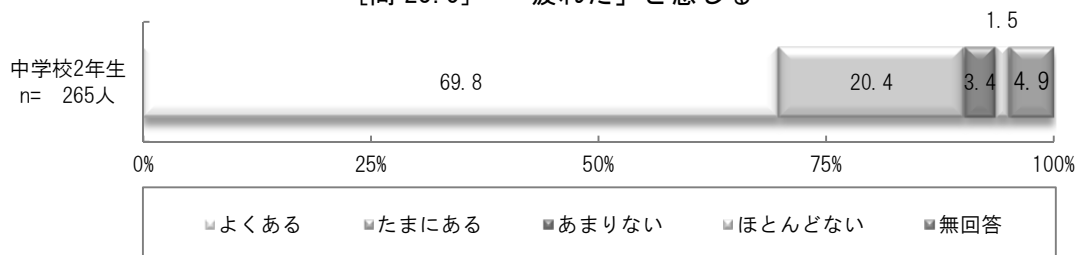
「よくある」「たまにある」中学生（80.0%）

[問 23.4] 本を読んだりテレビを見て感動する



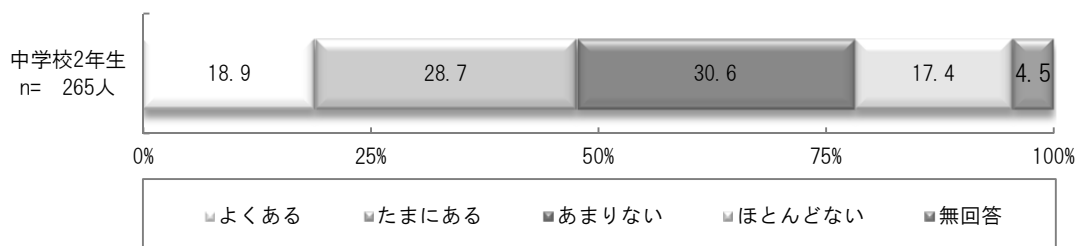
「よくある」「たまにある」中学生 (90.2%)

[問 23.5] 「疲れた」と感じる



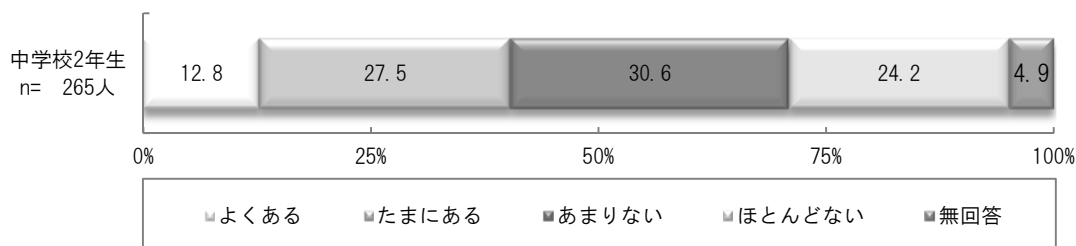
「よくある」「たまにある」中学生 (47.6%)

[問 23.6] 何をやっても嫌になる



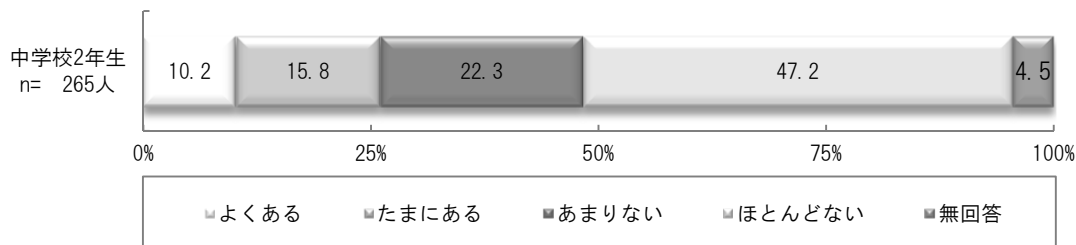
「よくある」「たまにある」中学生 (40.3%)

[問 23.7] お金さえあればよいと思う

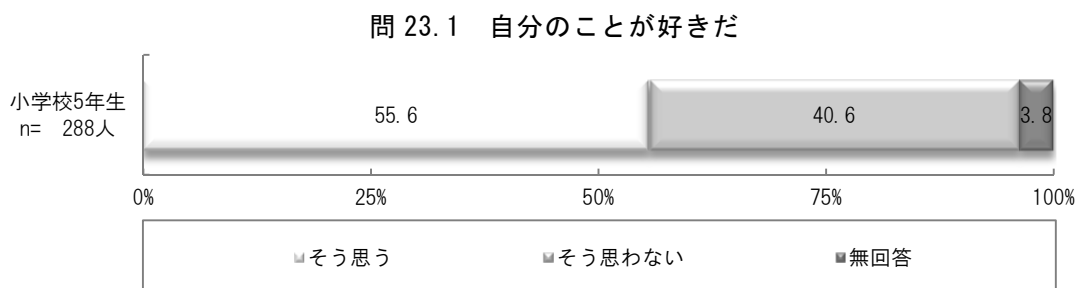


「よくある」「たまにある」中学生 (26.0%)

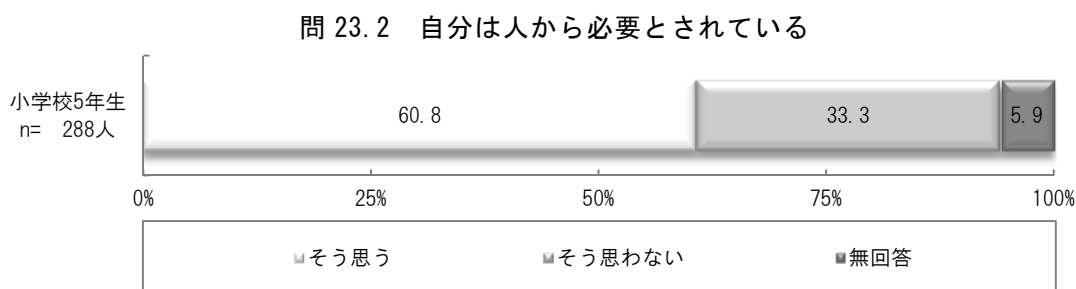
[問 23.8] 何もかも壊してやろうと思う



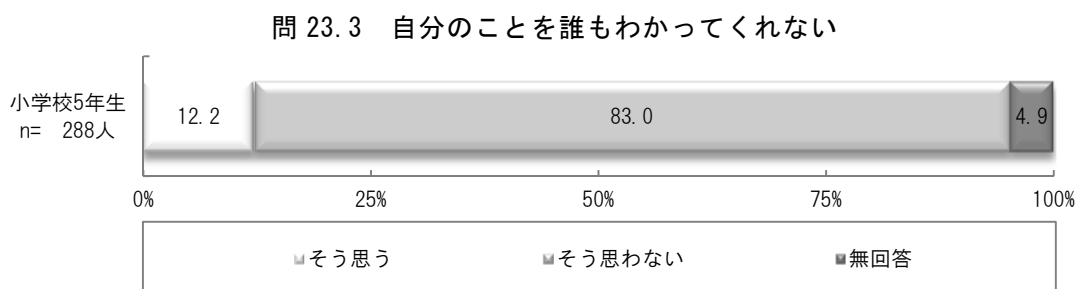
『自分のことが好きだ』:「そう思う」小学生 (55.6%)



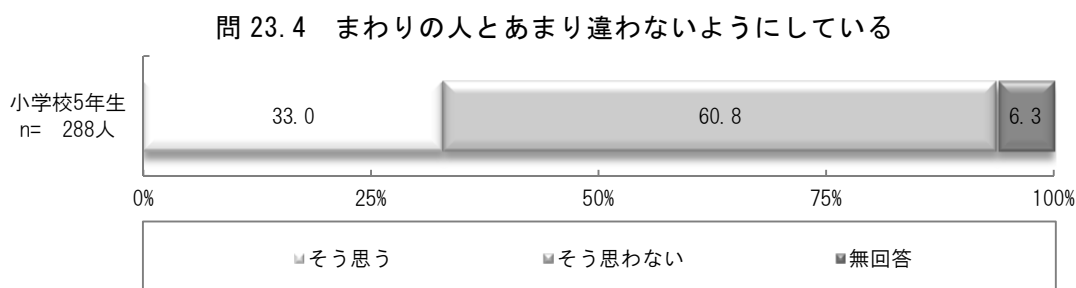
『自分は人から必要とされている』:「そう思う」小学生 (60.8%)



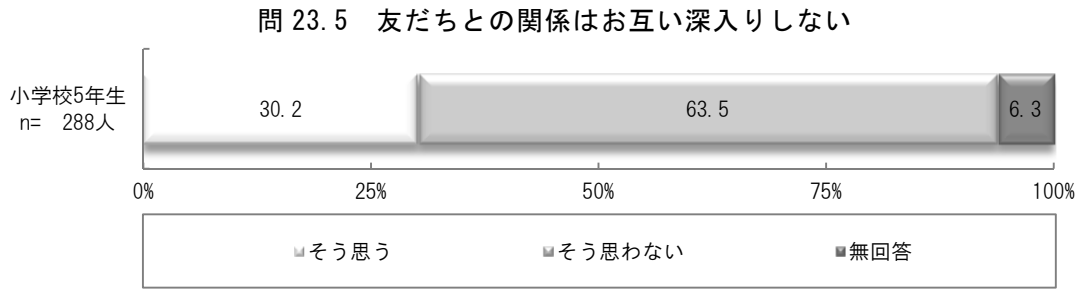
『自分のことを誰もわかってくれない』:「そう思う」小学生 (12.2%)



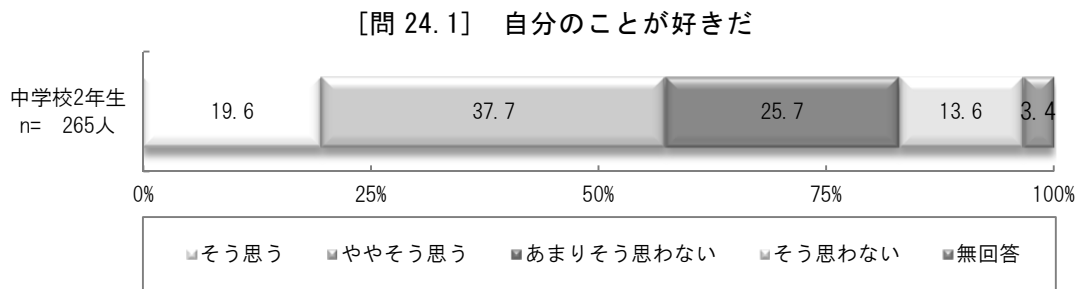
『まわりの人とあまり変わらないようにしている』:「そう思う」小学生 (33.0%)



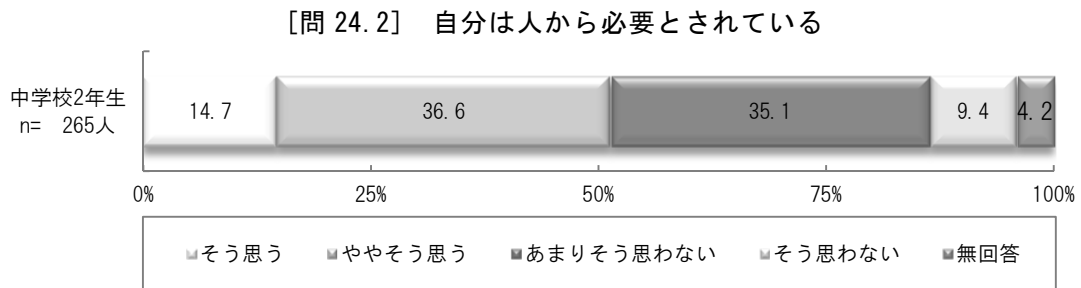
『友だちとの関係はあまり深入りしない』:「そう思う」小学生 (30.2%)



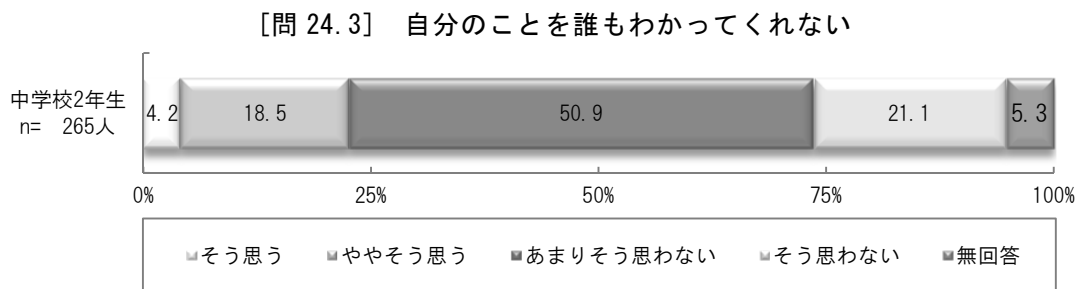
「そう思う」「ややそう思う」中学生 (57.3%)



「そう思う」「ややそう思う」中学生 (51.3%)

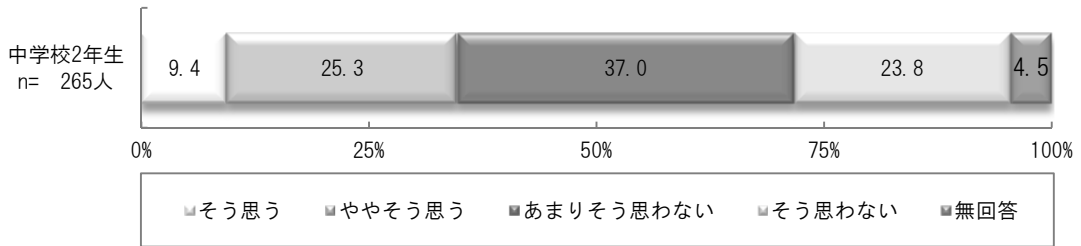


「そう思う」「ややそう思う」中学生 (22.7%)



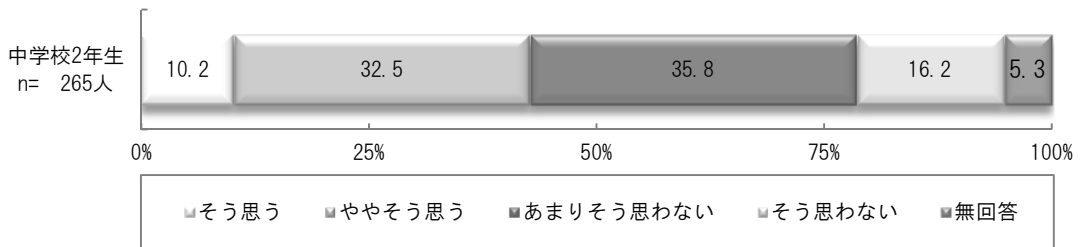
「そう思う」「ややそう思う」中学生（34.7%）

[問 24.4] まわりの人とあまり変わらないようにしている



「そう思う」「ややそう思う」中学生（42.7%）

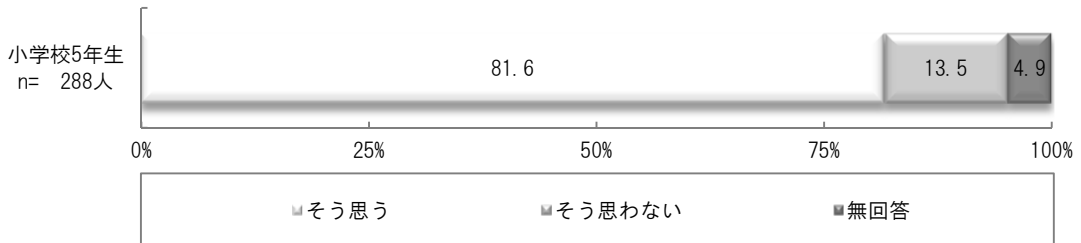
[問 24.5] 友だちとの関係はお互い深入りしない



■ 「大人」に対するイメージ

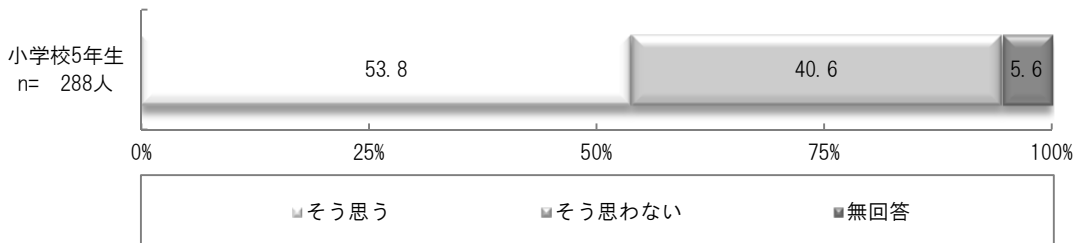
『人や社会に役に立っている』: 「そう思う」小学生（81.6%）

問 24.1 人や社会に役立っている



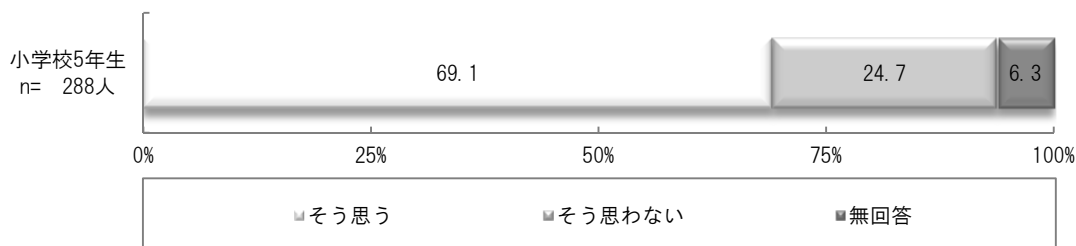
『夢を実現している』: 「そう思う」小学生（53.8%）

問 24.2 夢を実現している



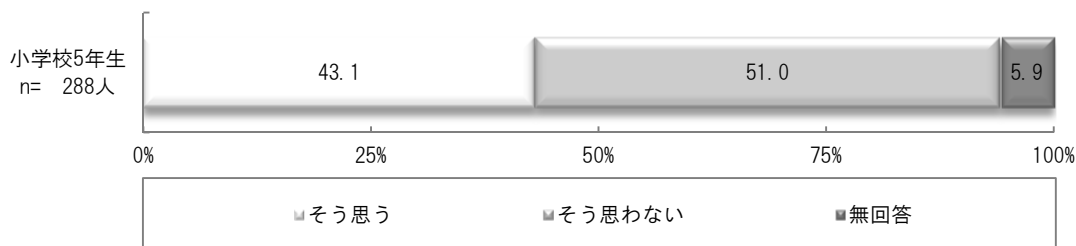
『目標に向かって努力している』:「そう思う」小学生 (69.1%)

問 24.3 目標に向かって努力している



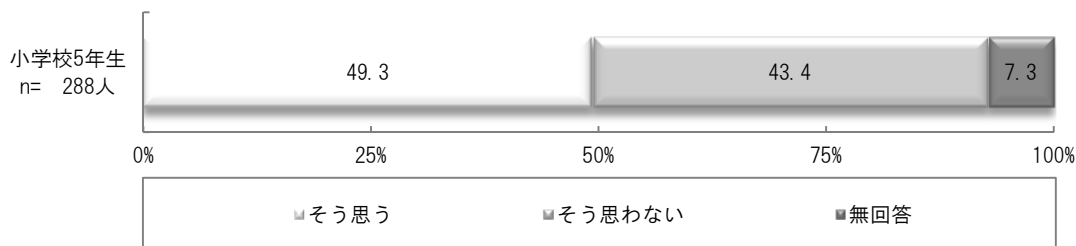
『お金が自由に使える』:「そう思う」小学生 (43.1%)

問 24.4 お金が自由に使える



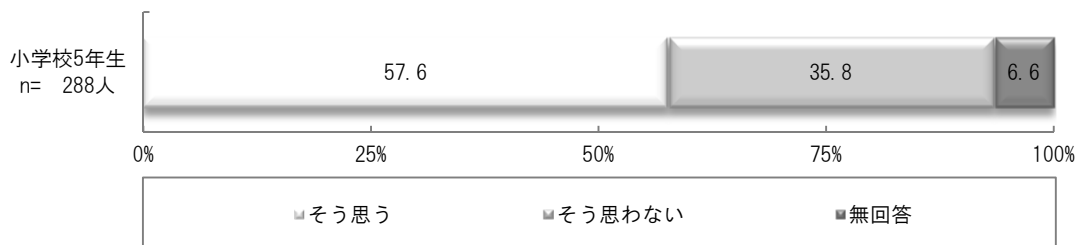
『一人で自由に暮らせる』:「そう思う」小学生 (49.3%)

問 24.5 一人で自由に暮らせる



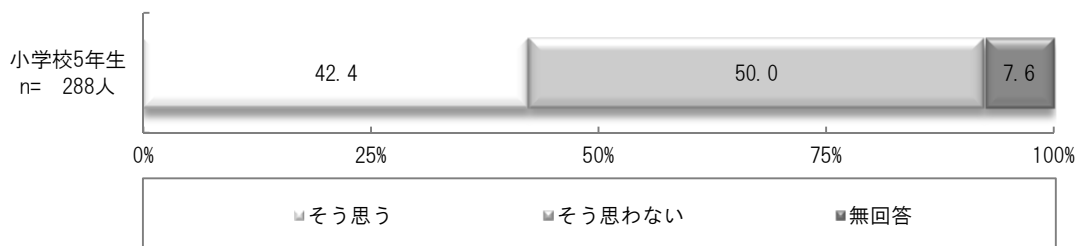
『好きな人と一緒にいられる』:「そう思う」小学生 (57.6%)

問 24.6 好きな人と一緒にいられる



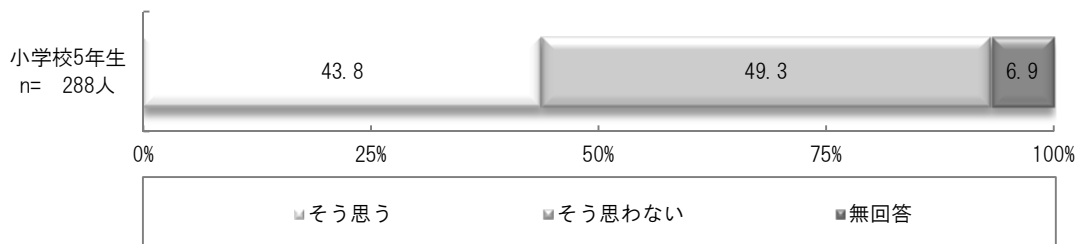
『好きな時間に帰れる』:「そう思う」小学生(42.4%)

問 24.7 好きな時間に帰れる



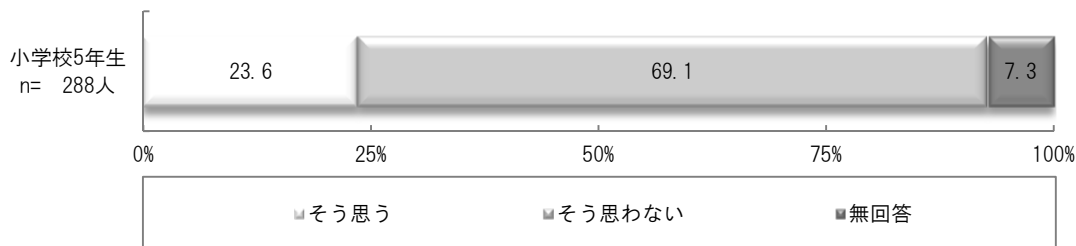
『うるさく口出しされない』:「そう思う」小学生(43.8%)

問 24.8 うるさく口出しされない



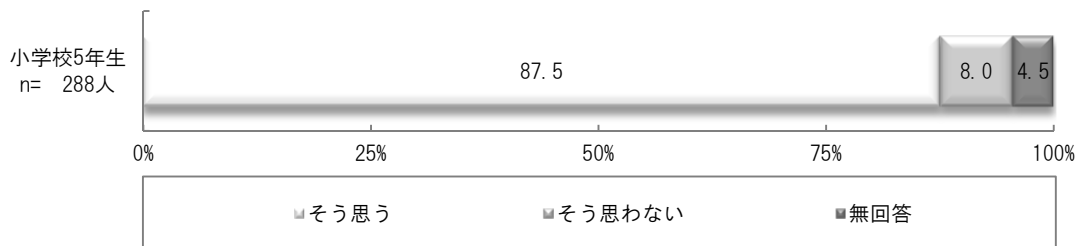
『決まりがない』:「そう思う」小学生(23.6%)

問 24.9 決まりがない

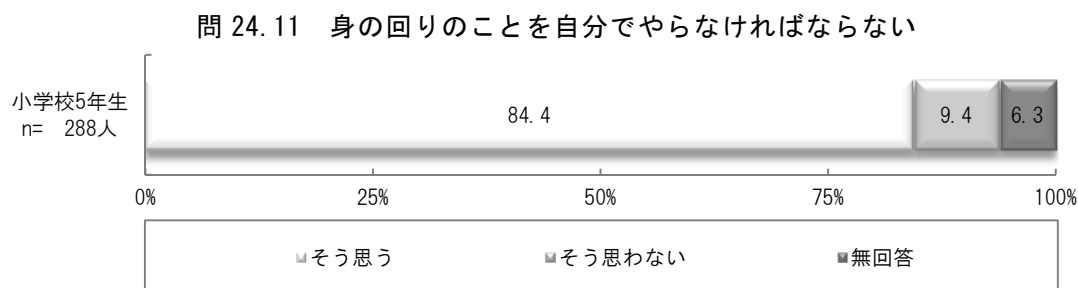


『仕事が大変そう』:「そう思う」小学生(87.5%)

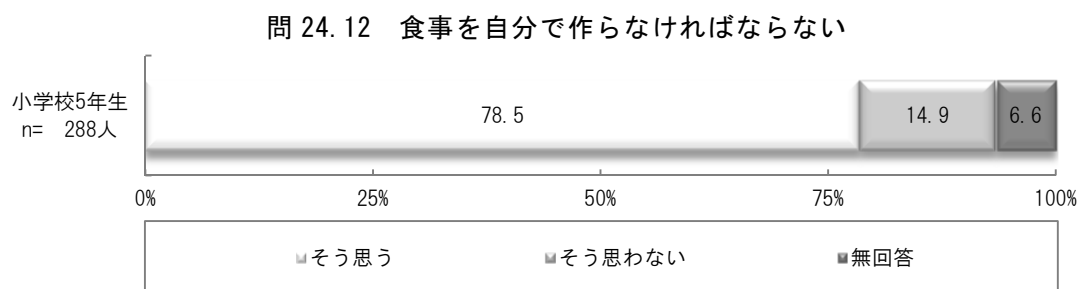
問 24.10 仕事が大変そう



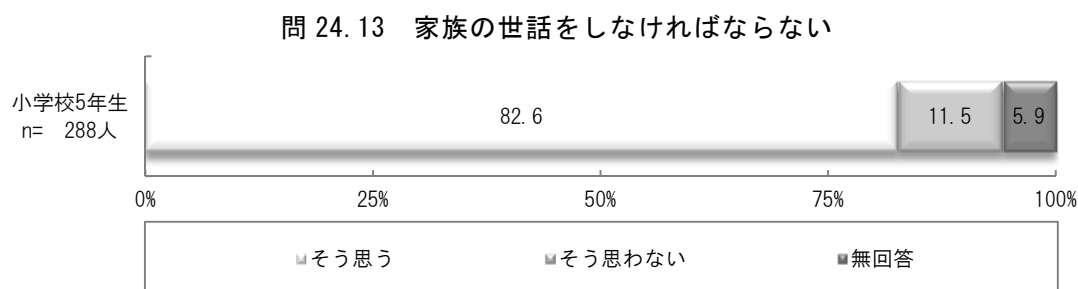
『身の回りのことを自分でやらなければならない』:「そう思う」小学生(49.3%)



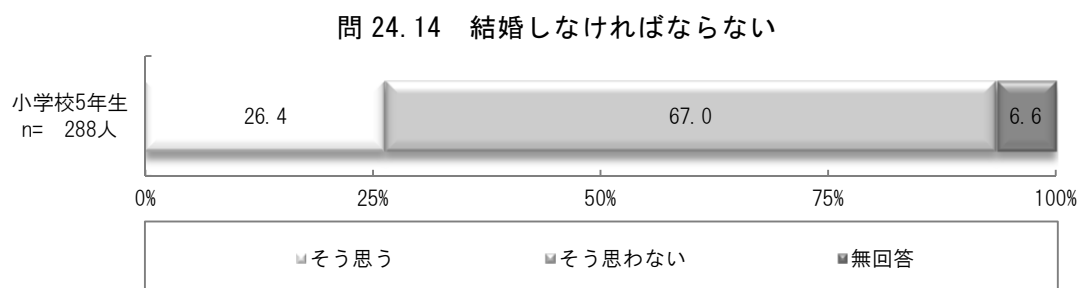
『食事を自分で作らなければならない』:「そう思う」小学生(78.5%)



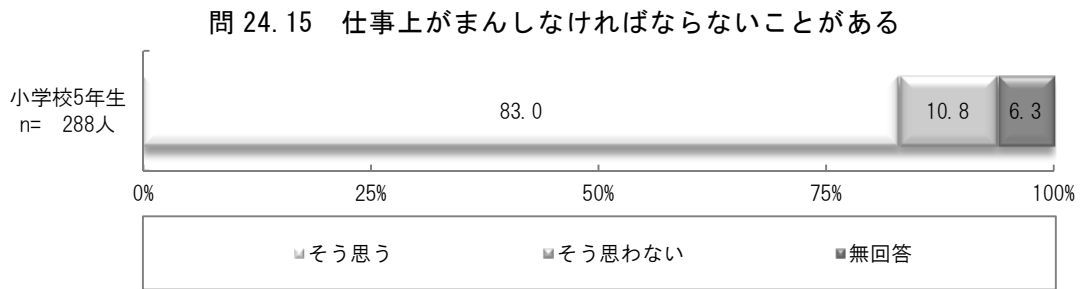
『家族の世話をししなければならない』:「そう思う」小学生(82.6%)



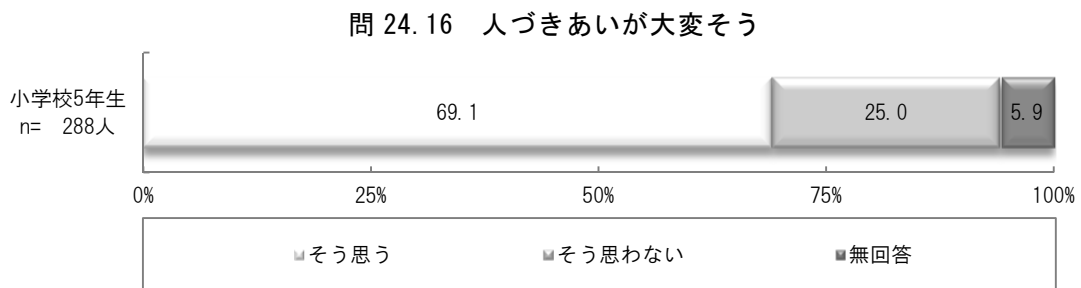
『結婚しなければならない』:「そう思う」小学生(26.4%)



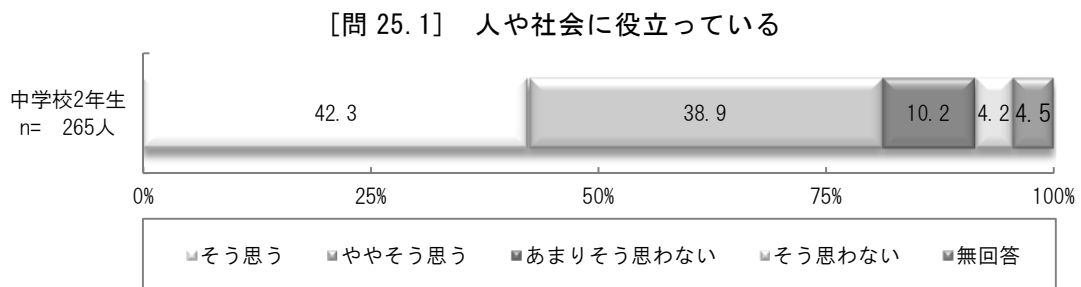
『仕事上がまんしななければならないことがある』:「そう思う」小学生 (83.0%)



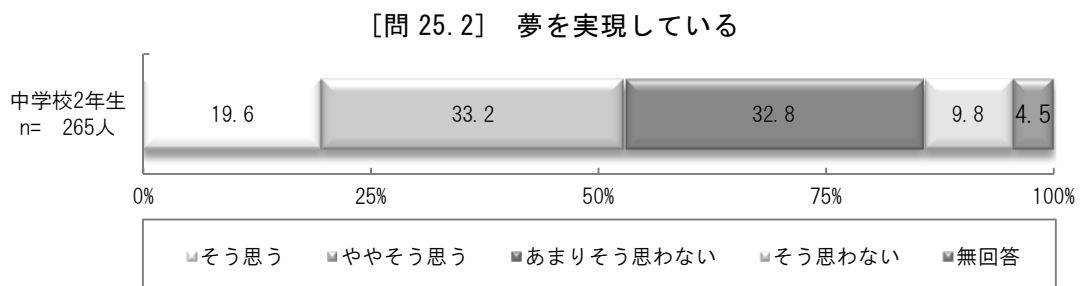
『人づきあいが大変そう』:「そう思う」小学生 (49.3%)



「そう思う」「ややそう思う」中学生 (81.2%)

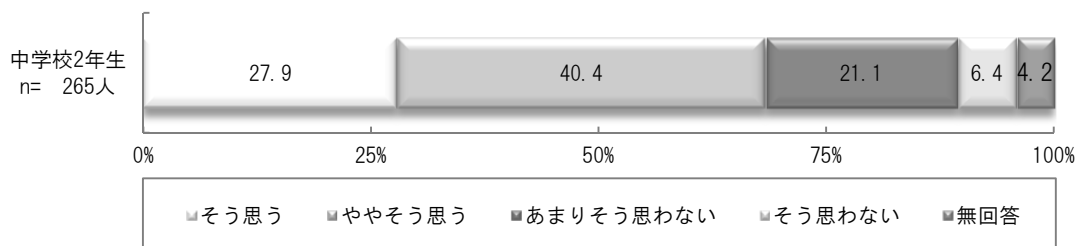


「そう思う」「ややそう思う」中学生 (52.8%)



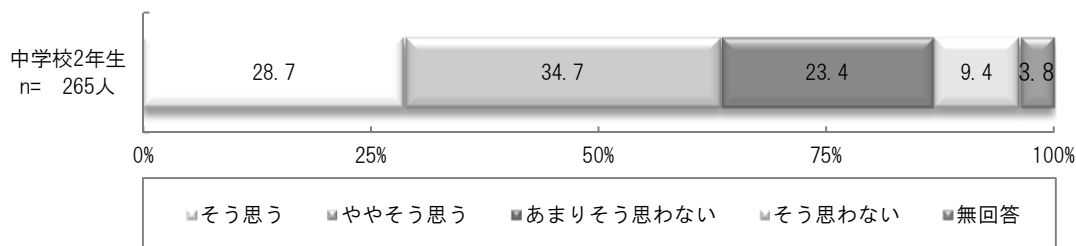
「思う」「やや思う」中学生 (68.3%)

[問 25.3] 目標に向かって努力している



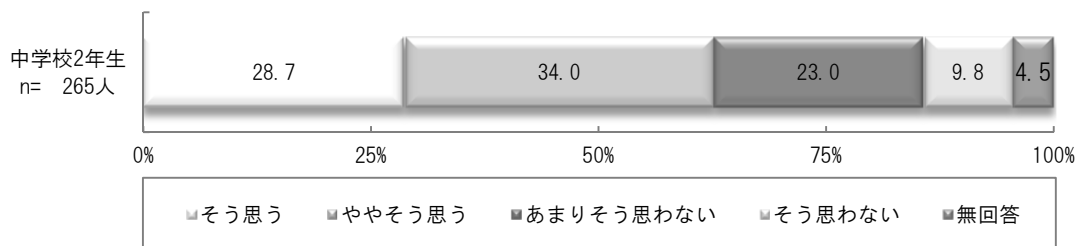
「思う」「やや思う」中学生 (63.4%)

[問 25.4] お金が自由に使える



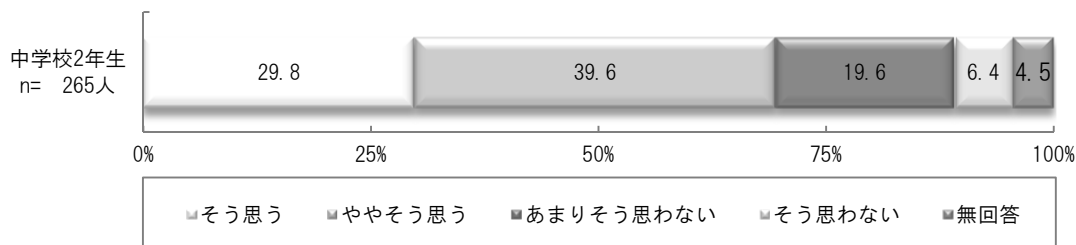
「思う」「やや思う」中学生 (62.7%)

[問 25.5] 1人で自由に暮らせる



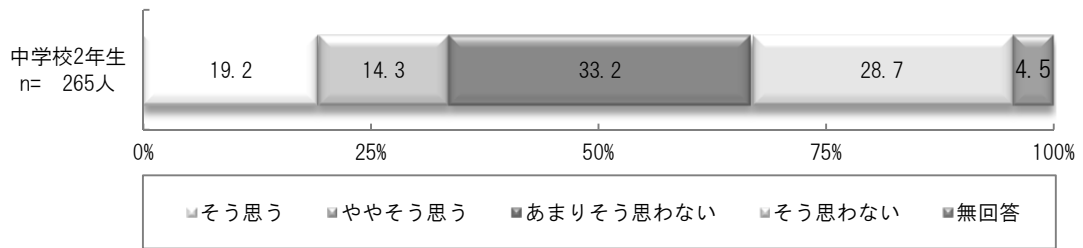
「思う」「やや思う」中学生 (69.4%)

[問 25.6] 好きな人と一緒にいられる



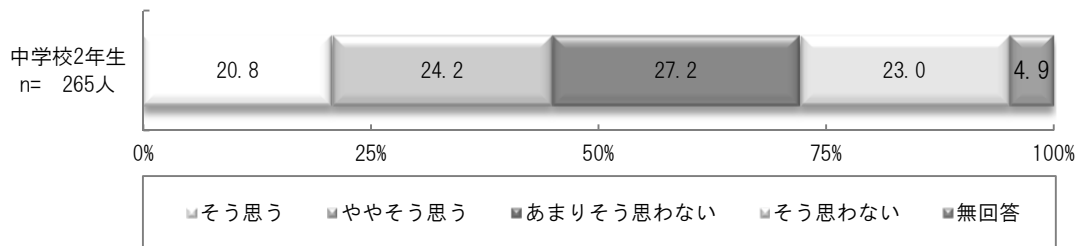
「思う」「やや思う」中学生 (33.5%)

[問 25.7] 好きな時間に帰れる



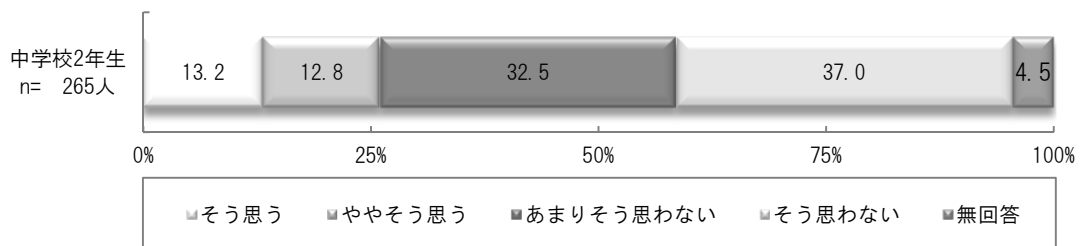
「思う」「やや思う」中学生 (45.0%)

[問 25.8] うるさく口出しされない



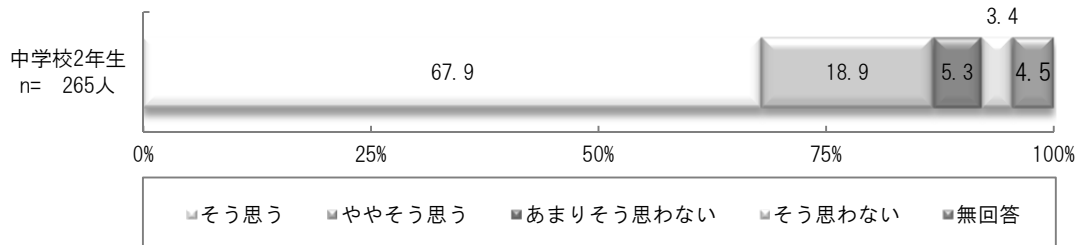
「思う」「やや思う」中学生 (26.0%)

[問 25.9] 決まりがない



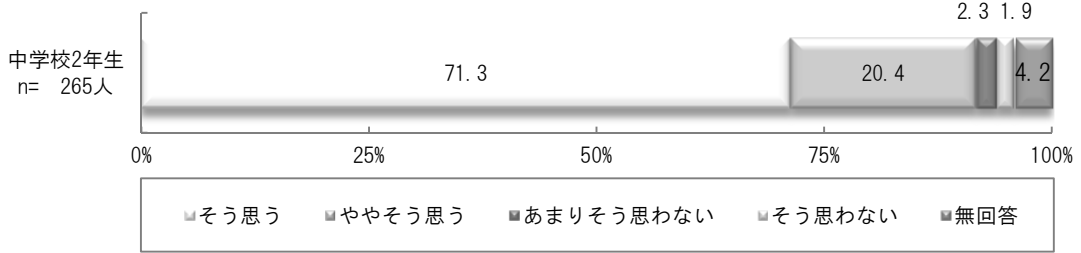
「思う」「やや思う」中学生 (86.8%)

[問 25.10] 仕事が大変そう



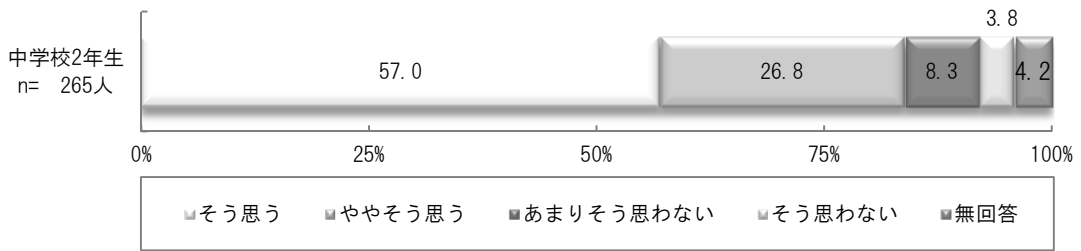
「そう思う」「ややそう思う」中学生（91.7%）

[問 25.11] 身の回りのことを自分でやらなければならない



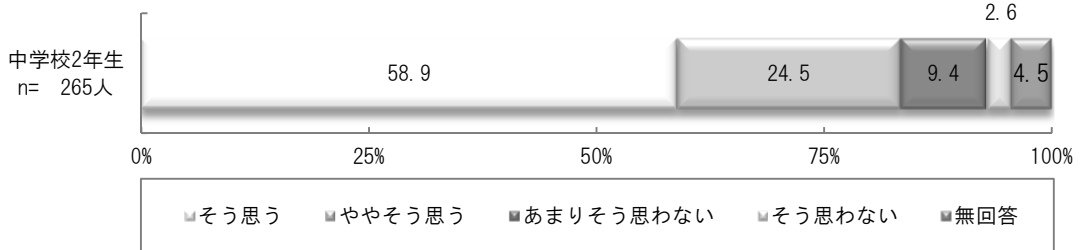
「そう思う」「ややそう思う」中学生（83.8%）

[問 25.12] 食事を自分で作らなければならない



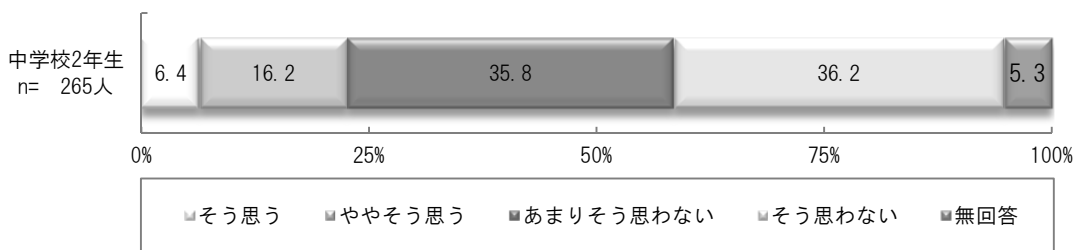
「そう思う」「ややそう思う」中学生（83.4%）

[問 25.13] 家族の世話をししなければならない



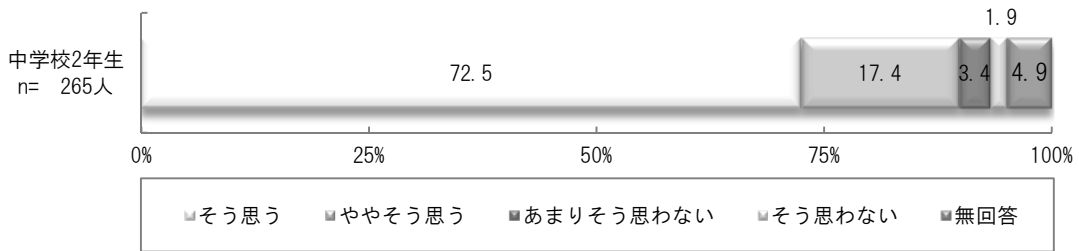
「そう思う」「ややそう思う」中学生（22.6%）

[問 25.14] 結婚しなければならない



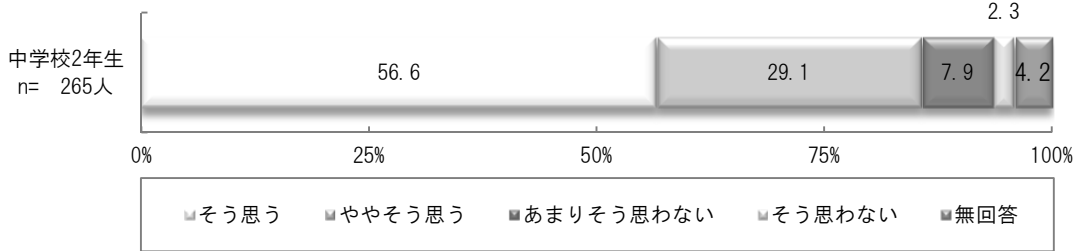
「思う」「やや思う」中学生（89.9%）

[問 25.15] 仕事上がまんしななければならないことがある



「思う」「やや思う」中学生（85.7%）

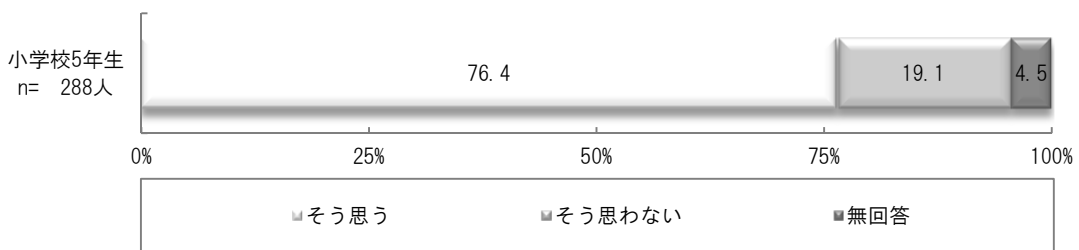
[問 25.16] 人づきあいが大変そう



■ 国立市に対するイメージ

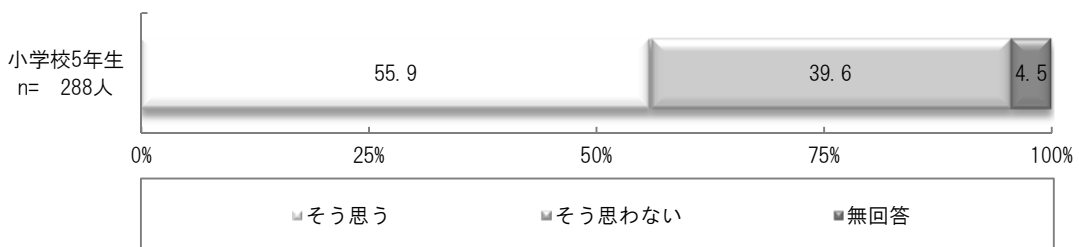
『自然がたくさんある』：「思う」小学生（76.4%）

問 25.1 自然がたくさんある

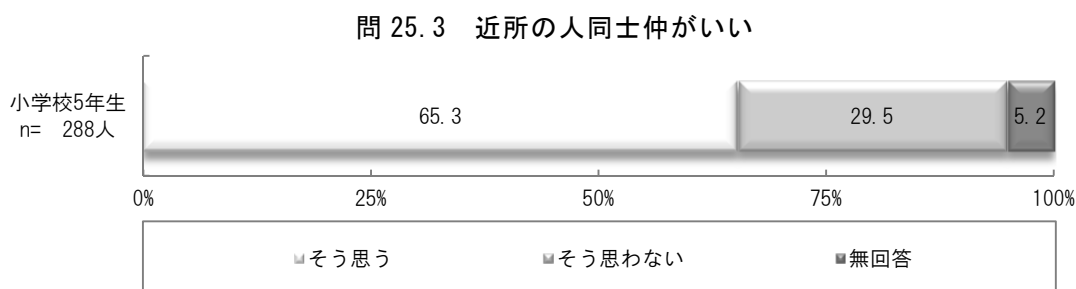


『遊び場がたくさんある』：「思う」小学生（55.9%）

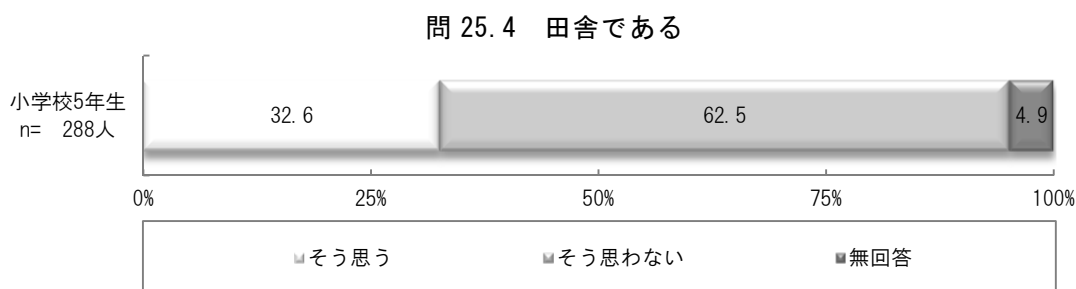
問 25.2 遊び場がたくさんある



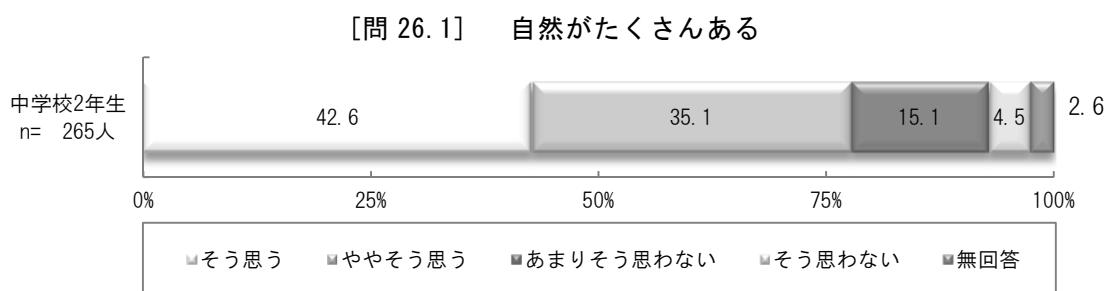
『近所の人同士仲がいい』：「そう思う」小学生（65.3%）



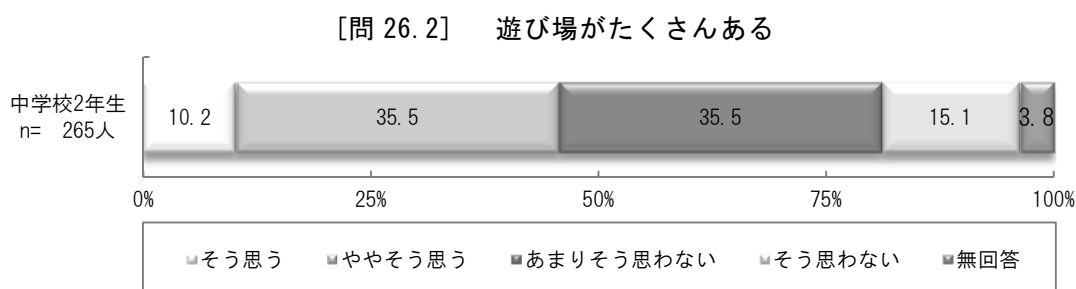
『田舎である』：「そう思う」小学生（32.6%）



「そう思う」「ややそう思う」中学生（77.7%）

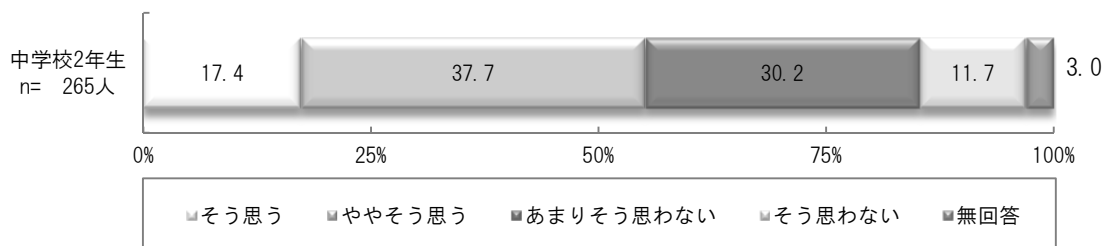


「そう思う」「ややそう思う」中学生（45.7%）



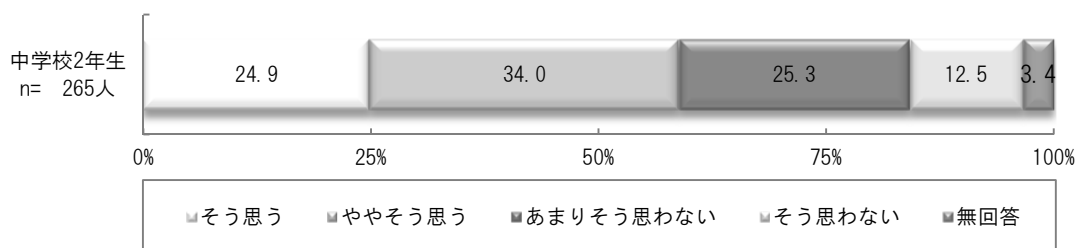
「そう思う」「ややそう思う」中学生（55.1%）

[問 26.3] 近所の人同士仲がいい



「そう思う」「ややそう思う」中学生（58.9%）

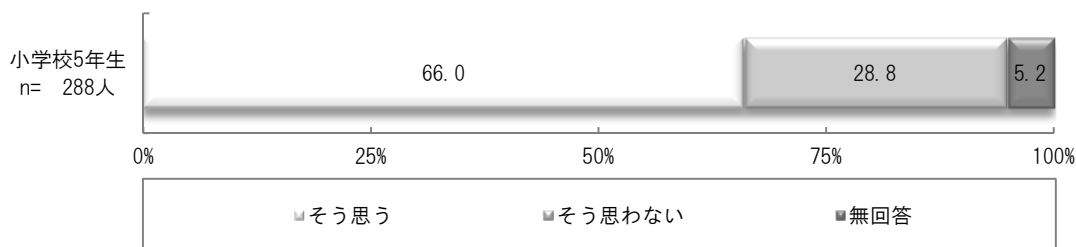
[問 26.4] 田舎である



■ 国立市に住みたいか

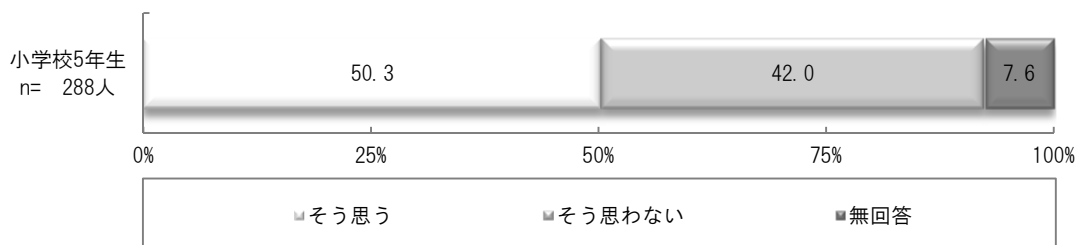
『学生（大学、専門学校等）のとき』：「そう思う」小学生（66.0%）

問 26.1 学生（大学、専門学校等）のとき国立市に住みたいか

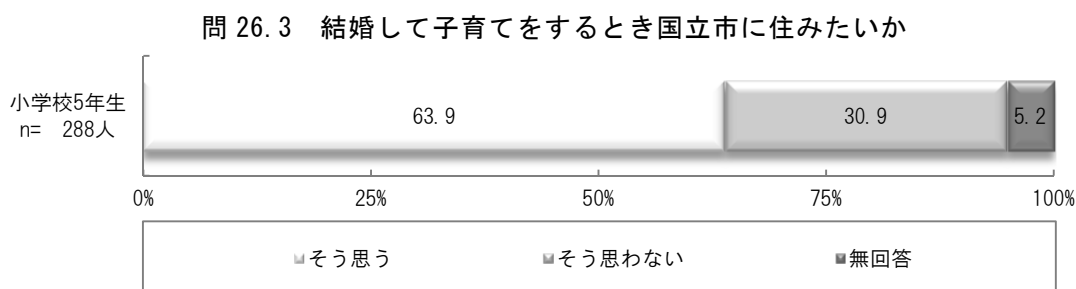


『独身で働いているとき』：「そう思う」小学生（50.3%）

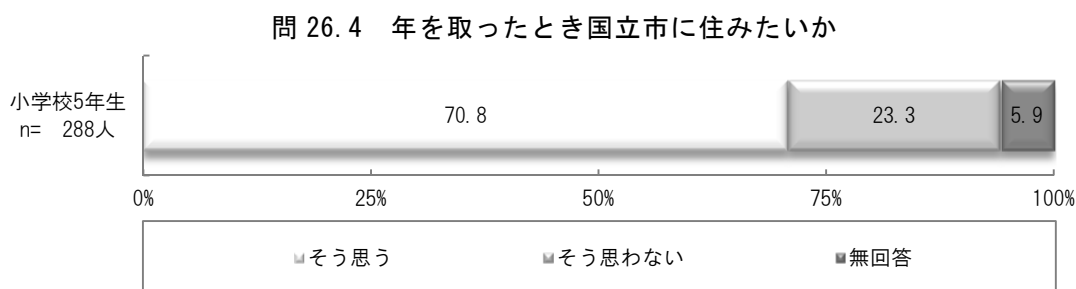
問 26.2 独身で働いているとき国立市に住みたいか



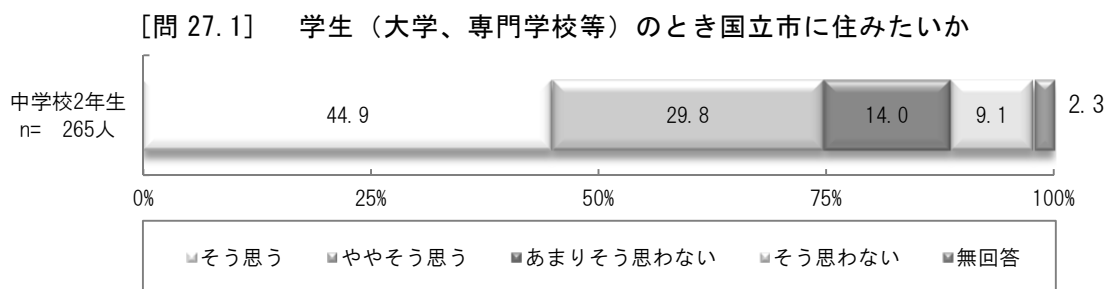
『結婚して子育てをするとき』：「そう思う」小学生（63.9%）



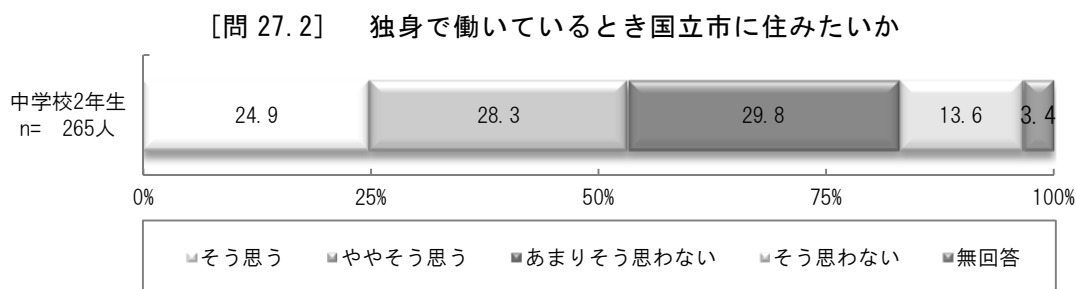
『年を取ったとき』：「そう思う」小学生（70.8%）



「そう思う」「ややそう思う」中学生（74.7%）

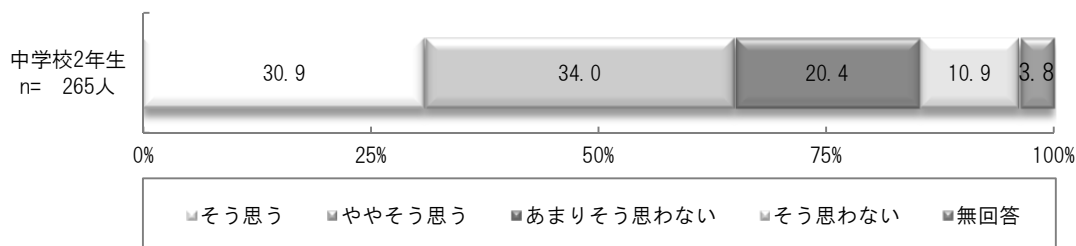


「そう思う」「ややそう思う」中学生（53.2%）



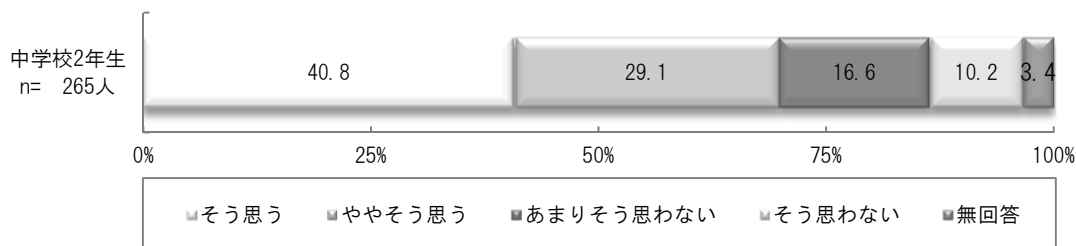
「思う」「やや思う」中学生（64.9%）

[問 27.3] 結婚して子育てをするとき国立市に住みたいか



「思う」「やや思う」中学生（69.9%）

[問 27.4] 年を取ったとき国立市に住みたいか



第 6 章
施設ヒアリング調査結果

第6章 施設ヒアリング調査結果

1 調査の目的

国立市における新しい子ども・子育て支援制度作りを審議するにあたり、子ども総合計画審議会の基礎資料を収集するために、子育て支援に関わる施設・機関の職員等に対するヒアリング調査を通して、子ども・子育て家庭とその支援の現状及び課題を把握することを目的に実施しました。

2 調査の設計

(1) 調査の対象及び内容

【調査対象者】

- 子どもや子育て家庭を支援する次の施設・機関等の職員
(施設においては施設長および施設職員)

公立認可保育所・私立認可保育所・認証保育所・私立幼稚園・家庭福祉員・児童館(学童保育を含む)・子ども家庭支援センター・障害児施設・母子相談員・NPO・保育問題連絡会・私立幼稚園PTA連合会

【調査内容】

<子どもや家庭など利用者の状況>

1. 子どもや子育て家庭など利用者の抱える生活困難について(主として、子どもの育ち、親子・家族・友達関係、地域とのつながり、子育て・子育て環境、家計の状況、子育ての価値観、生活時間等について)

<自施設・機関における支援の現状>

2. 子どもや子育て家庭など利用者の抱える生活困難に対する支援および課題
 - (1) 1に関して取り組んでいること(どのような生活課題に対して、どんな方法・工夫によって対応しているのか)
 - (2) 1に関して十分に取組めずにいることとその理由

<必要とされる支援の提案>

3. 1・2を踏まえ、今必要とされている支援・施策・工夫について
 - (1) どんな課題に対して、誰による(行政・民間・市民、または具体的な施設・機関・専門職など)、どんな支援があるとよいか
 - (2) 自施設・機関として、新たな取り組み(プログラム)やサービス内容・質の向上・工夫を通して取り組むことができる課題とその方法について
 - (3) (2)の取り組みを進めるために必要とされる課題について(支援者の力量、研修、連携・協働・ネットワーク、プログラムの改善・開発、行政の支援等について)

(2) 調査の実施内容

調査の実施内容は、以下のとおりです。

【調査時期及び方法】

調査時期：平成 26 年 2 月

調査方法：聞き取り調査

3 主な内容

(1) 子どもや家庭など利用者の状況

1. 子どもや子育て家庭など利用者の抱える生活困難について（主として、子どもの育ち、親子・家族・友達関係、地域とのつながり、子育て・子育て環境、家計の状況、子育ての価値観、生活時間等について）

対象機関	意見内容
公立認可 保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の子どもや、行動や家庭環境などが気になる子ども、アレルギーを持つ子どもが増えている。 ・祖父母が近くにいない家庭が多く、子どもの体調が悪いときなどは、九州や北海道等から祖父母が駆けつける場合があるという。 ・ひとり親家庭が増え、母親の年齢が低くなっている。 ・父親が朝の送りをする家庭が増えた。 ・0歳～1歳の乳児が多い。保護者の勤務時間が早くなり、子どもが集団で過ごす時間が長くなっている。 ・精神的に安定しない親は子どもに影響を与えている。その子どもが衝動的になり暴力を振るったりすることがある。
私立保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・父親の子育て参加が増えてきている。保育所に朝は父親が連れてくる家庭が多い。園の懇談会や保育参観なども父親の参加が多くなっている。土日に公園で子どもを連れて遊んでいるのは、ほとんど父親になっている。 ・母親と子どもが自宅でどのように接しているのか気になる。子どもが1人で遊んでいるそばで母親がスマートフォン（携帯電話）を操作しているのが目につく。1歳の子どもが積み木を耳に当てる様子が見られる。 ・子どもはかわいいが、子育てとなるとストレスを感じてしまう場合がある。 ・最近兄弟が多い家庭が増えている。親だけで面倒を見きれないため、支援者やサポートする人が必要だと思う。 ・助言者やアドバイスもしてくれる人がいても、ネットの情報の方を信じてしまう傾向が見られる。家庭事情や子どものことについて、チャットやSNSを通じてママ友に流れることがある。
認証保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・国立市は0～2歳が保育所の対象だが、保育料が高く複数の子どもがいると経済的な負担が大きい。 ・認証保育所を利用する子どもはポイント制により、認可保育所に入る選択がしやすくなる。0～2歳の期間で認可保育所に入れれば移ってしまう。3歳になったときの行き場がないため、移れるときに移りたいというのが現状である。 ・3歳から幼稚園に行った場合に、幼稚園の預かりより保育園を利用したい人がある。

対象機関	意見内容
私立幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを幼稚園に通わせている家庭と預かり保育を利用している家庭では、ニーズが全く異なる。私立小学校への進学が目的で入園する人は、預かり保育を併用することはほとんどなく、緊急時の預かり先に困るような家庭は少ない。 病児の預かり先があると助かる家庭は多い。両親が共働きで、子どもの病気のために父親が休みを取ることが難しい場合があり、ママ友同士で預け合い、協力しながら乗り切っているところもある。 預かり保育では弁当を週1回注文が可能。預かり保育などの場を通じて、母親がひと息できるようなところが必要になっている。
家庭福祉員	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とは特にトラブルはなく、信頼関係が築きやすい。
児童館 (学童保育)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの居場所が少なくなっている。 親子で利用したり、母親同士での仲間づくりもできている。 学童保育は19:00まで預かっているが、習い事を始めると早い時間に帰宅するようになり、徐々に利用者は減っていく。
子ども 家庭支援 センター	<ul style="list-style-type: none"> 施設を利用している子どもは年間約9,000人で、去年に比べて若干増えている。未就学の児童を主な対象とし、小学生は施設の規模的に受け入れが難しい。 施設が立ち上がった10年前に比べて各自治体で子育て施策が整備され、インターネットの利用規模も広がったため、親が要求するレベルが非常に高くなった。 インターネットや雑誌等で情報が簡単に手に入るようになったが、そこに他人の主観が入る分、自分で行って確かめずに評判だけで決めてしまう場合が多い。 子どものメディアリテラシーについては、早くから保護者がメディアの問題を的確に捉えられるようにする必要がある。アプリを使って子どもを泣き止ませる親がいるが、なぜ子どもが泣いているかを理解しないと根本的な解決にはならない。何でもインターネットやアプリで解決できるとされるのはどうかと思う。
障害児施設	<ul style="list-style-type: none"> 行動障害や発達障害の診断が非常に増えている。障害の多様化に対応する職員のスキルがなかなか追いつかない。 本人を入所させたら家族が離れてしまうことがないように、できるだけ関わりを継続できるような支援が必要である。
母子相談員	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親の相談が多い。今まで主婦だった人が、離婚によって経済的に困る場合が多い。就労支援が必要。父子家庭の相談もある。 DV関連の相談が多い。父親と母子の距離の取り方が問題になる。どのような支援が望ましいかはケースバイケース。 ひとり母親の場合、家庭内で父親・母親両方の役割を果たそうとして、ぎりぎりのところまで頑張ってしまう人が多い。ひとり親に対する精神的な支えが必要。
NPO 団体	<ul style="list-style-type: none"> 経済的困難を抱える家庭の子どもは、駄菓子の買い物にお金を持って来られない。家庭の経済状態が厳しいと思われる。一方、お金はそこそこ持っているが家族の影が見えない子どももいる。夜に親が仕事で不在のことが多い。家庭による格差が大きい。 親が外国人である子どもは、通常の話し言葉では問題ないが、教科書等に載っている学習言語が理解できないことが多い。それが勉強でのつまづきになり、学校に登校しなくなってしまうこともある。しかし、現実には高卒でないと就労できる仕事がない。
保育問題 連絡会	<ul style="list-style-type: none"> 都内に親や親戚がいれば忙しいときに面倒をみてもらえるが、頼れる人が全くおらず、夫も家にほとんどいない場合は、どうしても孤立しがちになる。自分の悩みを口にしない親が多い。 土日に親が仕事をしている場合、子どもの居場所がない。土曜は学童保育が辛うじて空いているが、日曜は全くない。 幼稚園や小学校は放課後の交流が盛んだが、保育園の場合は行く場所がなく孤立感が大きい。 スマホに夢中になって子どもを放置したり、SNS等で悪い噂を広めたりする親はごく一部だと思う。

対象機関	意見内容
保育問題 連絡会	<ul style="list-style-type: none"> ・利用する保育園を変更せず、市外へ引越をする親が増えてきた。 ・住民が「新しく転居してきた層」「数年前に転居してきた層」「古くから住んでいる層」に分かれている。子ども会活動等は盛んに行われているが、関わらない人は一切関わろうとしない。古くから住んでいる層にあたる人たちがもう少し頑張らないといけない面もある。 ・クラスの保護者会や連絡網が一切なく、親同士がつながる場もない。保護者会への参加等を嫌がって、別の保育園を利用している親もいる。 ・親の世代が広がった分、価値観も多様化して、まとまりが付かなくなっていると感じる。
私立幼稚園 PTA連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の子どもを通園先について、専門機関のある市外か、市からの補助が受けられる市内か困っている親がいる。 ・幼稚園からの下校後に兄弟の小学校参観等がある場合、夕方まで預けられる保育園と違い、幼稚園児を連れて小学校に行かなければいけない。幼稚園と別の預け先をお願いする場合は、新たに保育料がかかり、経済的な負担が大きくなる。 ・子どもがのびのびと遊べる環境が身近に少ない。近所の公園では、サッカーなどのボール遊びが禁止されている。小学校の校庭を開放しているところは、時間が限られている。子どもの体力低下が叫ばれていても、遊ぶ場が少ないと体力をつける機会を失われてしまう。 ・道路や看板の危険箇所がある。

(2) 自施設・機関における支援の現状

2. 子どもや子育て家庭など利用者の抱える生活困難に対する支援および課題

(1) 1 に関して取り組んでいること(どのような生活課題に対して、どんな方法・工夫によって対応しているのか)

(2) 1 に関して十分に取り組めずにいることとその理由

対象機関		意見内容
公立認可 保育所	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭が増え、親の相談を受けることもあるが、保護者との信頼関係を作るのが難しい。 ・叱り方がわからない、甘えさせ方がわからない、家庭では子どもをそばで見ているだけで一緒に遊んでいない家庭がある。 ・保護者同士の交流が減り、保護者会も成り立ちにくい。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員不足。週5日働いてくれる人が見つからない。保育時間は延長しているが、職員の数が減っているために負担が大きい。職員に心のゆとりがなく、ゆとりのある保育ができない。 ・病児保育室の数が少なく、インフルエンザなどのときは利用者が重なってしまう。
私立保育園	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・母親の目線が中心で子どもが本当に望んでいることか疑問に思うことがある。大人の働きやすさを追い求めすぎているところを、保育園としてどう支援していくか課題となっている。 ・祖父母が身近にいても話したくない、いろいろ言われるのが嫌だという人もいる。このような環境にある子どもや母親を支援していくのが保育所の役割であるが難しい面がある。 ・0歳児や1歳児の親はフルタイム就労の方が多い。小さい子の長時間保育が多い分、職員の負担も多くなる。 ・障害児を長時間預けたい希望がある。

対象機関		意見内容
私立保育園	(2)	<ul style="list-style-type: none"> • より支援の手が必要な子どもが増えてくると、保育士に負担が掛かる。 • 個人情報に関係で、家庭の状況まで把握するのは難しいが、緊急な情報は市と連携を取り対応に当たらなければならないと思っている。 • 園ではおむつ外しの訓練をして取れそうになっているが、家では関係なくおむつをすることになり、訓練が生かされないことがある。
認証保育所	(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 子ども子育て会議を設置し、会議の意義を明確にし、各施設の方針をどのようにしていくか議論すべきである。 • 認証保育所は認可保育所の下請けのような扱いにされては困る。0歳～2歳が対象なので、料金体系や人員確保、3歳以降の問題もある。 • 国の制度ではなく都の制度なので、国の考え方で進めては制度の谷間に落ちてしまう家庭が出てしまう。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> • 人件費が掛かるため、ニーズがあっても簡単に規模を拡張できない。 • 認可保育所の3分の2しか予算がなく、今以上のことをやろうとしてもできない。 • サービスの資質を上げて、認可保育所とは料金体系が違うため、同列での扱いにならない。
私立幼稚園	(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 小学校PTAと同じ組織となる保護者会があり、年間行事を行っている（救急講座など）。親同士の交流を通じて、母親が家庭に閉じこもらないようにする。 • 年3回の保護者参観日のうち1回を日曜開催にして、父親が参加しやすいようにしている。 • 主に母親へのフォローとして、1学期毎に保護者面談を行っている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> • 預かり保育実施時間の関係で、朝預かりは教諭、夕方預かりは保育士が担当。教諭は日中の授業についての教材準備などがあるため、預かり保育との兼務は非常に難しい。 • 夕方に勤務する保育士と、打合せが夕方以降に集中する教諭とで、打合せの時間を作るのが難しい。 • 幼稚園の教育的な雰囲気と、預かりの家庭的な雰囲気をどう折り合わせていくか。
家庭福祉員	(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 保育士の資格を取得し、保育がしやすいように障壁のないオープンな間取りや室内に改造した。 • 自分自身の休みが取れず、1日5時間の補助スタッフを雇っている。 • 連携保育所との信頼関係づくりをしている。 • 0歳児をみるのは大変で、常に呼吸の確認を行っている。体調管理や体力づくりで苦労した。 • 耐震、防災など災害時の準備もしている。地震等のときはダイヤル171番（災害用伝言ダイヤル）で音声録音をし、自分の声が録音されていないと緊急事態と判断できる。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭福祉員を務めるために設計した家ではないので、改造に費用がかかる。
児童館 (学童保育)	(1)	<ul style="list-style-type: none"> • ゲームカードの遊びを許可しているが、ゲーム以外でも職員とも遊ぶ工夫を行っている。 • 児童館は自由な居場所なので、保護者の就労状況や家庭の状況までは踏み込んでいない。 • 緊急時等は、市の関係部署と連携ができています。 • 学童保育には今のところ深刻な児童はいないが、子ども同士の間人間関係がいじめ等につながらないように気をつけている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> • 学童保育で支援の必要な子どももいるが、学校の先生と連携が取りにくい。また、個人情報の共有のしづらさがある。

対象機関		意見内容
子ども 家庭支援 センター	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者には月齢毎にグループを作ってもらい、その中でサークルの立ち上げをしていただいている。1人で抱え込まずに仲間を作り、情報を共有して皆で子育てをしてほしい、という考えのもとに行っている。 ・親からアドバイスをもらおうと夫が不満を感じてしまう場合があり、自分より2～3歳上の親と交流を持つことを勧めている。 ・職員が保護者からの相談の内容を毎日記録している。里帰りや夫の協力、発育の問題等について相談を受ける。 ・市に発達支援室が設けられたが、いきなりそこへ相談しに行く前に支援センターで一度話を聞いた上で窓口を紹介するという形で対応している。必要があれば医療にもつなげている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・親の姿勢が「自分たちで何かを行う」から「行政が何をしてくれるのか」と変化している。グループ活動も、施設がいろいろと手伝いをしないと成り立たなくなっている。親はインターネットを通じた交流が多い世代なので、対人的なコミュニケーションが難しいのかもしれない。 ・短時間労働や行事の参加等の理由で週2～3回程度利用している人もいるが、採算的に厳しい面がある。 ・病児・病後児保育は、人件費や衛生面の問題があり今のところ実施していない。
障害児施設	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所を通じて家族と連絡を取り、月1回の面会や施設内での行事の参加、入所により親子を分離して落ち着いてから週1回の自宅外泊を実施するなど、利用者と家族との接点を持てるように支援している。 ・利用者だけではなく、家族に対するケアを同時に行うことが必要。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待による措置での入所の場合は、家族との接点の持ち方を慎重にする必要がある。 ・加齢児（児童福祉法の対象外となる18歳以上の障害者）の地域移行が進まないため、地域の困難ケースにすぐに対応ができない。
母子相談員	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援が支援のいちばんの目的である。ひとり親の就労に向けた資格取得を積極的に勧めている。 ・ひとり親家庭に対する書類の提出等を通じて、支援している親には月1回会い、様子を伺っている。 ・母親が就労をしている場合、子どもに十分目が行き届かないことがあり、子どもの情緒が不安定になることがある。母親に対して、カウンセリング機関や夜間相談（第2・4火曜日 17:00～20:00）を紹介している。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親に見合った就労先を見つけることが難しい。子どもがいるため、フルタイムの長時間労働に従事することが難しい。一方、正社員でない形での就労の場合は賃金が安く、月15万円程度の収入を得るのが精一杯。生活費に不足する分を、児童扶養手当でカバーしている状態。
NPO 団体	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの自主性を尊重し、子どもの遊び場部屋では好きなことをさせ、「〇〇をきなさい」と言わないようにしている。強制や否定は、子どもの成長を阻害する。 ・子どもにはできるだけ感動する体験をさせたい。その思いから、ハンドベル演奏や科学教室を行った。 ・子どもにとって、親や先生との縦の関係ではない、子ども同士の横の関係ではない、近所のおじさんおばさん、お兄さんお姉さんのような「斜めの関係」が多いほど生きやすいと感じる。NPO 団体の活動場所が、斜めの関係づくりの場になっている。

対象機関		意見内容
NPO 団体	(2)	<ul style="list-style-type: none"> • 売り上げが少なく、活動場所を拡げることができない。 • 毎週土曜午後に来られるスタッフを確保することが難しい。運営費が潤沢ではないため、スタッフに支払える賃金が少ない。 • 学生が勉強のためにボランティアとして入ることを希望するが、学生が期待するほど子どもがなつかなかつたりすることがあり、子どもとの関係づくりに時間が掛かることを受け入れられるかどうか。
保育問題連絡会	(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 母子家庭の親から連絡が来ないことや、アンケートへの参加を断られることがある。
私立幼稚園PTA連合会	(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 年1回、市子ども支援担当者との懇談を行っている。 • 道路等の危険箇所について、管轄に陳情を行っている。幼稚園で独自に、市内の道路等の危険箇所はどこか、アンケートをとっているところがある。 • 道路の危険箇所があった場合、管轄の都管理事務所や警察に訴えたことがある。警察から市に連絡していただき、看板を設置できたことがある。 • 連合会の総会で、防災に関すること（親として子どもの安全を守る方法について）や子どもと電子ゲームとの関係についての講演会を開催している。来場者は約300名。

(3) 必要とされる支援の提案

3. 1・2を踏まえ、今必要とされている支援・施策・工夫について

- (1) どんな課題に対して、誰による（行政・民間・市民、または具体的な施設・機関・専門職など）、どんな支援があるとよいか
- (2) 自施設・機関として、新たな取り組み（プログラム）やサービス内容・質の向上・工夫を通して取り組むことができる課題とその方法について
- (3) (2)の取り組みを進めるために必要とされる課題について（支援者の力量、研修、連携・協働・ネットワーク、プログラムの改善・開発、行政の支援等について）

対象機関		意見内容
公立認可保育所	(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 集団の中でクールダウンする部屋がない、乳児の数が増えていることもあり、予備のスペースが欲しい。 • 保育室の中にトイレがなく、子どものトイレについていくと、保育士の目が他の子どもから離れてしまう。 • 親の相談に対応できるプライベートな個室相談室が必要。 • 園庭の開放は、同年齢の子と遊ぶ機会を持ちたい利用者の希望が多い。親子で集まる場や施設が少ない。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> • 情報の入りやすさが重要。行政、保健センター、支援センターと連携し、気になる情報の提供をしていく。保護者の要望をそのまま受け入れるのではなく、子どもにとって良い方法を選択していくべき。
私立保育園	(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 公立の民営化に対して質が下がるといわれ、公立の1.5倍ほど費用負担があるが、それなりの理念があり運営しており、利用者には満足していただいていると思う。 • 保健センター、子育て支援センター、保健所、子育て支援室等との窓口との連携システムが重要だと思う。 • 市との連携は取れている。子どもに焦点を置くか、親に焦点を置くかで、支援の方向が違って思う。 • 第三者評価のアンケートを保護者に行っている。しかし、回収率は約3割と低い。

対象機関		意見内容
認証保育所	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・認可保育所、認証保育所、家庭福祉員は、費用の問題だけではなく、料金格差をなくして内容で選択させるべきではないか。 ・事業者や子育て家庭のための安定した財源の確保を望む。
私立幼稚園	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害児に対する行政の支援が遅れている。 ・市内の幼稚園はすべて私立。保育園利用に対する家庭への補助はあるが、幼稚園通園に対する家庭への助成金はない。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が進むと、幼稚園への入園者数がこれから減っていく。この幼稚園は小学校と併設だが、これからの経営は大変になると思う。 ・子育てをする人には負担が大きい街なのではないか。高齢化が進み、地域での見守りを町内会が引き受けて住民の負担が大きい様子。高齢者を支えなければいけない、と若い世代が来たいと思える街ではないと思う。
家庭福祉員	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・他の家庭福祉委員と情報交換のため連絡を取り合っている。 ・補助スタッフを短時間で入れ替えながら子どもをみている。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は持ち込みが基本だが、今後提供することになれば、保育がおろそかになるため、調理補助員が必要。 ・家庭福祉員は、救命や防災管理の有資格者が務めてほしい。「保育ママ」や「ファミリーサポートセンター」のレベルではなく、職業として務めている。 ・認知度が低く、レベルが低く見られがちである。待機児童がいなくなるとニーズがなくなるのだろうか。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・常に行政の機関や緊急対応できる機関と連携を持ちたい。ネットワークシステムを構築してほしい。 ・家庭福祉員へのピアリングや巡回をもっと行ってほしい。自分から情報交換の場になかなか出て行けない。
児童館 (学童保育)	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化している。財政的に厳しく、備品の購入などが困難。国や都の支援がもっとあれば、魅力あるプログラムの開発や工夫につながれると思う。 ・学童保育に小学6年までが来られるような場所がない。学校の空き教室もなかなか貸してもらえない。教育委員会や文科省との連携で、教室や校庭も利用できるようなになればよいと思う。 ・おもちゃ病院、科学実験教室、手づくり工作など職員以外の外部からの協力を得ている。
子ども 家庭支援 センター	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の地域間格差が大きい。生活の拠点となる施設にサービスを設けることが必要だと思う。駅前や街の中心部ばかり充実させるのではなく、社会資源の少ない地域にも目を向けた施設やサービスの整備をしてほしい。 ・近くに高齢者関係の施設があるため、お年寄りが子どもに声をかけてくれる機会が非常に多い。 ・不審者情報をメールで知らせるサービスが保育園には設けられていないので、学校や幼稚園と連動したサービスにしてほしい。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を拡張する予定は今のところないが、理想を挙げれば、大きな広場や親がグループ活動を行う部屋等を設けたいと考えている。 ・発育から虐待まで、18歳までの児童に関する相談全般を受け付けている。それが早期発見や未然の防止につながることもある。ファミリーサポートセンターを、他人が家庭に入ることを嫌がって利用しない人もいるが、利用できる機関の告知も含めながら広報していきたい。

対象機関		意見内容
子ども 家庭支援 センター	(3)	<ul style="list-style-type: none"> 以前利用していただいた方がサポーターになってくれるとありがたいが、今度は育児の別の面で苦労されることになるので、協力していただくことは非常に難しい。 アレルギーの子どもへの対策について、トラブルが起きたらすぐに公開してほしい。 個別の相談室がないため、面談をするときは空き教室を利用するしかない。送迎に来ている親に見られるので、人によっては個人情報等を気にすると思う。
障害児施設	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 抱える案件が多いため、児童相談所が虐待を除く入所者のケースに関わらなくなってしまう。入所時から、利用者の将来像を他の関係機関と一緒にイメージしながら、連携できるようにしたい。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 入所から地域へ移行した人のフォローとして、地域に不適應を起こした場合に対応する施設やプログラムを行っている（短期入所の利用など）。しかし、地域サービスは、事業としては赤字。地域に求められて運営している部分もある。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> 加齢児の移行先が不足している。大人の年齢になっている加齢児と障害児が一緒の場にいるのは、支援がとても難しい。そのため、短期入所の場で加齢児は日中を過ごし場所を分けるなど、工夫をしている。
母子相談員	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 経済的な事情から、塾に行けないひとり親家庭の子どもが多い。都による修学資金貸付はあるが、塾通いに対する助成があるとよいと思う。助成は、ひとり親家庭に直接行うことに抵抗がある人がいるので、他の自治体で行っているような、ひとり親家庭の子どもを受け入れている塾に直接助成金が支給されるしくみを検討してもよいと思う。また、市内の大学と連携して、子どもの勉強を支援するしくみができればよいと思う。 精神疾患のある親に対する相談支援体制の整備。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ひとり親に対する支援についての情報をできるだけ集めるようにしている。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> 経済的な不安の解消。国や都の政策による経済的支援はあるが、市としてひとり親家庭に対してどのような支援ができるか。 ひとり親の情緒の安定のために、地域のグループや講習会への参加を勧めている。しかし、就労している時間の関係から、なかなか参加できない人もいる。 精神疾患のある親に対する相談支援体制の整備。医療機関でのカウンセリングは高価で、ひとり親には負担が大きい。無料のカウンセリングを実施している自治体があるとよい。
NPO 団体	(1)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの育つ力を引き出す場所がたくさんあればよい。いろいろな世代がつながることができる場所、学校や学年が別、障害の有無に関わらず交流が図れる場所。いろいろな大人やお兄さんお姉さん、たくさんの人の出会えることが大切。 よいところを見つけてほめてくれる人、ロールモデルとなる人がいてほしい。
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容の情報発信として、自治会ニュースに掲載する。SNSを活用する（ブログ、Facebook）。
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> 子どものたまり場が、他の場所にもあるとよい。 スタッフの人件費の確保。活動の賛同者から寄付を集めている。子どもが参加の中心なので、利用者からの参加費は徴収できない。

対象機関		意見内容
保育問題 連絡会	(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 国立市は公園が多い一方、子ども関係の施設が少ない。 • 親と子どもが交流を持てる場所を充実してほしい。 • 子ども家庭支援センターは規模が小さく、子ども用の部屋しか設けられていないので、ずっと親が面倒をみていなければならない。住んでいる場所から遠いため通えない人もいる。 • 児童館を利用する子どもが増えて、一般の利用ができない状態にある。また、児童館で行われていた行事（お別れ会等）がなくなってしまった。 • 泉地区では児童館や支援センターが近くになく、市民プラザの空いた場所に子どもが集まることが多い。 • 小学校でも校庭の開放が行われているが、登録制のため使い勝手がよくない。 • 学童保育と幼稚園が提携することはできないか。 • 他区では専属の保育士が付いて「広場開放」を行っているので、そのしくみを取り入れれば子どもの過ごす場所が増えるのではないか。
私立幼稚園 PTA連合会	(1)	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもが身近でのびのびと遊べる環境。 • 子どもの安全を守る体制の整備。市からの不審者情報メールは、小学生の子どもを持つ親のみに配信されている。未就学児のいる親にも配信をしてほしい。情報メールの存在を知らない親もいる。多くの人に利用してもらえるような工夫が必要。 • 保育園と違い、幼稚園を通園先に選んでいるからこそ、親と子がじっくり関わることがある。子どもが小さい時期だからこそ、子どもにゆっくり向き合える時間は必要。 • 幼稚園と保育園での子どもの過ごし方の違いや、園児を持つ親がどのようにしているか、現状を知ってほしい。 • くにっこバスは市内で通っていないところがあり、ルート拡充を望む。

資料編

資料編

1 「子ども・子育て支援事業に関するニーズ調査票」の見本

■就学前児童の保護者用

就学前児童の保護者の方へ

子ども・子育て支援事業に関する ニーズ調査票

【ご記入にあたってのお願い】

- アンケートには、お子さんの保護者の方が記入してください。
(無記名ですので、氏名・住所の記入の必要はありません)
- ご回答は、選択肢に○をつけてお選びいただく場合と、数字などを記入していただく場合があります。
- 質問によって、「あてはまる番号1つに○」「あてはまる番号すべてに○」など、回答数を指定している場合は、指定の範囲内で○をつけてください。
また、「その他」をお選びいただいた場合、その欄にある()内には、具体的な内容を記入してください。
- 数字で時間(時刻)をご記入いただく場合は、24時間制(例：午後6時～18時)で記入してください。
- 設問のご回答によって、次の設問に回答していただく必要がなくなる場合がありますので、ご回答が完了後、指定の範囲内で○をつけてください。特にご回答のない場合は次の設問にお進みください。
- ご記入が済みましたら、お手数ですが同封の返信用封筒に入れて、11月15日(金)までにご投函ください。

ご回答いただく上でご不明な点、調査に関するお問い合わせは、下記までお願い致します。
国立市 子ども家庭部 児童青少年課 保育・幼稚園係 電話 042-576-2111(内線 139)

調査実施の趣旨とその目的

昨年成立しました子ども・子育て支援法(平成24年法律第65号)が平成27年から施行されます。この法律に基づき、全ての市町村において子ども・子育て支援の計画の策定が義務付けられています。本市でも子ども・子育て支援計画策定のため、子ども・子育てに関する調査を実施します。

この調査は、子ども・子育て支援計画で確保を図るべき教育・保育・子育て支援の「これから必要な量」を算出し、また、各種の教育・保育・子育て支援に関する「現在の利用状況」や「今後の利用希望」を把握するための、市内在住の0歳児から5歳児のいる世帯から、約1,800世帯を無作為に抽出しています。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理し、事業者や公募市民、学識経験者の参加する国立市子ども総合計画審議会と分析し、国立市の子ども・子育て施策づくりの重要な資料として使わせていただきます。また、個々のご回答やプライバシーに関わる内容が公表されることは一切ありません。

また、この制度は、以下のような考え方に基づいています。

- 子ども・子育て支援新制度は、急速な少子化の進行、家庭・地域を取り巻く環境の変化に対応して、子どもや保護者に必要な支援を行い、一人ひとりの子どもが健やかに成長することができる社会を実現することを目的としています。
- 子どもの成長においては、乳児期におけるしっかりとした愛着形成を基礎とした情緒の安定や他者への信頼感の醸成、幼児期における他者との関わりや基本的な生きる力の獲得、学童期における心身の健全な発達を通じて、一人ひとりがかけがえのない個性ある存在として認められるとともに、自己肯定感を持って育まれることが重要で、子ども・子育て支援新制度は、社会全体の責任として、そのような環境を整備することを目指しています。
- 子ども・子育て支援は、以上のような考え方をともに、保護者には子育てについての第一義的責任があることを前提としつつ、保護者が子育てについての責任を果たすことや、子育ての権利を享受することが可能となるような支援を行うものです。
地域や社会が保護者に寄り添い、子育てに対する負担や不安、孤立感を和らげることを通じて、保護者が自己肯定感を持ちながら子どもと向き合える環境を整え、親としての成長を支援し、子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じることができるような支援を目指しています。

1

いただいた回答は地域の子育て支援の充実に生かされます

市町村子ども・子育て支援事業計画(5年戦略)

幼児期の学校教育・保育や地域の子育て支援について「誰の抱えか(親の負担軽減・利用促進)」・「確保方策(確保の内容・実施時期)」を記載

幼稚園、保育所、認定こども園
小規模保育、家庭内保育等
放課後児童クラブ、地域子育て支援拠点、一時預かり、病児・病後児保育等

計画に基づいて実施

調査等によって把握された利用実態等を整理して、今後の計画を策定

調査票を送付
調査票を送付
調査票を送付

子育て支援
子育て支援
子育て支援

地方版子ども・子育て会議等

(用語の定義)
この調査票における用語の定義は以下のとおり

幼稚園：学校教育法に定める、3～5歳児に対して学校教育を行う施設(学校教育法第22条)

保育所：児童福祉法に定める、保育を必要とする0～5歳児に対して保育を行う施設(児童福祉法第39条)

学童保育所：児童福祉法に定める、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学校に就学している児童(放課後児童)に対して、授業の終了後に児童館等を利用して適切な遊び及び生活の場を支える施設(児童福祉法第6条の2第2項)

認定こども園：幼稚園と保育所の機能を併せ持つ施設(就学する子どものための教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第2条第6項)

子育て：教育・保育その他の子どもの健やかな成長のために行われる支援

教育：問14までにおいては家庭教育を含めた広い意味、問15以降においては幼児期の学校における教育の意味で用いています

2

お住まいの地域についてうかがいます。

問1 お住まいの地区はどちらですか。(あてはまる番号1つに○)

1. 東	2. 中	3. 西	4. 富士見台
5. 北	6. 谷保	7. 青柳	8. 石田
9. 泉	10. 矢川		

封筒の宛名のお子さんご家族の状況についてうかがいます。

問2 宛名のおさんの生年月月をご記入ください。※(□内に数字でご記入ください)

平成 □ □ 年 □ □ 月生まれ

問3 宛名のおさんの兄弟は何人いらっしゃいますか。
※宛名のおさんを含めた人数を□内に数字で記入してください。
※おさんが2人以上の場合は、お数字で一番上の子の生年月月をご記入ください。(□内に数字でご記入ください)

兄弟数 □ 人 生年月月 平成 □ □ 年 □ □ 月生まれ

問4 この調査票にご回答いただく方はどなたですか。宛名のおさんからみた関係でお答えください。(あてはまる番号1つに○)

1. 母親 2. 父親 3. その他()

問5 この調査票に回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。(あてはまる番号1つに○)

1. 配偶者がいる 2. 配偶者がいない

問6 宛名のおさんの子育て(教育を含む)を主にしているのはどなたですか。
※おさんからみた関係でお答えください。(あてはまる番号1つに○)

1. 父母ともに 2. 主に母親 3. 主に父親 4. 主に祖父母 5. その他()

問6-1 宛名のおさんの父、母、祖父母の職業及び近居(概ね30分以内程度に行き来できる範囲)の状況についてお伺いします。職種は宛名のおさんからおみた関係です。(あてはまる番号すべてに○)

1. 父同職 2. 父同職(母の専身赴任) 3. 母同職(父の専身赴任) 4. 父同職(ひとり親家庭)
5. 母同職(ひとり親家庭) 6. 祖父母同職 7. 祖父母近居 8. その他()

問6-2 現在のお住まいは、次のどれにあてはまりますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 持ち家(一戸建て) 2. 分譲マンション
3. 賃貸マンション・アパート・借家 4. 社宅・官舎・寮
5. その他()

問6-3 国立市に住んでどのくらいになりますか。(あてはまる番号1つに○)

1. 1年未満	2. 1年～2年	3. 3年～4年
4. 5年～9年	5. 10年～14年	6. 15年以上

3

宛名のお子さんの育ちをあげる環境についてうかがいます。

問7 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。
※お子さんから見た関係でお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

1. 父母ともに 2. 母親 3. 父親 4. 祖父母 5. 保育所
6. 幼稚園 7. 認定こども園 8. その他（ ）

問8 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）にもっとも影響を与えようと思う環境は何ですか。
（あてはまる番号すべてに○）

1. 家庭 2. 地域 3. 保育所 4. 幼稚園
5. 認定こども園 6. その他（ ）

問9 日頃、宛名のお子さんをもてもらえ親族・知人はいませんか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 定期的に祖父母等の親族にみてもらえる } ⇒ 問9-1へ
2. 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる }
3. 日常的に子どもを預けられる友人・知人がいる } ⇒ 問9-2へ
4. 緊急時もしくは用事の際には子どもをもてもらえ友人・知人がいる }
5. いずれもない ⇒ 問10へ

問9-1 問9で「1」または「2」に○をつけた方にうかがいます。
祖父母等の親族にお子さんをみてもらっている状況についてお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

1. 祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
2. 祖父母等の親族の身体的負担が大き心配である
3. 祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大き心配である
4. 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい
5. 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるが、少し不安がある
6. その他（ ） ⇒ 問10へ

問9-2 問9で「3」または「4」に○をつけた方にうかがいます。
友人・知人に預かってもらっている状況についてお答えください。（あてはまる番号すべてに○）

1. 友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
2. 友人・知人の身体的負担が大き心配である
3. 友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大き心配である
4. 自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい
5. 子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるが、少し不安がある
6. その他（ ）

4

問10 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。（あてはまる番号1つに○）

1. いる/ある ⇒ 問10-1へ 2. いない/ない ⇒ 問11へ

問10-1 問10で「1. いる/ある」に○をつけた方にうかがいます。
お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。
（あてはまる番号すべてに○）

1. 祖父母等の親族 2. 友人や知人
3. 近所の人 4. 子育て支援施設（子ども家庭支援センター・児童館等）
5. 保健センター 6. 保育士
7. 幼稚園教諭 8. 民生委員・児童委員
9. カかりつけの医師 10. 自治体の子育て関連担当窓口
11. その他 【例】ベビーシッター

問11 子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

5

宛名のお子さんの保護者の就労状況についてうかがいます。

問12 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

(1) 母親（あてはまる番号1つに○） ※父家庭の場合は記入不要です

1. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない } ⇒ (1)-1へ
2. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である }
3. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない }
4. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・育休・介護休業中である } ⇒ (2)へ
5. 以前は就労していたが、現在は就労していない }
6. これまで就労したことがない }

6

(1)-1 (1)で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方にうかがいます。
1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（就業時間を含む）」を、口内に数字でご記入ください。
※就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。
※時間は、8時間の場合は「08」、7.5時間の場合は「07.5」のようにお答えください。

1週当たり 日 1日当たり 時間

(1)-2 (1)で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方にうかがいます。
家を出る時刻と帰宅時刻を、口内に数字でご記入ください。
※時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。
※時間は、必ず（例）08時～18時のように、24時間制でお答えください。

家を出る時刻 時 分 帰宅時刻 時 分

(2) 父親（あてはまる番号1つに○） ※母子家庭の場合は記入不要です。

1. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しており、産休・介護休業中ではない } ⇒ (2)-1へ
2. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）で就労しているが、産休・介護休業中である }
3. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しており、産休・介護休業中ではない }
4. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外の就労）で就労しているが、産休・介護休業中である } ⇒ 問14へ
5. 以前は就労していたが、現在は就労していない }
6. これまで就労したことがない }

(2)-1 (2)で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方にうかがいます。
1週当たりの「就労日数」、1日当たりの「就労時間（就業時間を含む）」を、口内に数字でご記入ください。
※就労日数や就労時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。
※時間は、8時間の場合は「08」、7.5時間の場合は「07.5」のようにお答えください。

1週当たり 日 1日当たり 時間

(2)-2 (2)で「1.～4.」(就労している)に○をつけた方にうかがいます。
家を出る時刻と帰宅時刻を、口内に数字でご記入ください。
※時間が一定でない場合は、もっとも多いパターンについてお答えください。
※産休・育休・介護休業中の方は、休業に入る前の状況についてお答えください。
※時間は、必ず（例）08時～18時のように、24時間制でお答えください。

家を出る時刻 時 分 帰宅時刻 時 分

6

問13 問12の(1)または(2)で「3. 4.」(パート・アルバイト等で就労している)に○をつけた方にうかがいます。 ⇒ 詳細は別冊14、問14へ

フルタイムへの転換希望はありますか。（あてはまる番号1つに○）

(1) 母親

1. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある
2. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない
3. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望
4. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）をやめて子育てや家事に専念したい

(2) 父親

1. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望があり、実現できる見込みがある
2. フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）への転換希望はあるが、実現できる見込みはない
3. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）の就労を続けることを希望
4. パート・アルバイト等（「フルタイム」以外）をやめて子育てや家事に専念したい

問14 問12の(1)または(2)で「5. 以前は就労していたが、現在は就労していない」または「6. これまで就労したことがない」に○をつけた方にうかがいます。 ⇒ 詳細は別冊14、問14へ
就労したいという希望はありますか。（あてはまる番号・丸数字をそれぞれ1つに○）
※該当する口内には数字をご記入ください。

(1) 母親

1. 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
2. 1年より先、一番下の子どもが 歳になったころに就労したい
3. すぐにも、もしくは1年以内に就労したい
→希望する就労形態

① フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）
② パートタイム・アルバイト等（①以外）
→1週当たり 日 1日当たり 時間

(2) 父親

1. 子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）
2. 1年より先、一番下の子どもが 歳になったころに就労したい
3. すぐにも、もしくは1年以内に就労したい
→希望する就労形態

① フルタイム（1週5日程度・1日8時間程度の就労）
② パートタイム・アルバイト等（①以外）
→1週当たり 日 1日当たり 時間

7